激江

DENKO



'96

大阪経済大学同窓会

母校のキャンパスに ニューフェイス誕生

1997年の3月に大樟ホール、9月にG館が完成の予定です。
母校の新しい顔となる2つの建物にご期待ください。



G館完成予想パース　　1996年8月着工、1997年9月末竣工予定。



大樟ホール完成予想パース　　1996年6月着工、1997年3月竣工予定。

※関連記事を65ページに掲載しております。合わせてご覧ください。

1996 No.32

グラビア
母校のキャンパスにニューフェイス誕生 平成8年度同窓会総会ほか……1
巻頭言
高度情報化社会を担う大学教育、母校から発信
磯野　齊氏……2
特集　公開講座
「心のふるさと　我が母校」
人生の師となり母校の教壇に立つ……3
井阪健一氏／田淵栄次氏／野尻忠正氏
本部だより……4
会長あいさつ／理事長あいさつ／学長あいさつ／総会／理事会／全国支部長会……17
支部だより……23
話題の同窓生（重松　尚氏）……25
話題の同窓生（奥間　宏氏）……32
平成8年度支部総会開催一覧……33
同窓会支部長一覧……34
OBネットワーク……35
ホットインタビュー
岩崎正弘氏／逸見　啓氏／植木英治氏／渕上清二氏……46
ブックギャラリー……48
訃報……50
北から南から……52
学園だより
学園ニュース　―入試／就職　ほか―……60
キャンパスライフ　―〝社会人〟キャンパスを行く―……66
ゼミ短信・先生の近況……70
お知らせ　事務局……80

表紙油彩紹介



西丸　全一
（にしまる・ぜんいち）

1929年5月28日、大阪市平野区に生まれる。1947年に大阪府立生野中学校（旧制）を卒業。1952年に大阪経済大学経済学部卒業、翌年、大信紡績㈱に入社。同時に愛知県半田市に居を移す。1964年に大信紡績の職域生協・大信生活協同組合に常務理事として出向するが、1974年、大信紡績、大信生活協同組合の解散により退職。翌年、愛知中央生活協同組合の理事に就任し、1977年には同組合の理事長に就任。併せて、1972年より、愛知県生活協同組合連合会の理事、監事を歴任する。1991年、全職を退任し、現在に至る。

中学時代より絵をはじめ、社会人となってからも職務の合間を縫ってアマチュアとして創作活動を続けていた。現在は、絵を楽しむアマチュアのための全国的な会の「チャーチル会」の仲間であり、また「チャーチル会半田」の幹事長に就いている。



『澱江』の由来

題字：渡辺達好名誉会長

初代校長・黒正巖博士が作詞された旧制・昭和高商の校歌（現在の学園歌）の歌詞「商都の東北澱江に臨みて高くそそり立つ　我等が昭和学園は…」から引用された言葉です。
ちなみに岩波漢語辞典によれば、【澱江】大阪の淀川。澱水（でんすい）、澱河（でんが）。「淀」は「澱（でん）」に通ずる。と記載されています。

巻頭言

PROFILE



磯野　齊

昭和25年母校の同窓会再建に加わられ、一昨年まで長年会長職を勤め母校の充実発展に寄与された(現同窓会常任相談役)。また、税理士大樽会生みの親、初代会長も勤められた。

高度情報化社会を担う大学教育、母校から発信。

マルチメディアが社会生活のすみずみに浸透し始めた

あと4年で二十世紀は幕を降ろし、二十一世紀の幕開けです。

通信技術、通信衛星等情報通信産業の進歩発展は、高度情報化社会の実現拡大を促進して、いよいよ本格的マルチメディア時代を迎えようとしています。

近年コンピュータの企業ビジネスのみならず市民生活に与えた急速な変革は、予想を遥かに超えるスピードで、社会生活のあらゆる分野において、決定的役割を果たしつつあります。預金者に対する入出金サービス業務として始めた銀行のインターネットバンキングや最近連日のように新聞紙上を騒がした0157について、担当医師がパソコンによる情報交換で治療効果をあげた情報など、いよいよメディアとしてのパソコン時代の到来です。

高度情報化社会をリードする人材育成を！母校よ目指せ

母校大阪経済大学は、早くから時代の趨勢に着眼し、経済学、経営学両学部に加えて経営情報学科の増設を申請していましたが認可されると間もなく91年、MIC館の完成に次いで自負するに足る教授陣を得て、350台のパソコンのほか万般の準備を整え、経営学、会計学、情報工学の三教科を網羅した近代会計学教育を開始しました。昨年、第一回卒業生を世に送りましたので、各業界において、その活躍が期待されています。日を追って、技術的革新がすすむ中で本学は社会人教育にも力を注ぎ、92年から引き続きサマースクール[社会人のためのコンピュータ講座]を開講していますが、本年は特にタイミング良く〝インターネットで何ができるのか〟を題材にし、聴講者が待ち望んだ講座だったので大変好評を博したようです。経大の特性を一つでも多くするために、経済学や経営学を専門に学ぶ学生にも、将来の社会生活を考慮して、少なくともコンピュータの基礎知識だけは必修科目として修得させて欲しいものです。

平成8年度 ●大阪経済大学同窓会総会● 11月3日



会長、理事長、学長による鏡開き



筒井英夫(11)前豊中支部長に感謝状贈呈



松川圭一(15)先輩の指揮で逍遥歌を斉唱



嶋原正孝(24)前北九州支部長に感謝状贈呈

●大阪経済大学同窓会福井支部 創立30周年記念式典・記念パーティー支部総会●



特集　公開講座

人生の師となり母校の教壇に立つ

母校では経済をはじめ政治、文化など一般市民も広く受講できる公開講座を主催しています。
毎回、それぞれの分野で尽力を注ぐ識者を迎え、日本に山積する問題をともに考えていく公開講座には、
学生や一般の方などさまざまな人が参加。そして、講師の中には同窓の顔もあります。
そこで、今年30周年を迎える福井支部主催の記念公開講座・経済セミナーと母校主催・経済学特殊講義を臨き、
母校や社会で学び培った知識と経験を、今度は後輩や市民に教授していく同窓の姿を特集しました。



心のふるさと、我が母校
現世の利害を越えた心の故郷
立ち戻って英気を養う心の基地
貴重な青春時代の思い出の場
人生の師や友人との出会いの場

福井支部創立30周年記念経済セミナー
テーマ：「日本経済と証券市場」
講　師：井阪健一氏(19)〈東京証券取引所副理事長〉

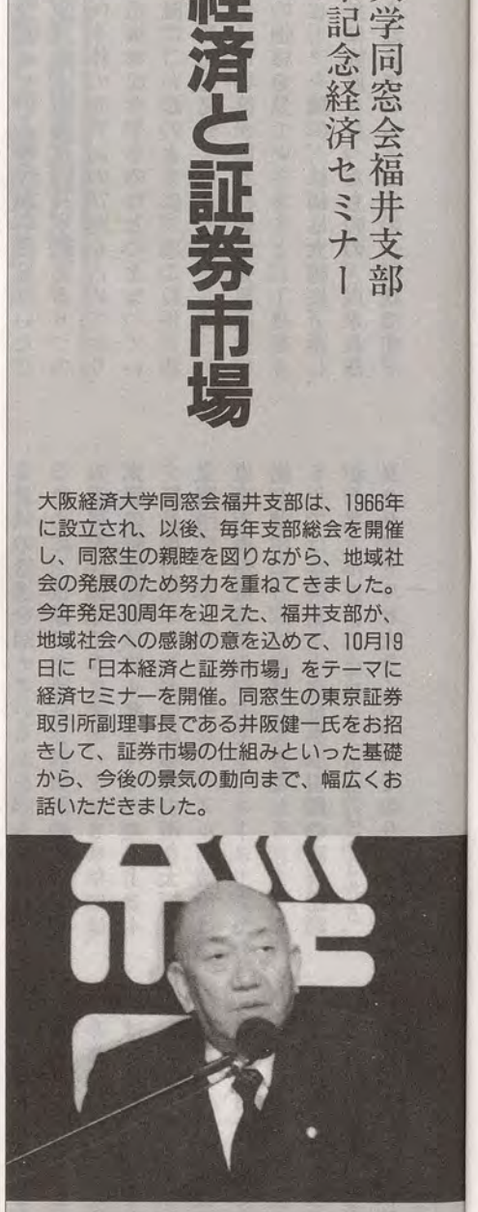
大阪経済大学・経済学特殊講義
テーマ：「経済の高度化と地方分権」
講　師：田淵栄次氏(21)〈神戸市道路公社理事長・前神戸市助役〉
講義テーマ：「阪神淡路大震災と自治体行政」

講　師：野尻忠正氏(19)〈十津川村村長〉
講義テーマ：「親切な村づくり」

大阪経済大学同窓会福井支部
創立30周年記念経済セミナー

日本経済と証券市場

大阪経済大学同窓会福井支部は、1966年に設立され、以後、毎年支部総会を開催し、同窓生の親睦を図りながら、地域社会の発展のため努力を重ねてきました。今年発足30周年を迎えた、福井支部が、地域社会への感謝の意を込めて、10月19日に「日本経済と証券市場」をテーマに経済セミナーを開催。同窓生の東京証券取引所副理事長である井阪健一氏をお招きして、証券市場の仕組みといった基礎から、今後の景気の動向まで、幅広くお話いただきました。



講師　**井阪　健一氏（19）**
〈東京証券取引所副理事長〉

1931年三重県出身。1953年に本学経済学部を卒業。同年、野村證券（株）に入社以来、株式部長、取締役副社長を歴任。1983年、野村證券投資信託委託（株）社長、1990年、同社会長に就任。1991年、証券投資信託協会会長。1993年、東京証券取引所副理事長に就任、現在に至る。

経済社会における証券市場の役割

この度は、大阪経済大学同窓会福井支部、創立30周年おめでとうございます。また、本日は、このようなセミナーの場にお招きいただきまして誠にありがとうございます。

さて、今回の講演は、テーマとして「日本経済と証券市場」というタイトルが付けられていますが、最初に、現在の経済社会において、証券市場というものが、どういう役割を果たしているかということをお話させていただきたいと思います。

なお、今回お話するなかで、意見にわたる部分についてはあくまでも私見であることを、あらかじめお断りさせていただきます。

皆さんご存知のように、証券市場というのは、発行市場と流通市場の二つの市場から成り立っています。発行市場というのは、新しく発行される株式や公社債が、発行者から投資家の皆さんに分散されて行く過程、つまり、企業や国などが、株式や公社債を発行することにより、長期資金の調達をする場であります。また、一方で投資家の方々が新たに発行された証券を取得することで、自らの金融資産の運用を図る場でもあります。流通市場というのは、既に発行された株式や公社債が、投資家の間で売買される過程、つまり、投資家の方々が所有する証券を売却して、投資資金を回収する場であります。したがいまして、投資家の方々が安心して投資することが可能になるのです。

さて、流通市場についてもう少し詳しく説明させていただきますと、流通市場は、取引所市場と店頭市場に二種類に分けることができます。取引所市場というのは、高度に組織化された有価証券の売買市場であります。例えば、株式を買いたい、あるいは売りたいという注文が証券会社に出されますと、その注文は即座に証券取引所に集められます。そして、買い注文の場合には価格の高いものが優先され、売り注文の場合には価格の低いものが優先されるという価格優先の原則及び時間優先の原則に基づいて公平に売買されます。このように、市場集中の原則に基づき投資家の需給が証券取引所に集中し、そこで幅広く投合されることにより、取引所で成立した証券の価格は、公正かつ透明性のあるものとなります。そして、そこで決定された株価は、すぐにテレビやラジオで放送され、新聞にも掲載されることにより公表されるということになります。このようなマーケットが取引所

市場です。一方、店頭市場は、取引所市場とは異なり、一定の集合場所を有しない売買形態をとっており、証券会社の店頭へ注文を出すと、証券会社が売買の引き合いをするというシステムになっています。なお、取引所市場及び店頭市場の規模を比較してみますと、主要企業の多くが取引所に上場されているということもありまして、取引所市場が圧倒的に多くの売買量を占めているのが現状です。

証券取引所における取引は、非常に多数の投資家からの需要が集中するのが特徴です。しかも売買が迅速かつ公平に行われます。すなわち、公平な株価で取引され、その株価はすぐに公表され、財産評価の基準となります。また、その株価は、社会的な影響力を持つようになり、例えば景気のバロメーターとして、景気の先行指標とされております。

東京株式市場の動向

では、ここ数年の東京株式市場が、どのような動きを見せているかを説明させていただきます。東京株式市場は、日本にある8つの証券取引所全体の売買高の76％を占めており、世界でも三大マーケットのひとつとなっていますが、既にご存じのように、ここ数年、非常に大きな変化を見せています。

まず、東証市場第一部の株価、売買高及び売買代金の推移を見ていきますと、1988～89年のピークを境に、株価は大幅に下落し、1992年に底値を打ったものの、以来長期の低迷期を迎えているというのが現状です。

また、ピーク時の売買状況を見ますと、1988年は株式の1日平均売買代金が1兆246億円、1日平均売買高は10億2,000万株に及び、翌1989年には1日平均売買代金が1兆3,085億円、1日の平均売買高は8億7,600万株というように活発な伸びを示していました。しかし、バブル崩壊後は減少の一途をたどり、1992年には1日平均売買代金で2,383億円、1日平均売買高は2億6,400万株となり、株価も最高値である1989年12月29日の3万8,915円から1992年8月18日の1万4,309円まで63％の下落率を記録しています。

今年に入ってからは（1996年1～8月現在）、1日平均売買代金が4,224億円、1日平均売買高が4億2,700万株あたりを維持しており、最悪期は過ぎているとはいえますが、まだ、はっきりした見通しが立っていないこともあり、株価の水準もまだ低く、売買代金や売買高もピーク時の約3分の1前後という状況です。また、日本がどれほど長く景気の低迷を迎えているかを浮き彫りにするために、世界の主要証券取引所の時価総額の推移を比較してみますと、1989年には、東証の時価総額は約4兆ドルで、ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所を大幅に上回っていました。しかし、バブル崩壊後は、東京市場が低迷する一方で、ニューヨーク市場が非常に好調に推移してきており、1995年ではニューヨーク証券取引所の時価総額が6兆ドル近いのに対し、東証は約3兆5,000億ドルと大きく下回っており、また、ロンドン証券取引所にも差を詰められている、というのが現状です。

次に、所有者別持株比率を見てみますと、個人投資家の持株比率が非常に低くなっていることが分かります。1950年当時は、個人投資家の持株比率が70％近くありましたが、その後は減少を続け、1975年には34％ぐらいにまで下がり、このあたりで銀行や保険会社などの金融機関の持株比率と並ぶようになりました。そして1995年には23・6％となり、40％近い金融機関とは逆に減少の一途をたどっています。では、なぜこのように個人投資家の参加が減少してきたのかということを考えてみますと、株式投資ではなく、定期性預金などで金融資産の運用を行う個人が増えているということが現状としてあるわけです。では、なぜ個人投資家が証券市場から離れているのかというと、別に個人の金融資産がなくなったというわけではなく、株式に投資魅力がないという見方があるとか、株式投資に対するイメージが必ずしも良くないというようなこともその一因として考えられます。これは私ども証券界で働く者としても非常に反省しており、今後変えていかなければならないことであると受け止めています。

しかし、一方で、これにはかなりの誤解があるというのも事実でありまして、有価証券を保有するということは、社会の発展、企業の発展とともに、キャピタルゲインとしての価値が出てくるものであることを示していかなければいけないと考えています。たとえば、株式については、銘柄によって差はありま

人生の師となり母校の教壇に立つ

が、長期に保有すれば、銀行預金や長期債券よりも収益率が高いという立証例も多くあるということは、一般の人にはまだ浸透していないというのが現状です。私どもは、株価を適正なものとするためには、多様な投資家の意思決定を株価に反映させることが必要と考えておりますし、個人も含めて幅広い投資家の方々の市場参加を呼びかけています。

東京株式市場を取り巻く経済情勢と今後の注目点

では、これからの経済、景気はどのように変わっていくのでしょうか。その前にまず、株式相場が活発に推移する過程、いわゆる上昇相場の基本的な形態について、ご説明したいと思います。

通常、景気が悪くなると、景気を良くしようということで、中央銀行、つまり日本銀行が、公定歩合を下げ、低金利政策をとるようになります。そうすると、企業は銀行からお金を借りて、その資金を事業に投下して利益を得ようとして、さまざまな企業行動に出てきます。一方では、銀行に預けるよりも有価証券を買った方が利回りがいいのではないかということで、株式市場にも資金が流れるようになります。相場が上昇してくる場合、このような低金利政策による企業や投資家の動きが、まず助走として出てきます。そして、低金利だけではこれ以上上昇しないというところまで相場が上昇したところで、次に企業業績がようやく表面的に現れ、株価が次の上昇ステップへ移っていくというのが、上昇相場の基本パターンであるといわれています。

そして、金利低下が続いている間の上昇相場は金融相場と呼ばれ、企業業績が非常によくなって株価が非常に活況を呈してくる状況は業績相場と呼ばれています。

現在の状況は、金融相場が最終局面に入り、次の業績相場に入るかどうかを値踏みしている踊り場の段階にさしかかっているのではないだろうかと思われます。企業業績が好転するということがはっきり見えてくると、公定歩合が引き上げられる可能性も出てきます。今の公定歩合は極端に低く、日本の証券市場が始まって以来の最低水準です。低金利があまり長く続くと、年金の運用益があがらなくなったり、老後のための貯金をしている方の所得が目減りしていきますから、このことは国民経済にとって必ずしもいいことばかりではありません。景気好転のための金融政策を行うのですから、今のような状態が長く続くと悪い副作用が出てくるのではないかという見方もあり、今はむしろそういう状況が散見されるようになっています。したがって、もうこれ以上は低金利だけではどうにもできない段階であり、金融相場の最終局面へきているという捉え方もされています。しかし、一方では、企業業績もいまひとつはっきりしないというのが、相場の現状であるといえるでしょう。

それでは、今後、業績相場に入っていけるかどうかを点検する材料を、東京株式市場を取り巻く経済情勢を通して、お話してみたいと思います。まず、GDP（国内総生産）の成長率と株価は非常に強い相関関係にあり、そのデータから判断すると、1997年の第1四半期以降に、業績相場に入っていくのではないかという、統計上の予測が立てられています。また、コンドラチェフの波（経済学者コンドラチェフが唱えた、大幅な技術革新によって景気が長いサイクルで変動するという景気の法則性）に照らし合わせてみても、大きな業績を上げる前の設備投資の時代が、現在の金融相場であると考えれば、業績相場に入る準備は整いつつあるともいわれていますし、実際、企業の設備投資は年々伸びつつあるという、調査結果もあります。さらにそれを裏付けるように、アメリカでは自動車、



人生の師となり母校の教壇に立つ

航空機の実用化に向けた1920年代の設備投資に匹敵するようなことが、半導体、コンピュータなどの通信産業で行われて実を結びつつあり、日本でもその兆候が見られるようになっています。このところニューヨーク市場がにぎわっているのも、この影響かと考えられます。

また、企業の利益水準の推移をみてみますと、損益分岐点が下がってきているといわれており、売上が伸びなくても、利益率が上がってきているということも、業績相場への準備が整ってきたかどうかの重要な判断材料になっています。

では、不動産はどうでしょうか。バブル時代のマイナスイメージも、そろそろ払しょくされてきたのではないかと思いますが、実際、不動産の価格は、採算ラインまで下落してきているといわれています。土地を購入し、物件を建て、貸しビル業を行っても、十分採算が取れるようになっているということです。しかし、土地が流動化し、不動産業界に活況をもたらすには、例えば、固定資産税を減らす、不動産所得税を減らすなど、政府の対策が必要です。今は、衆議院の解散総選挙を目前に控え、これからどのような政策がとられるかを見守らなければなりませんが、不動産の面から見ても、業績相場の入り口に立っているということはいえるのではないでしょうか。

次に、円とドルの関係を見てみますと、ここ数年は、一貫した円高ドル安の傾向に偏っていました。しかし、昨年の4月に円高のピークを迎えた後は、徐々に円安に向かっており、しばらくは円安の方向で進むものと思われます。そうなると、輸出企業にとっては、大きなプラスとなり、この点も業績相場に入る要因になるといえます。

一方、株式の投資価値について、東証一部上場企業である東芝の株価を例に見てみますと、9月末現在で1株766円、配当利回りが1・30%となっております。さらに、東証全銘柄の平均配当利回りを見ても、0・71%となっており、これは、銀行などの1年定期預金の0・38%を大きく上回っています。このように株式の配当の短期利回りが、金融利回りを大幅に上回ったのは、昭和40年代のオイルショック不況以来であり、言い換えれば、非常に投資家が投資しやすい利回りの水準にあります。

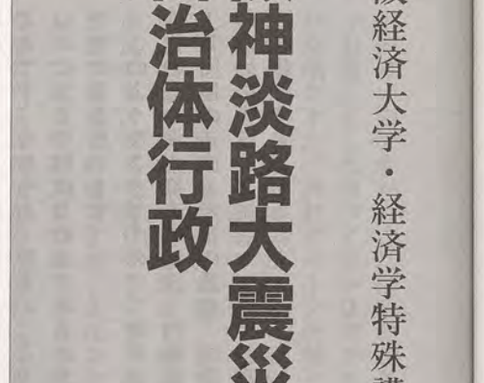
では、最後に戦後50年の株式市場と政治の関連性について見てみます。まず、日経平均の推移を見てみますと、だいたい日本は10年単位で日経平均が5倍ぐらいの上昇を繰り返してきています。そして、5倍ぐらいに達すると、経済を調整する期間が1～2年あり、その後は再び上昇するというパターンを、昭和20年代以降から繰り返しています。このパターンには政府による経済政策が密接に関連しており、例えば、昭和20年代ならば、吉田茂首相の自立経済、昭和30年代は鳩山一郎、岸信介両首相などの高度成長経済、昭和40年代は佐藤栄作、田中角栄両首相の国際経済化路線、昭和50年代に入りますと技術立国、そして昭和50年代後半の中曽根康弘、竹下登両首相の債権国内需主導経済など、政治家の指導の下で成長を続けてきました。しかし、平成に入りまして、政治家の指導力が低下し、日本経済の展望が開けないという状態が長く続いていると感じていらっしゃる方々も多いのではないでしょうか。最近の経済政策を見ると、バブル崩壊の中で、公定歩合の引き下げを9回も行い、景気対策として合わせて6回、約67兆円もの財政資金の投入を行っていますが、効果が上がっているとはいえません。これは、古典的、対症療法的な政策しか打たれていないからではないかと考えられます。ところが、そういう対策も続けられない状態になってきており、金利はもうこれ以上下げられないところまできていますし、財政資金の投入も限界にきているのが現状ではないでしょうか。では、ここで具体的に何をすればいいのかというと、税制等の制度改革に真剣に取り組むことや、規制緩和を推進していくことが挙げられます。規制緩和によって、かなり大きな経済の活性化が図られると考えられ、実際のデータを見ても、経済企画庁が9月に発表した試算によると、これまでの規制緩和で約8兆円の需要が生じているということです。

最後になりますが、先程から申しておりますように、現在は金融相場の最終段階であり、業績相場への入り口に立っていると思われます。今後、政治家がリーダーシップを発揮し、効果的な経済政策がとられるならば、株式相場が、業績相場に入っていくことが大いに期待されるのではないでしょうか。

阪神淡路大震災と自治体行政

大阪経済大学・経済学特殊講義

1995年1月の震災は人々の心にまだ鮮明に残っています。当時の新聞では毎日のように住民の人たちのようすや街の復興状況が報道されていました。しかし、その中では行政が震災直後どのように動き、あるいは住民生活と神戸市の再建にどう対処し、どんな苦労をしたかはあまり語られていませんでした。そこで、母校では9月18日の経済学特殊講義に、震災のまっただ中に立ち、最も重要なポストについておられた前神戸市助役をお招きし、行政から見た震災をお話していただきました。



講師　**田淵　栄次氏（21）**

〈神戸市道路公社理事長・前神戸市助役〉

1955年本学経済学部を卒業。1955年神戸市に勤務。以来一環して神戸市の住民のために尽くし、震災時に当たっては住民たちの間にたち、また、中央政府との間にたち、神戸市の復興に多大な尽力を注いだ。1995年神戸市道路公社理事長に就任。

株式会社神戸市

神戸市は港によって発展してきた街です。130年の歴史をもちます。明治、大正時代は、横浜とともに、国際貿易都市として躍進的な成長を遂げ、街にはさまざまな国の人々や物が行き来していました。しかし、現在は人は飛行機で移動するようになり、港はコンテナによる物流がもっぱら多くなっています。とは言え、神戸には依然としてさまざまな国の人々が暮らし、その数は95カ国にのぼります。この理由を考えてみますと、神戸には外国の人々が日本で暮らすのに便利な生活環境が整っていることがあげられます。中でもとくに外国の子供たちが教育を受けられる施設、学校が多いということです。また、病気になった時にも、カトリック系の病院があり、街の開業医にも会話をはじめ、外国人との折衝に慣れた医師が多く、安心して生活できる基盤があります。さらに、生活するうえで欠かせない、外国人向けの日常品、食料品などを取り揃えているということです。こうしたことがエキゾチックでハイカラなイメージをもつ都市を形成するというと思います。

さて、神戸市役所のことを、マスコミがよく株式会社神戸市とか神戸商会とか称することがあります。苦々しく感じては、喜ばしく感じる面と苦々しく感じる面をあわせもった呼び方であると感じています。喜ばしい面は、いわゆる非能率、不経済の代名詞として呼ばれる「お役所仕事」「親方日の丸」と称されることからみれば、少しは能率よく働き、市民サービスにも努めているという意味においてであります。苦々しく感じるのは、お役所があたかもお金儲けをしているような印象を与えていることです。ところで、神戸市の財政状況はどうかと申しますと、率直に言って非常に貧乏都市であります。過去、ポートピア博、ユニバーシアード神戸大会、フェスピック大会、アーバンリゾートフェアと次々と華やかな行事を実施しました。そして、これらの行事は赤字を出すことなく、おおむね成功であったと思います。職員は市役所が貧乏であることを承知しておりますので、赤字を出せません。創意工夫を凝らして経済性を考え、企業側のメリットも考えながら企業の積極的な参加を求めました。1981年のポートピア博当時は、先進的な発想として多くの企業参加があり、黒字決算を出しております。ロサンゼルスのオリンピックが企業参加で成功したと言われていますが、神戸がすでに先取りしていたと言えます。

このように神戸は華やかに見えますが、実際の経済力は非常に弱いと言うことです。神戸の街の産業を言えば、代表的なものとして神戸製鋼、三菱重工、川崎製鉄、川崎重工の鉄鋼造船業とケミカルシューズ、灘の生一本の酒屋さんがあげられますが、鉄鋼造船は昭

和30年代後半からＮＩＣＳ諸国の追い上げを受け、構造的不況産業となり、さらに、大気汚染等の公害問題もあり、地方に工場移転せざるを得ない状況になり、これらの産業の地方への移転は同時に傘下の下請け工場も一緒に移転するということで神戸の経済に与えた影響は極めて大きなものがあります。

自治体の財政力を計る一つの目安として、財政力指数があります。全国の県庁所在都市47都市の財政力指数でみますと、神戸市は36～37位ということです。

たとえば、市税収入についてお金持ちの大阪市と神戸市を比べてみますと、平成4年度大阪市は人口約２６０万人、神戸市は人口約１５０万人です。大阪市の市税収入は約７、６００億円、神戸市は約３、０００億円で、人口比率でみますと大阪市が神戸市より２、４００億円多いということなります。２、４００億円と言えば２４、０００人の1年間の人件費以上に相当します。立派なドーム型野球場なら４～５カ所は建てられるお金ということです。もちろん、毎年のことですから、いかに大きな財政力の差であるかお分かりいただけると思います。

このようなことですので、神戸市は経済活性化のため海上都市の建設、内陸部における工業団地の造成と産業の誘致、同時に活性化のために先ほどお話したフェア行事を行っているわけです。

災害後の街づくりと区画整理事業

神戸の街づくりの問題ですけれども、神戸は戦後に戦後復興事業（１、７００ｈａ）として大々的な街づくりを実施しました。

第２次世界大戦で全国の多くの都市が戦災にあいましたが、政府は戦後復興事業のための事業手法として区画整理方式で事業を実施しました。この手法は関東大震災の東京の街の復興のために採用された手法ですが、その後も酒田市の大火災等の災害復興などしばしば採用されている方法です。

街づくりの手法としては非常にすぐれた手法でありますが、この手法の中にいわゆる「減歩」ということで、事業を実施したことによって得る利益、すなわち、街が防災的、衛生的、効率的になるという利益ですが、この受益の限度において、区域内の地主から土地を提供してもらうことになります。このことが住民に理解しがたく、物議をかもす原因になっております。

今度の震災におきましても、震災後の復興事業としてこの手法が採用されましたが、やはり、いろいろと物議をかもしております。行政がある地域の街づくりを進める過程で、行政側が先走って詳細な計画（青写真）を説明しますと、どうしても反発が出てきます。地域住民としては、自分たちの街は自分たちで好みに合った街にしたいという思いは当然のことです。たとえば、皆さんが自分の家を建設するのに、その設計に他人（行政側）が、「ここに玄関を」「間取りはこうして」という形で口を出しますと不愉快になるのは当然のことです。街づくりの計画は、そこに住む住民が街を使うわけですから辛抱強く住民の意見を聞くことが絶対の前提条件であり、少し時間はかかっても、急がば回れということで、結局は早く事業を進めることになると思います。行政はあくまでも住民のサポート役という立場に立てば、もう少しスムーズに事業は進むと思います。

神戸の街づくりは、戦後50年、現在もなお戦後復興事業として長々と根気強く進めております。その結果、市街地は東西方向に３本幹線道路（幅36ｍ～50ｍ）を建設し、また、南北にはほぼ５００ｍ間隔に南北の幹線道路（幅18ｍ～30ｍ）を建設しております。このように、幅の広い道路ですので歩道側と中央分離帯に街路樹を植えることができ、日本の大都市としては緑の多い街づくりができていると思います。

もちろん、この幅の広い道路は戦後すぐの昭和21年の計画で、当時のことですから、現在の自動車で街があふれることを想定したものでなく、防災的な見地からのもので、災害に際しては類焼を防ぎ、消防車、救急車が円滑に活動できるとともに避難用の道路としても利用するためのものです。

神戸市の防災対策

神戸の街は緑が多いという感じを持たれる

人生の師となり母校の教壇に立つ

方が多いのですが、これは昭和40年代、先ほどお話しました街づくりがほぼできあがりかけた頃ですが、神戸グリーン作戦と称して、市街地に１００万本の植樹と、公園整備事業を進めたことによるものです。

神戸の自然資源を考える時、まずは、六甲山と須磨の砂浜が考えられますが、いずれも市民のオアシスであり、リゾート地区として、市民の貴重な財産ですが、これらは人の手によって造られた人工の山と人工の砂浜です。今風に言えば環境創造事業による自然と言えます。

実は、六甲山は明治時代まで禿げ山でありました。雨が降れば土砂が流れ出し、非常に危険な山でした。これを防ぐ治山事業として明治の終わり頃に植樹を進め、美しい山になりましたが、現在でも、梅雨どきには土砂崩れが起きます。この美しい山も一方では危険でやっかいな山であります。現在の須磨海岸も昭和40年代に実施した養浜事業で造成された美しい砂浜です。

このようなことで、神戸の防災対策を考える時、なんとしてもこの六甲山のもたらす水害が念頭にあるわけです。過去に昭和13年の阪神大水害（死者、行方不明者５１９名）、昭和39年、昭和42年水害と常に人的物的被害を受けております。そして、不思議なことですが、神戸市には大地震はこないという信じこみがありました。昭和50年代になり、山崎断層、有馬高槻断層等の断層が動く可能性があるということが指摘され、早速、学者等に調査を依頼するとともに専門委員会を設置して検討の結果、地震発生の恐れは充分にあるということで、想定震度を5の強として、昭和61年に地震についても、これを踏まえて地域防災計画を策定いたしております。

今度の地震による教訓と体験を将来に生かすため、多くの自治体が調査、研究し、防災計画の見直しを行っておりますが、神戸市の防災計画の中に、比較的簡単なことでありながら、効果的なことであったと思われるものの一つが、災害の発生時における被災者用の食料提供計画でありました。これは、平常時に市内の企業（コープこうべ、ダイエー）と予め災害発生時に直ちに必要な食料を被災者に提供することができるよう契約を締結しております。契約金額は1億円としており、20万人分の食料に相当しますが、あわせて契約企業には平素から食料の備蓄と生産能力の充実を要請しておりました。そのお陰で今回の震災後、企業の立ち上がりが早く随分と助けられたということです。

しかしながら、当時、避難所には30万人の方々が避難し、さらに、家屋の被害のなかった市民も電気、ガス、水道が止まり、炊事ができずに、食料を求める市民は50万人とも60万人とも言われ、想像を絶する状況でありました。近隣府県の業者に注文しましたが、当時、神戸に通じる道路は国道2号線1本で、大渋滞で食料運搬車は出発しても神戸に到着できない状況で、ヘリコプターの輸送を行い、さらに韓国からの空輸も検討した次第です。いずれにしても不幸中の幸いであったのは、厳寒の時期で食中毒者を出さずにすんだことです。

次に神戸市の防災計画では、災害発生時の職員の出動先は、自宅から最も近い市の事務所・事業所と予め指定していたことです。災害が発生すれば、最も早く活動を始めるのは災害対策本部であり、災害の現場です。とくに多くの人手を要する職場に、できるだけ早く出動させることで防災活動、支援活動を効果的に実施できるということで、すぐれたシステムとされております。

現在、神戸市職員の79％は市内居住者で、21％が市外居住者となっております。都市によっては50％が市外居住者という都市もあり、このシステムが注目されるのですが、行政の素早い対応は防災の初期活動の重要性からも当然のことと言えます。

しかしながら、現実的な問題として、行政が動き出すまでの間、何もなされないと言うわけにはいかないわけですから、神戸市では今回の教訓をもとに、災害時に市民の方々に主体的に防災活動を行っていただくために、



人生の師となり母校の教壇に立つ

小学校区単位に防災コミュニティーを新たに設置することとしております。各地域に防災拠点（小・中学校等）を設けて、消火機材、救命救急用機材、水防機材、食料、医薬品、通信施設等を整備し、初期消火、救命救急活動、避難所の運営など、市民のできる防災活動をお願いし、日頃から研修訓練を実施して、災害に対処しようとするものです。

今後の課題

災害時における都市間の相互支援体制は、現在、消防については各都市がそれぞれに協定を結んでおりますが、今、振り返って思いますのは、支援体制は消防のみでよいのかということです。災害が発生すれば、食料の不足、そして必ず負傷者が出ます。電気、ガス、水道が止まります。とくに人命にかかわる医療について、今回も病院が倒壊し、一般の開業医も被害にあい、被害がなくても器材器具が散乱、さらに、電気、ガス、水道が止まる状況下で、平常に倍する患者を抱えて、一方で医療機能は甚だしく低下するという状況下になります。したがって、被災都市が緊急に必要とするあらゆる面について総合的に検討し、広域的、組織的な相互支援体制を構築する必要があります。第一段階として近畿ブロックで、さらに全国ネットに拡大することを願っております。

また、相互支援の実施に際しては、今回の経験から陸路には限界があります。水路、空路を利用しての計画もあわせて検討しておくべきであります。

さらに、国が対応すべきことですが、とくに大切な負傷者の救援について、災害時に現地付近に派遣できる病院船の建造と、海水を淡水に転換できる設備を有する車輌または船の建造をお願いしたいと思います。ところで、地震は現在の技術で予知は難しいが、予測はできると言うことでおりましたら、地震警報や注意報を出せばパニックが生じ、社会経済活動が停止し、もし地震が起きなければ損害賠償の問題が起きて困るんだ、といった話がありました。これには驚きました。確かに警報、注意報を出せばパニックが起こりかねませんが、しかし、これは予め現在の技術では正確に予知予測ができないということと、技術力の程度なりを充分にＰＲすると同時にパニックを起こさないように国民に自主自律を求めればと思います。危険地区として、地震予知予測装置を整備している東海地方のみならず、日本は地震国でもあり、全国的に考えてもらいたいと願っております。

今度の大震災では、多くの尊い人命を失い、貴重な財産を失いました。当時、行政を担う者の一人として誠に申し訳なく残念に思っております。震災後、マスコミ等いろいろな批判が出されましたが、そうした中で日本人として感動した記事がありますのでご紹介して私の公開講座を終わらせていただきます。

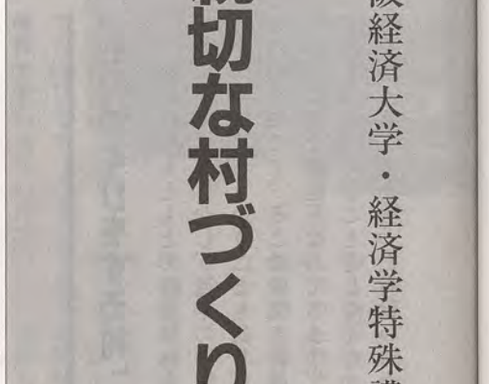
1995年1月25日
クリスチャン、サイエンス、モニター　社説

我々の心と祈りが、神戸の人々へ届けられようとしている。この時に、また、我々は被災地神戸の人たちの勇気と強さと優しさに、強く心を動かされる。家をなくした人々が、乏しい食料を通りかかった人々と分け合い、商店主たちは商品の価格を上げるどころか、困った人々を助けるために安売りをしている。地震で壊れて、無人になった商店からの略奪行為は皆無に近い。数え切れない程多くの人々が被災した人たちを助けようとしている。そして、人々のこうした優しさ思いやりの精神は、外国人にも、そして在日韓国人の人々にも同様にさしのべられている。時が経つにつれ、神戸のビジネスも、交通機関も、完全に修復され、ダメージを受けたビル群も立派に再建されるであろう。しかし、この神戸の地に育まれ、息づいてきた人々の崇高な精神は、この大地震によっても壊されることなく、しっかりと生き続けていることを、我々は自らの心に銘記しておくべきである。

大阪経済大学・経済学特殊講義

親切な村づくり

十津川村は奈良県の最南端に位置する日本で一番大きな村です。大阪市の約3.5倍あり、人口は5000数百人。奥深い山と渓谷に包まれた秘境です。今、ここでは「日本一親切な村づくり」を合言葉に新しい村づくりが進められています。10月2日の経済学特殊講義では、同窓生でもある十津川村村長をお招きし、現代人の生活を見直し、お金や物で手に入れるのではない、心の豊かさを求める村づくりの現場をお話していただきました。



講師　**野尻　忠正氏（19）**
〈十津川村村長〉

1930年生まれ。1953年に本学経済学部を卒業。1953年奈良交通株式会社入社。以後奈良の地域発展に尽力を注ぎ、1986年に奈良交通株式会社の代表取締役副社長に就任。1993年、「日本一親切で豊かな村を」を合言葉に故郷の十津川村村長に就任。

帰りなむ。いざ、ふるさとへ。

私は本学を卒業して、奈良交通株式会社に入りました。そこで40年勤めましたが、この会社は奈良県で唯一のバス会社です。奈良県の交通の一役をかう、社会的に重要な仕事をする会社です。ちょうど私が入社した頃はいわゆる労働争議が吹き荒れていました。三井・三池の炭坑争議というような非常に長く厳しい労働運動が展開されていました。全国的にも私鉄がストライキで荒れていました。それはインフレが進み経済が停滞をし、賃金が上がらない、というようなことでありましたが、そのまっただ中で私も組合運動に参加しており、労働組合の書記長を務めておりました。その時、自分たちの役割は一体何だと考え、大会で「私たちは県民の足を守る労働者であります」というスローガンを掲げました。これについて組合員からそれはどういうことだという話がもち上がりました。これはストライキをしないということです。バスを止めることで病院に行きたいお年寄りなどが病院にいけなくなる。だから、ストライキをしないで話し合いをしながら労働条件を向上させよう。当時そういう議論をしたら、組合の幹部からおしかりを受けました。しかし、人それぞれの考え方、その地域の考え方があり、我々の役割が大事と考えてその意志を押し通し、今日も奈良交通という会社は、一回もストライキなしに、労使間で話し合いによる交渉をし、労働条件の向上をはかっております。このようなことをしながら、私はバスが活性化をする全盛期の奈良交通を過ごしました。それから時が経ちバスが落ち目になっていく奈良交通もみてまいりました。自家用車等の台頭で収益は後退し、バス機能低下という問題が生じ、そんな中で働いてきました。バス活性化のためにどう働きかけたかは、奈良の学園前駅を見てもらいましたら分かると思いますが、朝のラッシュ時には他の乗用車は一切駅に入れず全部バスで輸送する。だから、36秒に1台のバスが駅へ入ってくるようになっています。また、傘をささずに降りても雨に濡れないように屋根を設置する。さらに、バスの扉を3つ設けいっぺんに素早い乗降ができる設備を整えております。

今、故郷の十津川村においても、バスはいろんな機能を持っています。ただ単にお客さんに乗っていただくだけではなく、スクールバスの運行をはじめいろいろな役割を果たしています。私はバスの運行を通して地域への愛着を感じました。交通という仕事に携わりながら、副社長という仕事があったのですが、人生の後半を故郷に帰って故郷のために働こうという思いにいたりました。故郷に帰って、日本一親切な村づくりをしたい、と思ったのです。その一番の理由は、高度経済成長は、非常に日本を豊かにしましたが、その間にいろいろともの考え方も、随分変わってまいりました。豊かになれば自分さえよければよ

いというような思想がだんだん出てくるのは当然です。私の故郷でも、厳しい自然条件の中でみんながそれぞれ協調して生きてきたのが、だんだん豊かになると自分で一人歩きできるように思い勝手に動き出して、だんだんおかしくなってきました。たとえば集落の周辺に草が生えていて、何回かみんな総出で草刈りをする。そのうちに「うちは草刈りに出ていたけれど、お金さえ払っておけば出て行かなくてもいいだろう」というようなことになってくる。そうなるとわずかな人間で草刈りをしなくちゃならない。そして、だんだんと村の秩序維持というのが難しくなります。奈良県全体でもこんなことをあちこちで見てきました。人間の本当の大事な生き方というのは、一人で生きていくというのではなく、人間自身が互いに、大勢でぶつかりながら生きていくこと。そこを工夫しなければならない。それがいわゆる知恵ではないかということに思いが達し、日本一親切な村づくり、これでいこうと思い、故郷に帰ろうと決心したわけです。

「ものづくりをする村」を。

十津川村のもともとの産業は林業で、村の97％が山です。しかし、近年の不況と共に外材が入ってくるということもあり、林業そのものが不振です。そこで産業を新興するというのは大事な課題となってきます。私はかねがねものをつくることをしなくなった国、ものをつくることを失った村はいつかは崩壊へ

の危機にさらされると考えています。ものをつくるということが人間の知恵をつくりあげ、人が発展していくことにつながるのです。今、日本経済は、大変な産業の空洞化という問題について議論されています。若い人たちが働く場所がない。今年はやや好転したと言いながらも大学生の就職先がない。働く場所があって働いてこそ人間の生活の営みができるわけです。それは古い考え方だという意見もありますが、私に言わせればやはりつくらねば、と思っています。林業が不振なら林業に代わるものを考えなければならない。それならば十津川村には温泉があります。奈良県では本格的な温泉は十津川村の3カ所だけで、他は冷泉です。こういう温泉を充分活用しながら、一方ではものを生産するための土地づくりを考えようということで現在計画しています。

また、道路は建設省が五条～新宮間という紀伊半島縦断の道路を整備するということで高速道路をつくろうと指定されています。これは1億円の予算をとり、まず、十津川村周辺を先に工事をしようと調査が進んでいます。やがて、大阪から紀伊半島縦断道路ができることでしょう。ここで地方と都市の格差是正をやらなければならない。交通に対してコストがかかり過ぎたらどんなものをつくっても商売に太刀打ちできない。いかに輸送コストを下げて商品をつくりあげていくかが重要な課題になってくるわけです。変な話ですが、私の村でも自分の家を建てようと思い、自分の家の横にある木を切って板にして家を建てようとする人がいたら、頭がおかしいのではないか、そんなもので家は建たない、どこかで材木を買ってきて建てる方がずっとはるかに安い、というような議論になります。自分の隣に木があって、その木で家が建てられない。この矛盾をどう考えるか。私は地元で板にしたり、柱にしたりできる設備が必要だと考えます。自分たちの木をもって行って、板にしてもらい、柱にしてもらい、家が建てられるようにしたいわけです。今は丸太を丸切りにしてトラックに乗せて都市の市場へ運ぶ。そこで値踏みをされて、安く叩かれて、次々次々手を通じて回されて行く。流通がどんどん回されていきますからその間にだんだん値段が上がる。柱も板も高い値がつく。こういうしくみを改善させるためには、地元でそういうものを生産する、ゴミは山に戻し木を大きくさせる肥料にする。こう回転よくさせるべきだと痛感し、いろいろ活性化を行おうと計画を進めています。そのために平らの土地をつくろうと、川の蛇行しているところをひとつ埋め立てる工事を進行中です。約3万坪の土地をつくる予定です。一方でダムの整備をし、そこから排出した土を土地づくりに役立てていく。道路と整備が進み、土地づくりが成立するという、非常に合理的な進め方を狙っています。この基盤整備ができれば、ここでいろいろな研究ができます。世界の森林業のデータを集め、あるいは分析できる研究所をつくる。さらに、木材だけではなしに、苗木や山野草、薬草もつくっていきたい。高麗人参と言われる高い人参がありますが、吉野にはかつて吉野人参がありました。そういう薬草に近いようなものも資源としてたくさんあったのですが、皆採りつくされてしまったからしょうがない、と思っていましたが、今の技術なら育てたり増やしたりするのは可能です。野生の蘭にしても同じです。こういうものを再現していき、新芽を実らせていけばいい。気候も温暖ですからきのこや松茸などいろいろ工夫していけばこれからも収入が得られるし、また特産物となれば有名にもなれます。

人生の師となり母校の教壇に立つ



十津川村の宝、再発見。

ところで、定年になって年金で山の中で静かに余生を送りたい、こう考える人がこれから多く出てくるでしょう。私自身が62歳で思い切って転身をしたわけですが、村に住んで思うのは十津川村は水が非常においしいということです。しかし、村の人たちにとってはただの水です。このただの水をおいしいと認めて村の人たちが「我々の水はおいしいし、きれいだ」と意識をもてば水を大事に思います。

去年、街道筋に、湧き水をひっぱり出して、ネーミングをして「三里山の水」と書いて出したら、大阪から来た人たちはみんなポリ容器に汲んでもって帰りました。それを村の人たちが見て、都市の人たちにとって水ってこんなに魅力なのか、水をこれほどみんなが欲しがっているのかと思い、これを機に水を大事にしようという意識に変わっていきました。だから、街道へももっともっと水を出したいと思っています。十津川村のよいところは、水であり、空気であり、それから星空。となりの村は天文の設備ができておりますが、少し前「シルクロード奈良博」を行った時にNHKの人たちが、タクマカラン砂漠の星がきれいだという話をしました。タクマカランに行かなくても十津川村に来てください。どのくらい星空がきれいかというと、天の川が西南から東北へと流れ、10分も上を向いて寝ころんでいると流星が流れていくのが見える。これだけ星が克明に見えるというのは、空気が澄み切っているからです。話が前後しますが、十津川村の水がおいしいというのは、この地方は太平洋から、つまり南から出てくる湿気をふくんだ雲が山にぶつかって雨を落とすからです。西から来る雨の量が多いからです。だから、おそらく十津川村あたりの水は本当にこれから注目されていく水になるだろうと思います。水がおいしいのは間違いなしにおいしいのですから。こういうふうに一つひとつ自分たちの村を見つめて歩いたら、その素晴らしい恵みを喜ぶことができる。自分たちの村を誇りに思うことができる。そして、この誇りが村づくりの基本にもなっていく。ただ、ここで大事なのは、お互いの心です。そこで、外でいろいろなことをやる前に、親切な村づくりをみんなでやろうではないか、という基本的なことをまず固めていきたいわけです。

日本一豊かで親切な村づくりへ。

親切な村づくりの基本というのは一体何であるかというと、人間同士がお互いに愛し合い、理解し合うこと。お互い相手の気持ちになることです。たとえば、石垣などにいろいろな花が植えてある。あんな狭い屋敷でちゃんと花をつくって生きている人間がいるじゃないか。花に対しての愛情でこの村の人たちは育てているんだ。そして、その花がこの村を訪ねる人にやすらぎを与え、また、この村を去っていく時に幸せを願ってくれていると思ってもらえる。旅人の幸せも祈るようなそういう人たちがここに住んでいると知ったら、おそらく世界の人は、そんな親切な村ならいっぺん行ってみようではないかと思うのではないでしょうか。これが私たちの夢であり、そういう夢を描き続けてやろうと思うのです。この間もNTTの人にちょっと苦情を言ったのですが、道ばたの木が大きくなってくると、電線を揺さぶるから邪魔になります。そうすると電線の邪魔にならないようにスパッと伐ってしまうわけですが、結構枝ぶりのいい松の木が、無惨な伐られ方をされていました。「何でそんな伐り方をするのか。もっと木に対してやさしさをもてないのか。木にだって命があるんだ、もうちょっと伐り方があるだろう」と苦情を言ったのです。一人が見るのではなく、この松の木はここを通る人みんなが見るわけです。十津川村の人っていうのは、小さい時から山に住む人間のやさしさみたい

人生の師となり母校の教壇に立つ

なものをもっています。私も子供の頃、親に連れられて山に行った時に、父親に「おまえあそこの木にからみついている葛を切って来い。あの葛は大きくなったらこの木を枯らすぞ。今のうちに切ってやってくれ」と言われました。これは自分の家の木ではなくよその家の木です。しかし、よその木であろうが、この木をちゃんと育てないといけないという気持ちなのです。ところが、最近は「変に切ったら怒られる。ほっとけ、ほっとけ」です。よその子が何か悪さをしてもほっとけ、ほっとけ。みんながしらじらしい社会をつくっています。そんなしらじらしい社会で生きていてどうして人間生きてよかったと思えるでしょうか。我々はいろいろなことで関わりあって生きていく、そういう心が見たいじゃないですか。それが親切な心の基本ではないか。だから、村の人たちでお互いに自分たちの子供や、近所の子供もふくめて、そういう子供にもちゃんと注意をしてあげるような雰囲気にしようとしています。「私の子供にかまわんでくれ」と言わせないような雰囲気が必要であると考えています。私がこういうことを感じたのは、バス会社に勤務している頃、こんな風景を見ました。子供が棒をもってバスの後ろをどんどんと叩くわけです。運転手さんがバスから降りて、子供に「叩かないようにしてください」と注意をしました。すると、お母さんが「うちの子は叩いていません」と言うのです。私も叩いているところを見ていました。運転手さんの方はこれ以上かまったらうるさいと思ったようで、バスにもどって行きました。そして、お母さんが子供に「おまえ、叩いたのか」と尋ねると子供が「うん」と言いました。お母さんはにこっと笑ってそのまま子供を連れて行きました。その時、なぜ子供をたしなめないのかと思いました。しかし、みんな悪いことをしようが何をしようが関係がない、ということから世の中おかしくなってきました。いじめの問題にしたってそういう風に関わってこなかった結果です。

私は少なくとも十津川村ではそんなことがあってはいけないと思い続けて、一所懸命やっているわけです。これにはいろいろな手法がありますが、十津川村では子供たちに挨拶をしっかりやろうと教えています。そこから人間のつきあいが始まると教えています。これは十津川村に来ていただいたら分かりますが、子供たちと出会ったらみんな「おはようございます」「こんにちは」ともれなく挨拶してもらえます。この前も、十津川高校へ奈良県の副知事が来て、あちこちの施設をずっと回っていましたら生徒がみんな挨拶していました。生徒には副知事であることとは分かっていません。翌日、副知事は「こんな高校が今頃日本にあるとは知らなかった」と言われていました。しかし、こういうことをきちっとやれるようにならないと世界が大切なんです。挨拶ができるというところから人間関係が始まるんじゃないか。挨拶もできないものがどうして人間関係を構築することができるのか。これが今非常に大切なんです。挨拶をすることは恥ずかしいことではない、当然のことなんです。そういうことをきちっとやれるようにならないと人間関係が始まらない。十津川村で興った親切運動がどういう展開をしていくのか、非常に長い課題でありますけれど、これからまだまだ真剣に取り組んでいかなければならないと思っています。

こういうことを一方でやりながら、一方では産業の新興の展開をしていかなければならない。村づくりは全国でいろいろな催しが興っておりますが、実際はそれほど簡単に豊かになれるものではありません。一番大事なのは、豊かさというのは物とかお金ではなしに心の豊かさであり、これからはこの方向に転換をしていかなくてはいけないのではないかと思っています。じっくり腰を落ちつけて遅れてもいいから1周遅れのトップランナーを目指したいと思います。あわててものをつくってどうだこうだというよりも、大切なものをつくりあげていくことを考えていくべきであろうと思います。親切な村づくりの基本は、「人間は人間らしく、お互いに生きていくためにももっともっと心を許し合って生きていくようにしましょう」と言うことです。そのために自分から積極的に親切運動に参加をしていく。それがやがては子供たちの幸せにつながっていく、と信じてやみません。私は40年の会社生活でいつもそれを考えながら歩いてまいりました。これは自信をもって言えることと思っています。いろんな人生があり、それぞれがこれをやらねばならないと考えて生きていくことが、お互いの幸せにつながると重ねて申し上げて私の話を終わらせていただきます。

本部だより

経済界のニーズに応える母校に

同窓会会長　萩原　市郎



卒業生の皆さま、益々お元気でご活躍と存じます。

同窓会の総会も11月3日無事盛会裏に終わりました。例年に比べ若い卒業生の参加が多く、老・中・若と私の目指しているバランスのとれた楽しくかつ賑やかな総会でした。学長のご挨拶の中に建学の精神である黒正先生の『自由と融和』を強調されていたのが心に止まりました。この精神を忘れずに継承していくことが、我々に課せられた努めであると信じています。

今年は10月20日に総選挙があり、自民党が政権をとり、行政改革・消費税等、新しい政策を目指して、新内閣が発足しましたが、まさに前途多難なことです。

厚生省の薬害問題に加え、またまた厚生次官の汚職等が発覚し、役人の綱紀の乱れは言語に絶するものがあります。

政治家も官僚も心を引き締め、迅速にことに当たってもらわねば、我が国の将来は暗澹たる物があります。

翻って母校の状況は、大学の冬の時代の到来に対処するための諸問題に理事長・学長はじめ教職員の皆さまが必死の努力をされて、経営情報学科の学部昇格もこの12月中旬には文部省の認可もおりる運びになっています。

これに関連して新しい建物の建設も着々と進行しています。大樟ホールは来年3月には完成の予定であり、G館も同じく9月に完成することになっており、平成9年度総会にご参加いただければ皆さまに見ていただくことができることと思います。

世間の景気は少し明るさが見えて来たように聞いていますが、我々にとってはまだまだといった感じです。その中にあって、今年の卒業予定者の就職状況は、約95%は決定もしくは内定しているようです。これも偏に母校の就職部の努力と経済界各方面で幹部として活躍されている先輩の方々のご協力によるものと思っています。

現在の母校の偏差値等を考える時、経営情報学部の昇格は、経済界のニーズに応えた誠に時を得た昇格であると思います。各企業でコンピュータの使える人材が必要欠くべからずといった時代、卒業即使える学生の養成は欠くことのできない要素でもあります。

最後になりましたが、母校の益々の発展と会員諸兄姉のより一層のご活躍・ご健勝を祈念し、また、『澱江』の編集にご尽力いただいた編集委員の皆さまに心から謝意を表し、ご挨拶といたします。

同窓の皆様にご挨拶申し上げます

理事長 桑津　昇



早いもので私が理事長に就任いたしましてすでに1年10カ月に相成ります。

その間、上島前学長、昨年の11月からは北崎現学長と岩谷専務理事との三人四脚にて、また、常勤理事として中村理事を迎え、学内外の理事の方々と香積事務局長の全面的な協力をいただき、教職員の方々と共々、建学の精神を堅持しつつ活力と希望のある大学として現実的な諸施策を実行してまいりましたが、その努力が着実に成果を表しつつあるものと存じます。本学の伝統と歴史を踏まえつつ教学は時代に則し、また先見性を発揮できる研究・教育に一層の研鑽に勉め、理事会はこれを推進するために健全な経営を以て施設内容の充実を図り、内外に魅力ある大学とすべく、教学、理事会相携えて努力いたしております。

予てからの懸案でありました経営学部経営情報学科の改組転換、学部昇格も近々認可される見通しであります。また、新しいG館・大樟ホールの建設も進められ、ハード・ソフト両面の整備が図られております。さらに、経済学部においても新学科創設の検討が重ねられており、この実現の方策を見いだすことが今後の大きな課題となっております。

大学冬の時代に入ったとは申せ、激しい時代の動きを捉え、社会の要請に応える特色ある大学として、受験生や社会から評価されるよう、理事長として使命感に燃えている次第で必ずや皆さまのご期待に添えるものと存じます。

最後に皆さま方の益々のご健勝とご清栄を祈念申しあげ、今後一層のご支援を賜りますようお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

21世紀の情報化社会に向けて

学　長 北崎 豊二



同窓生の皆さま、お元気でご活躍なさっておられますでしょうか。皆さまには、いつも何かとお世話になり、誠にありがとうございます。

ところで、大阪経済大学は戦後の学制改革により、一九四九年に専門学校から大学に昇格しましたが、その際、経済学部経済学科のみの単科大学として設置の認可を得ました。そして、一九六二年に経営学科を増設し、二年後の六四年、経営学科を経済学部から分離し、経営学部を新設しました。以来、長い間、我が大阪経済大学は他大学がつぎつぎと学部・学科を増設している中で、二学部体制を維持してまいりました。近畿圏の政令指定都市である大阪市にあり、しかもキャンパスが狭隘であることが主な原因でありますが、何か取り残された感がしないでもありませんでした。

一九九〇年にいたり、ようやく経営学部に経営情報学科を設置する認可を得、翌年四月に同学科を開設しました。この頃から、経営情報学科の完成年度を待って、新学部設置の申請をするよう、学内で準備をすすめてきました。その結果、予定より若干遅れましたが、来年四月、同学科を改組転換し、経営情報学部を開設する運びとなりました（設置認可申請中）。二十一世紀は情報化社会であるといわれておりますだけに、新学部は時代の要請にマッチした学部といえましょう。しかし、これもひとえに皆さま方のご協力・ご支援のたまものと感謝しております。

また、現在、両学舎に隣接する土地に大樟ホールを、図書館の裏にG館を建設しています。これらの建物の完成後、A館とB館を取り壊す予定でありますから、大隅キャンパスの景観も、やがて大きく変わります。古い同窓生の皆さまには、思い出の残る建物がつぎつぎと消え、新しい建物が建ち、母校の変貌にとまどわれるかも知れませんが、これも時代の流れであり、わが大阪経済大学の発展のあかしであります。それに、外観は変わっても、「自由と融和」の建学の精神は、いまも受け継いでおりますゆえ、どうか今後も本学の発展のため、ご協力下さいますよう心からお願い申しあげます。

最後に、同窓生の皆さまのご健勝と、ますますのご活躍をお祈りし、わたくしのご挨拶とさせていただきます。

平成8年度 同窓会総会開催

◆日　時　平成8年11月3日（文化の日）
　　午前11時開会
◆場　所　母校50周年記念館
◆総会セレモニー
　定刻11時上野常任理事（14）の司会で開会。
　冒頭、この1年間に他界された会員諸兄姉のご冥福を祈って黙禱を捧げ、その後、福元総会特別委員長（37）が開会の挨拶を述べ、続いてグリークラブ部員諸君の指揮で学歌を斉唱した。
萩原同窓会会長(10)挨拶の要旨
　①1年ぶりに会員諸兄姉と元気に再会できたことを喜ぶとともに理事長、学長はじめ来賓多数のご臨席を得て、平成8年度同窓会総会が盛大に開催出来たことに心より謝意を表する。
　②60数年の歴史を有する母校の同窓会会員は、既に老・壮・若の3世代に亘り、この3世代の会員諸氏の融和を図って会の運営に当たるのが自分の責務であると思っている。
　③母校も来年4月から、新しく経営情報学部が開設され着実に発展していることは真に喜ばしいことであるが、18歳人口の減少期を目前にして、一般的には大学の経営も決して楽観し得る情勢ではないと考えられるので、今後とも母校並びに同窓会に対する支援・協力をお願いする。
来賓祝辞
桑津理事長ご挨拶の要旨
　①本年度同窓会総会が盛大に開催されたことを会員諸兄姉とともに祝福したい。
　②私学は自主健全財政の確立が不可欠の必要条件であり、その実現に努力する。
　③建学の精神に則り、自由と融和の花咲く学園にすることに努力したい。
　④経営情報学科の改組転換によって、来春から経営情報学部を開設することによって3学部体制になる予定である。
　⑤同窓会会員並びに来賓諸氏のより一層のご健勝・活躍を祈念し、さらなる支援・協力を要請する。
北崎学長ご挨拶の要旨
　①菊香る文化の日、盛大なる同窓会総会が開催されたことを心からお祝い申しあげる。
　②来春から、新しく経営情報学部を開設する運びとなり、また、卒業生も6万人を超え、本学も着実に発展していることは真に喜ばしいことであるが、全般的な社会情勢として18歳人口の減少はすでに始まっており、大学の生き残りについては、今後真剣な取り組みが必要である。
　③私学の誇り得るのは、建学の精神であり、本学も黒正先生の残された建学の精神を大切にし、本日出席された会員諸氏が、この精神を後輩諸君に引き継がれるよう自他ともに努力されることを希望する。
来賓紹介
　波根広報部長（32）が、当日ご臨席の来賓各位を紹介した。
学内事情の報告ならびに説明
　①松岡憲司広報委員長からインターネットのホームページ開設について説明があり、懇親会終了後、E61教室でデモンストレーションが行われた。
　②香積弘晟法人事務局長から新学舎建設工事の新捗状況について説明が行われた。
　③日本経済史研究所野村君代前課長から、故黒羽兵治郎先生の追悼記念文集『行雲流水』発刊の説明があった。
感謝状贈呈
　最近、支部長を退任された次の方々に感謝状並びに記念品が贈られた。
　前和歌山支部長　坂田文治氏
　前豊中支部長　筒井英夫氏
　前北九州支部長　嶋原正孝氏
同窓会役員・支部長紹介
　当日出席の副会長以上の本部役員（名誉会長・顧問を含む）並びに全国各地から出席された支部長各位を陰下事務局長（16）が紹介し、セレモニーを終了した。
◆懇親パーティー
　大門広報部副部長（46）の司会で開会、萩原会長、桑津理事長、北崎学長による恒例の鏡開きに続いて磯野常任相談役（3）の乾杯の音頭で全員祝杯をあげ懇親会の幕を開けた。
　今年は、例年になく新卒者8名の参加があり、いささか混雑気味の会場であったが和やかな雰囲気のうちに時間が経過し、グリークラブの指導による逍遥歌斉唱の後、ハンドボール部OB会長鮫島圭氏（18）の音頭による威勢のいい三本締めで閉会した。

平成8年度 理事会開催

◆日　時　平成8年6月22日（土）
　　午後3時開会
◆場　所　新阪急ビル12階
　　レストラン・パレス

萩原会長挨拶の要旨
　歳月の経過は早いもので、昨年磯野前会長（3）の後を受けて会長に就任し、早々に阪神大震災に見舞われ、その対応に追われて十分な同窓会の運営方針も確立しないまま平成7年度理事会に臨んだのが、つい昨日のように思われるが、再びここで理事、監事の皆さんとお会いし、平成8年度理事会を迎えたことは真に感慨深いものがあり、お互いに元気で再会できたことを嬉しく思う。
　本日は、平成7年度決算、平成8年度予算（案）、役員改選等の重要案件を審議いただくことになっているので慎重に審議いただきたいと思う。
◆議長選出
　慣例に従い、萩原会長（10）を議長に選任し議案の審議に入った。
◆議案審議
第1号議案　平成7年度決算について
　本案件については、中村財務部長(31)が収支各項目について詳細な説明を行い、続いて植村監事(32)から「平成8年6月14日に監査を行い、その処理は正確かつ適正であった」旨の監査報告が行われた。
　議長が本案件について、その賛否を問うたところ、満場一致で原案通り承認可決された。
第2号議案　平成8年度予算(案)について
　本案件については、福元総務部副部長(37)が各項目について詳細な説明を行い、特に今年度は前年度に比較して会費収入が減少する理由、さらには同窓会の財政基盤強化のため、特別基金への繰り出し額を増額した理由等を説明し、議長がその賛否を問うたところ、満場一致で原案通り承認可決された。
第3号議案　役員改選について
　水納総務担当副会長（25）（次期役員選考委員会委員長）が、本部役員（常任理事、理事、監事）全員が任期満了となることを説明し、その後、常任理事会で選任された次期役員選考委員会委員の氏名を発表し、選考委員一同は直ちに別室に移り慎重協議の結果、新常任理事並びに監事が選任され、水納委員長がその氏名を発表した。
　選任された新常任理事は直ちに別室で協議の結果、萩原市郎氏(10)を次期会長に選任した。
　その席で、萩原新会長から前同窓会会長磯野斉氏（3）に常任相談役に就任されるよう要請し、全員これに賛意を表し、本人もこれを了承された。
　以上の結果について、水納次期役員選考委員会委員長がこれを報告し、また、理事については全員留任されるよう要請し、全員これを了承した。（常任理事・監事については事務局だより参照）
第4号議案　その他
　別段の提案事項なし。
　以上で議案審議のすべてを終了し、来賓としてご臨席いただいた桑津理事長、北崎学長から祝辞を兼ね学内事情の報告があった。
　続いて、二宮入試部長、国友就職部長から、本年度の入試状況、就職状況の説明をうけ理事会を終了した。
◆懇親会
　懇親会は例年の立食形式ではなくコース形式で開催した。
　岩谷専務理事の挨拶に続く乾杯の音頭で懇談に入り、和やかな雰囲気のうちに懇親会を終えた。

平成8年度全国 支部長会開催

◆日　時　平成8年7月27日(土)
　　午後2時開会
◆場　所　ホテル・プラザ
◆出席者　萩原会長以下常任理事18名並びに東海、岐阜、京都、富山、福井、三重、和歌山、奈良、大阪市、大阪市役所、豊中、池田、泉南、西宮、神戸、丹有、姫路、淡路島、岡山、広島、山口、島根、香川、愛媛、徳島、高知、南九州、の各支部長(順不同、代理を含む)。
　今年は、任期満了に伴う役員改選期であったため、例年理事会前に開催していた全国支部長会は日を変えて開催した。
◆開　会　定刻2時に陰下事務局長(16)の司会で開会、萩原会長(10)から、多数の支部長の参加を得て、全国支部長会を開催できたことに謝意を表するとともに、この会が本部と支部間のコミュニケーションを図るためには欠くことのできない重要な会合であり、特に、磯野前会長(3)の辞任以来組織されないままとなっていた支部長会幹事会も今後の支部長会運営に欠くことのできないものであることを痛感し、その選任に努力し、中山西宮支部長（15）、桐月神戸支部長(22)、小松安夫泉南支部長(23)の各氏を個別に訪問して幹事就任を要請し、快諾を得た旨を報告され、当日前記3氏に全国支部長会幹事を委嘱され、中山西宮支部長が代表幹事に就任された。
　なお、理事長、専務理事ともに母校の卒業生であるので、共に全国支部長会に出席いただき、桑津

理事長から、要旨次のような挨拶があった。

桑津理事長挨拶の要旨

①入試、父母懇談会に際しては支部長諸兄姉にお世話になっていることに謝意を表する。

②学内の意識改革も必要であるが就任以来小さなことでも一つひとつ改革を進めている。

③改組転換の一つとして取り組んできた経営情報学部開設の目途もついた。

④文部省との折衝、私大協会の会合等には必ず出席し、文部省からも高い評価を得るようになった。

⑤財務内容の改善・充実に努力している。

続いて、中山代表幹事を座長に選任し、冒頭同氏から幹事就任を辞退したが、萩原会長の熱意に押されて就任を了承した旨の挨拶があり、支部長各位の意見交換に入った。

各支部長発言の要旨

①伊伏南九州支部長(23)の報告

前年度支部総会の際、母校の森川滋教授を招いて指宿市で経済講演会を開催したところ、会員を含めて地域住民100余名の参加を得て非常に好評を博し、大阪経済大学の名を知らしめたと自負している。

②内田福井支部長（6）の報告

福井支部創立30周年を記念して10月19日（土）井阪健一氏（東京証券取引所副理事長・本学19回卒）を招いて、福井商工会議所、福井証券協議会、福井新聞社、福井テレビ後援のもとに経済セミナーの開催を計画している。

③村上岡山支部長（12）の報告

支部活性化のため県下各地域に役員を配し、津山会、市役所会等地域・職域会を組織している。

④長崎岐阜支部長（29）発言の要旨。

出席支部長各自が発言する機会を取り得るように支部長会の時間をもう少し十分に取るよう配慮されたい。

その他、種々意見が出されたが時間の都合もあり、中山座長が今後会長と相談の上、支部長各位の期待に添えるような会合にするよう努力したいと述べ、最後に北崎学長の挨拶で閉会し、懇親会に移った。

◆懇親会

会場をレストラン・ベルベデアーに移して懇親会を開催し、午後5時過ぎ三々五々散会した。

（　）内の数字は卒業回数

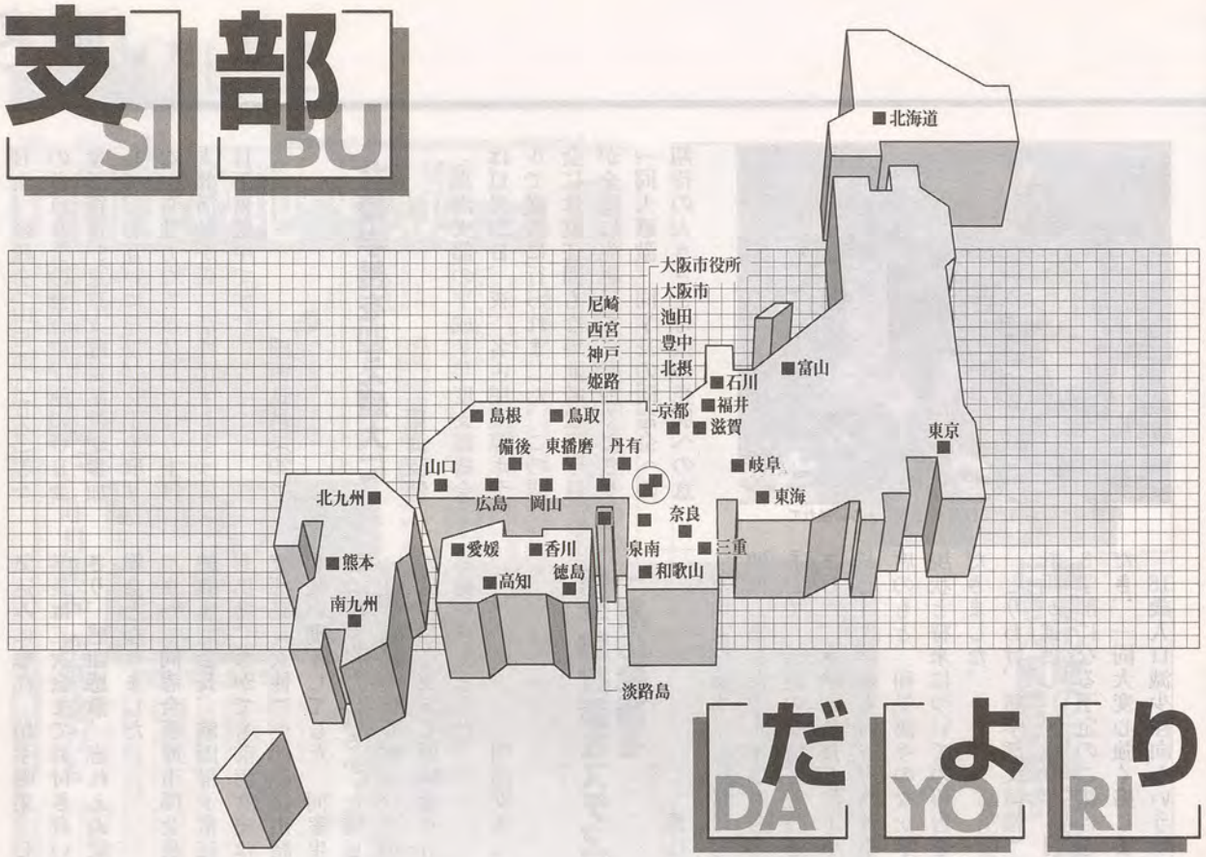
平成7年度収支決算書　自　平成7年4月1日　至　平成8年3月31日(単位:円)

収入の部			支出の部		
科目	決算額	予算額	科目	決算額	予算額
前期繰越金	16,377,483	16,377,483	総会費	6,081,420	7,000,000
会費収入	67,799,000	58,200,000	役員会費	1,667,729	3,200,000
総会収入	841,000	800,000	支部費	4,884,074	8,500,000
利息収入	968,526	1,000,000	事務費	334,346	1,000,000
懇江収入	859,310	800,000	人件費	7,437,340	7,800,000
名簿収入	655,020	300,000	旅費交通費	2,957,500	3,700,000
雑収入	227,000	0	懇江発行費	16,947,745	18,000,000
			名簿調査費	2,360,663	2,000,000
			学対費	3,295,000	5,200,000
			諸会助成費	1,331,261	2,000,000
			慶弔費	255,900	700,000
			名簿積立金	4,000,000	4,000,000
			スポーツ・学術振興積立金	3,500,000	3,500,000
			特別基金へ繰出	8,000,000	8,000,000
			予備費	0	2,877,483
			次期繰越金	24,674,361	0
合計	87,727,339	77,477,483	合計	87,727,339	77,477,483

平成8年度収支予算表　自　平成8年4月1日　至　平成9年3月31日(単位:円)

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前期繰越金	24,674,361		総会費	7,000,000	
会費収入	58,000,000		役員会費	3,200,000	理事会・常任理事会・各部会
総会収入	800,000		支部費	8,500,000	運営費・支部総会援助
利息収入	900,000		事務費	1,000,000	
懇江収入	800,000		人件費	7,800,000	事務局人件費
			旅費交通費	3,700,000	
			懇江発行費	18,000,000	
			名簿調査費	2,500,000	
			学対費	5,000,000	大学祭・クラブ活動助成他
			諸会助成費	2,000,000	諸会援助
			慶弔費	700,000	
			名簿発行積立金	4,000,000	
			スポーツ・学術振興積立金	4,000,000	
			特別基金へ繰出	13,000,000	
			予備費	4,774,361	
合計	85,174,361		合計	85,174,361	

支部だより
SIBU DAYORI



紅一点の出席

北海道支部

平成7年度の北海道支部は、札幌の大通り公園に面した第一ホテルで10月20日に萩原会長・岩谷専務理事を迎えて開催され、自己紹介をかね懐かしい思い出話等で懇親を深めました。特に今回は13回卒の諏訪芙美子さんの出席があり、また、中西君、中橋君、平山君たち新進気鋭の若者の初参加もあって、例年にない良い雰囲気の会合でした。

二次会は薄野のうた声酒場「灯」で、会長もお付き合いいただき、秋の夜長を十分に楽しみました。紅一点の諏訪さん、初参加の新人たちも大変楽しかったようで、次回を約束してくれましたが、常連だった今中君、川島君が転勤になり、いささか淋しい気がしております。当支部在籍者数は40名位ですが、約半数が定住者のようです。今後、年毎に定住者が一人でも増えることを願っております。

支部長　田中喜三郎（10）


初参加の新人たちと楽しく会合

末広がり支部を目指してアタック中

東京支部

21世紀がそこまで来ているというのに、世間の景気の低迷もしかることながら、1500有余名の同窓会東京支部メンバーの集まりも、最近の状況から判断する限り今いち元気が足りないように思います。

そこで私ども東京支部は一つの試みとして同窓生が参画している各グループOB会の横の連絡を密にすることで、東京支部全般を盛り上げてゆく新たな対応策にチャレンジしています。それは各OBグループ、例えば日立大樽会（日立金属グループ）、水曜会（証券会社グループ）、経大ワンゲルO

B会、経稜会（山岳部OB会）等々の各OB会の会合に、他のOB会世話役及び東京支部世話役が参加して、お互いに連携プレーを取りながら強力な支援体制を作り上げ、支部活動が更に活性化するように目下奮闘中です。

国西良昌（29）

北崎学長を迎え盛大に

東海支部

東海支部の平成7年度支部総会は11月24日、夜、名古屋国際ホテルで盛大に行われました。この総会には就任間もない北崎豊二学長が全国に先駆けてご参加くださり、一同大感激。同学長の同窓会への期待の大きさと母校の発展への意気込みに触れ、拍手喝采。しかも学長は二次会までお付き合いくださり、感謝感激。忘れえぬ記念の総会となりました。

また、同窓会萩原市郎会長、水納敏也副会長、前田悦子常任理事も出席。なかでも前田女史は阿部支部長（女性）への応援出席とか、心強い励ましでした。同窓生講演は「証券市場は甦るか」と題して山一証券勤務の脇所耐（27）が熱演、株式相場を支える原因等を分析、感銘を与えました。

明田安生（25）



同窓会への期待と母校発展の意気込みに触れて

新学部設置をステップに一層の発展を

富山支部

富山支部は本年も7月に総会を開催しました。本年は21名の参加を得て、会員の交流と親睦を深めました。水納副会長と陰下事務局長と、大学から岩谷専務理事ご出席のもと、和気藹々のなか学園の現状と将来についての報告をいただきました。

とりわけ、新学部（情報）設置計画が進展し、平成9年4月には3学部になる予定のご報告をいただき、一同大変心強く感じました。18歳人口減少傾向というサバイバルの時代に、大学の独自性を発揮しつつ、母校のより一層の発展を願う声が出ておりました。支部全体としても、さらに交流を深め各分野で頑張りたいと思います。

支部長　重松　尚（23）



新学部設置に一同胸むくらむ

支部30周年を迎えるに当たり

福井支部

平成8年の支部総会は福井商工会議所、福井証券協議会、福井新聞社、福井テレビ後援により、創立30周年を迎えることになった。現在吉田委員長を中心として、各役員がそれぞれを分担し、着々とその準備も整いつつあり、10月の総会を待ち遠しく思うところである。

顧みれば、藤原光治郎先生をお迎えし、ささやかな第一歩を踏み出した経大の集いが、その輪を拡げ、念願の嶺南、嶺北を一つに結び、現在にいたった道のりを思い出すものである。

30周年を迎え、伸び行かんとする姿は感無量なるものである。母校大阪経済大学のさらなる隆盛を期待し、同窓生諸兄姉の、心身ともどもの発展を希望するものである。

支部長　内田甫（清風）（6）

支部総会にぜひ出席を

岐阜支部

岐阜支部の同窓生諸兄、お元気でいらっしゃいますか。

日本の経済、政治等々、小生みたいな凡人には理解しがたい問題が多すぎます。

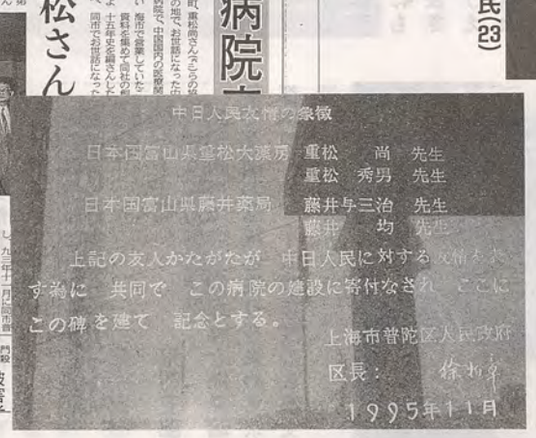
スカッと気分のいい話題を探してみてもこれとてなし。しからば平成8年度の支部総会を新年か立

話題の同窓生


カサマツ社長　重松　尚氏（23）

創業の地の中国・上海市に老人病院を寄付

富山支部



創業の地へ恩返し

上海に老人病院


開院した上海普陀区老人病院。近代的設備を備えた老人病院は上海市で初めて



完成記念式典であいさつする藤井さん（中央）と重松秀男さん（左から3人目）

昨日開院、増築協力も

医薬品販売会社カサマツを経営する富山市清次町、重松尚さんらの一族が、戦中、製薬会社設立で中国・上海市に設けた「重松大薬房」が前身で、富山の薬の販売がスタートした。その後日本の製薬会社の中国総代理店として事業を拡大した。ビタミン剤やアドナ原料などの付着薬の製造にも乗り出し、最盛期には二百五十人、終戦により五年前、上海市に老人病院を寄付した。

小学生だった尚さんが、現在同社長の秀男さんの祖父にあたる。

戦中、製薬会社設立　**重松さん**

Q　会社の沿革を簡単にお教えください。

A　当社は1905年、私の祖父が上海市に設立した「重松大薬房」が前身で、富山で薬売りからスタートし、その後、日本の製薬会社の中国総代理店として事業を行いました。最盛期には従業員も250人を抱えておりましたが、終戦により中国政府に会社を没収されました。戦後は、富山市を中心に北陸地方で医薬品販売会社を経営しています。

Q　この度、中国・上海市に老人病院を寄付されたとマスコミにて報道されましたが、その動機は何ですか。

A　創業85周年史を編纂した際に、上海で、お世話になった中国の人々に何か恩返しをしたいと考えました。終戦当時、会社で働いていた大勢の中国人も、今では80代になっているはずです。中国の高齢者の方に、1日でも長く健康でいてほしいと考え、老人病院の寄付を思いつきました。近代的な老人病院がないことから中国側からの同意も得ました。

Q　病院の規模や診察科等についてお教えください。

A　建物の規模は6階建てで、床面積は7,000平方メートルです。漢方と西洋医学の両部門で22の診療科があります。医師や技師が約110名います。平成7年12月に完成、開院しました。

建設費用は、弟（秀男副社長）と、終戦前まで当社に勤めていた藤井さん（藤井薬局社長）と分担しました。

中国の高齢化も日本と同様進んでいます。健康医療に貢献できればと考えております。

高橋　努（34）

春に、と計画しております。
支部でも名簿作成など、諸問題も山積しておりますが、とにかく経大岐阜支部の一致団結を念じております。この澱江の支部だよりを見ましたら、よし今年はぜひ支部総会に出席してやろうと思ってください。一度顔を見せる事により、再度出席してみようと思うものです。平成8年度最後の支部総会に出席ください。役員一同お待ちしています。

支部長　長崎和夫（29）

「年に一度の」

三重支部

当三重支部は、南北に細長く、ほぼ中央といえば、津市か、松阪市ということになる。松阪には有名な「和田金」があり、幸いにも同窓の松田和祐氏（16）が社長さんである。ご迷惑とは承知のうえでご好意に甘え、年に一度の総会の常宿として利用させてもらっている。

さて、平成7年度の総会を11月19日「和田金」で開催した。大学より岩谷専務理事、同窓会本部より萩原会長、陰下事務局長のご来臨をいただき、会員16名の参加を得て開会。昨年の『澱江』でもお知らせした日展審査員の関田庄司氏（8）も超多忙の中、出席され「日展」についてのお話もあり、有意義な総会を盛会裡に終了することができた。

なお、今後会員の消息などについてご連絡いただければ可能な限りこの欄に登載させていただく所存です。

支部長　中尾大輔（5）

話題の京都ホテルでの総会

京都支部

京都市内での景観保存と開発論争で全国の話題と注目を集めた京都ホテルで、平成7年度の京都支部総会を同年12月22日午後6時より開催しました。大学より北村教授、中村財務担当理事、同窓会より萩原会長、陰下事務局長、波根広報部長のご臨席をたまわり、また、支部会員の紅二点、黒瀬さんと元京都支部長で現東海支部長の阿部淑子さんが会場に花を添えてくださいました。

近々卒業されたフレシュビジネスマンの若手会員も活力をみなぎらせて会場を盛り上げ、入学状況、卒業後の就職状況等の説明と母校の発展と永遠の存続を祈りました。懇親会では美人のコンパニオンも宴を盛り上げ、ゲームにカラオケに一喜一憂し、和気藹々の中で学歌と逍遥歌を斉唱して無事散会しました。

支部長　深田　稔（29）


景観保存と開発論争で話題になった京都ホテルで

新支部長のもと、発展を

和歌山支部

和歌山支部は、初秋の9月8日平成8年度の総会を母校から中村敏啓理事、本部から萩原市郎会長、磯野斉常任相談役等を、さらに高須芳彦県出納長を迎え、和歌山市内の華月殿において盛大に開催しました。

和歌山市内の会員はじめ那賀地区、有田地区、県庁や農協などから会員63名が参加し、親睦と交流を深めることができました。

本年の総会では役員改選が行われ、宇藤博文（28）新支部長が誕生しました。今日まで支部運営に尽力を頂いてきました坂田文治（11）前支部長のあとを受けて、和歌山支部の新たなる発展めざして、役員一同努力したいと存じます。

会員の皆様の一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

事務局長　新田和弘（32）


新支部長誕生！　さらなる発展を目指します


幹事泣かせの先輩たち、これからもよきご指導を

支部活動の活性化にアイデアを

大阪市役所支部

1年間のご無沙汰でした。同窓会支部の中で唯一の職域支部の大阪市役所支部です。今年も5名の入会員を迎え、現在252名になりました。毎年のことですが、支部活動の活性化をどのようにしたらよいのか？他の支部の方々も頭を悩ませておられることと思います。何かよいアイデアがあればまた、教えてください。

さて、我が支部の平成7年度の総会が11月10日萩原会長以下、多くの先生方を来賓にお迎えして盛大に行われました。物部市会議員の乾杯で始まり、学校紹介、そして恒例の自己紹介と続き、アッと言う間に3時間が過ぎてしまいました。来年は1泊でやろか！とか、ゴルフコンペもやったらどうかな？とか、本当に幹事泣かせの先輩たちでした。

福地利仁（39）

同窓会の意義を高めよう

豊中支部

当支部発足から10年間、種々の苦労と努力をなされ、現在の基礎を築かれた筒井支部長が、7年度総会をもって勇退されました。同氏の業績は会員に高く評価され、惜しむ声多数聞かれたものの、健康上の理由と10年節目と承認され、黒田稔氏（15）が新支部長に就任されました。同氏も前任者の志を踏まえ、支部の発展に全力をつくすことを披露されました。

さらに、会の集いは異業種交流の「場」でもあり、また、社外人脈づくりの格好の「場」でもあるとの認識から、支部活動への積極的な参加を要望されましたが、これは前・新支部長共々基本的に意図するところであります。10月13日の8年度総会では、母校の渡辺コニー助教授のユニークなセミナーで会員を魅了しました。このように「参加することに意義がある」当支部会。会員の皆さま、支部活動に楽しく参加し、より親睦を深めましょう。

林　博（12）



新支部長のもとさらなる発展を

磯野相談役を囲み和やかに懇談

泉南支部

平成8年度泉南支部総会は6月8日（土）貝塚市の料亭『この木』において開催いたしました。

本年度は大学より山本恒人先生、同窓会本部より磯野斉相談役、波根伸俊広報部長の3氏をご来賓としてお迎えしました。


山本先生のお話や役員改選と今年も盛会

山本先生から中国の政治経済および中国の現況と中国人の考え方等についてのお話をいただき、磯野相談役と波根広報部長より大学の近況と同窓会支部の活動状況についてお話をいただきました。引き続き事業報告、会計報告等と一部役員改選の案件を承認いたしました。

「役員の改選」

泉南支部誕生に、また誕生後今日まで10年間献身的にご尽力いただいた事務局長車野修三君（27）、会計の市場谷楠雄君（35）が辞任され、事務局長に覚野芳和君(51)と会計に伊丹恵二君（42）が就任いたしました。続いて待望の懇親会は藤本節雄君（33）の乾杯の音頭で始まり、磯野相談役を囲み共に語らい酒を酌み交わし、和やかな交歓のひとときを過ごしました。年齢を超え、心の支えとなるつながりの輪が大きくなることを願っています。

支部長　小松安夫（23）

友愛の集い

丹有支部

当地域は三田市をはじめ、急速に通勤住宅都市としての開発が進み、来春3月にはＪＲ新三田～篠山口間の複線化とＪＲ東西線の接続が実現し、大阪まで1時間以内になります。

さて、今年の総会は9月29日(日)小粋な構えのＪＲ柏原駅2階、コミュニティーホールで行い、梅垣一枝さんの「健康な暮らし」の講演があり、好評でした。駅舎は、花の万博で義経号を走らせた鉄道の「山の駅」をそのまま移築したものです。

懇親会は、柏原ターミナルホテルに移って、大いに盛り上がり、初めての参加者が「もっと早くから来ればよかった」と言ったのが印象的でした。

なお、今年も11月27日（水）に篠山の青山台ゴルフ倶楽部で、ゴルフコンペを開催します。盛会を期して準備中です。

支部長　梶村文弥（8）
副支部長　奥野昇二（19）
西羅隆之（25）
足立徳太郎（36）



逍遥歌斉唱！　次はゴルフコンペで合いましょう

どっこい生きている経大生の意気魂

池田支部

9月29日（日）午後6時から北崎学長、水納副会長、陰下事務局長をお迎えし、池田市民文化会館で20名の同窓生の出席を得て平成8年度池田支部総会を開催した。

北崎学長の挨拶の中で大学卒業後に池田の知的障害児学級を担当し、児童と接触する中で、人間として素晴らしい天性を持ち合わせていることを教えられたことが披瀝され、これがきっかけとなり、お互いの心が打ち解け、同窓生からは人生中途にして妻の猛反対を押し切り自営の道に入り、奮闘中であること、定年を控え、地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいること。また、日本文化である謡曲に余生を捧げる決意などが語られ、経大生の個性ある意気魂に触れることができ、経大に学んだことが誇りに思えた。

経大が小さくとも輝ける人材育成・発展に邁進すること、同窓生の健勝を祈念し、盛会のうちに閉会した。

支部長　渡邊泰敏（21）



何でも積極的に取り組む個性豊かな同窓の輩

来年度はもっとご参加を！

尼崎支部

同窓生の皆さまお元気でしょうか。阪神・淡路大震災後には、本学同窓会から温かいお言葉や義援金を頂戴し、本当にありがとうございました。



震災を越え同じ顔ぶれで再会

心から厚くお礼申し上げます。

震災から1年3カ月、同じ顔ぶれが再会できましたことは、心強い感さえ覚えました。大学からは岡本理事をはじめ3名の方のご出席を賜り、また、女性の同窓生の出席を得て、談義も和やかな内に終了しました。

卒業生の人数の割には出席者の数が少なく、まだまだ努力不足と反省しております。平成8年度は54名の参加でしたが、来年度は増員目指し邁進したいと思います。

藤縄健一（37）

神戸支部の同窓会に出席してみて

神戸支部

私が経大を卒業したのは平成7年の春です。在学中のころは経大という看板を背負った一人の学生だったのでハンドボール部の全国大会第3位や硬式野球部全国大会出場時には自分のことのように喜んでいました。しかし、単にスポーツ好きで、母校の成績に関心を持っていただけで、経大の歴史・重みというものを直接肌に感じていたわけではありませんでした。

また、在学中に一度神戸支部総会に出席したときには先輩方の偉大さには気付かずに接していました。というよりは学生の自分とは全く違う存在であるという気持ちがあったのかも知れません。

しかし、卒業後に同窓会に出席したときには同じ社会人として先輩方の偉大さを感じることができ、この会に出席することができて非常に幸運だったと思います。それは人生の先輩、それも同じ大学で学んだ方と接することにより、必ず自分の人生にプラスになる確信を得たからです。

坂本直樹（61）



社会人となり「人生の先輩方」の偉大さ実感

一経済学徒として姫路藩経済史の一断面をみる

姫路支部

昭和学園で薫陶を受けたものとして左記の通りまとめてみました。記

（1）『姫路藩固寧倉に関する一考察』関西学院大学商経雑誌に掲載。

（2）『姫路藩経済断片―皮革と素麺の歴史―』大阪経済大学昇格5周年記念論文集「経済と文化」に掲載。

（3）『姫路藩百姓一揆の研究』

（4）『姫路藩綿業経済の展開過程』

を近くまとめて出版の予定です。

母校が冬の時代を生き残るためには各自が出身高校を訪問し、勧誘することが緊要かと愚考いたします。

今年の支部総会は次の通り決定。

10月25日（金）於北京閣

支部結成48周年になります。

同窓生は約８００名　以上

１９９６年８月29日　記

支部長　永川仁一（6）

50周年に向けて前進を！

岡山支部

少子向と言われる今日、岡山県においても、進学生は近隣県、私学志向的となり、反面、地元私立大の設立、学部増設等々、受け入れ態勢も拡大充実傾向にあり、大学経営も厳しいと想像される。県


50周年目前、さらなる発展に頭張ろう!

内同窓会員も地元志向であるとは言え、1400名前後で、あまり増加が見られない。南部よりも中・北部に増変がうかがえる。その意味においても支部同窓会の運営も地区グループ会発足を基本に、逐次、地区中心にPR会を盛んにし、会員出席率の向上とともに親睦団結を図りたい。

平成8年支部同窓会は予定通り6月8日(土)にまきび会館において盛大に開催された。特に津山会グループは今年6周年を迎え、昨年に続き新幹事を中心として盛況な会合で楽しく終了した。市役所および備北地区グループの今後を期待したい。

岡山支部発足50周年も近い。会員一同一丸となり、前進しよう!

支部長　村上一夫(12)

ハワイアンをバックに楽しいひととき

岡山支部津山会

(8月23日津山国際ホテル鶴泉苑にて)


ハワイアンバンドをバックに青春時代を思う

会員の粉川さん率いるプロ顔負けのハワイアンバンドをバックに、村上支部長を初め、各会員もそれぞれの青春時代に胸を熱くし、地元津山の地ビールにほろ酔い、楽しいひとときを過ごしました。

大学の香積事務局長、同窓会の萩原会長、陰下事務局長の各ご来賓の皆さま、ご遠路ありがとうございました。

来年も今年に負けない会を開催したいと思いますので、初めての方もぜひ気楽な気持ちでご参加ください。

竹本　巧(37)　粉川誠三(35)
大家浩三(36)　浅倉久雄(40)
藤原正憲(40)

懐かしい県人会活動

鳥取支部

昭和40年4月、入学式に1週間遅れて大学に通い始めたため、恒例のクラブ活動への勧誘の嵐は過ぎ去っており、結局クラブ活動へは入りそびれてしまいました。しかし何かやりたい、という思いが強く、仲間と集まって「鳥取県人会」活動に取り組むこととなりました。

活動はまず経大における鳥取県出身者の名簿作成から始まり、仲間を募り、そして近隣の大学(特に女子大)の同士とのネットワークづくりにつとめ、〝単なる飲み会〟から〝ディナー会食会〟、〝他大学との合同ハイキング〟などを実施して、青春の1ページを謳歌したものです。

忘れもしない大学3年の夏休みには経大の軽音楽部一行を鳥取県に招き、鳥取市と米子市とで2回公演を開催主催しました。

米子市では鳥取県人会の高林会長(現高林グループ代表)が中心となり、鳥取市では当時副会長だった私が担当して主催しましたが、1000人を超す演奏会場の手配やらチケットやパンフの印刷等すべての業務を、地元県人会OBの協力も得つつ、実行しました。

何よりも苦心したのはチケット販売でした。開演前日の夜は、大幅赤字を覚悟して、まんじりともしない一夜を過ごしたのをよく覚えています。

当時は各県の県人会が世話して、こうしたクラブ活動への援助や応援をしている例がありましたが、さて、現在はどんなようすでしょうか。願わくば、現役の諸君には大いにクラブ活動に、また県人会などのサークル活動に青春のパワーを発揮して、大学生活を意義あ


これからも会員によるセミナーの継続を。

るものとしてもらいたいものです。

支部長　西山林一(35)

支部総会開催日の曜日の変更とセミナー開催について

広島支部

(1)首標の件

例年週末土曜日の午後、かつ父母懇を当日開催しておりますが、近時週休2日制の実施に伴い金曜日が週末となったためか、出席率の低下を招いているかと、考えられます。したがって今後、支部開催曜日を支部の皆さんの総意により変更することを提案したいものと考えております。

(2)セミナー開催について

総会当日1時間位で会員の方に講師をお願いして実施することです。これまで数回実施してきたことですが、今後も継続していきたい所存です。

支部長　佐々木一義(9)

支部総会等に奮ってご参加を!

香川支部

平成8年度香川支部総会が、去る7月21日(日)午後6時からホテル川六で、大学側から経済学部長の泉弘志教授他4名の方、同窓会長萩原市郎氏、同窓会広報部長波根伸俊氏、支部会員27名が出席して盛大に開催されました。

また、前日20日には本年6月にオープンしたばかりの琴南カントリークラブで同クラブ役員で支部会員の河井氏のご厚意により、第3回支部ゴルフコンペも開催されました。いずれも会員数の割には参加者が少なかったので、来年は奮って参加されますようお願い申し上げます。

また、来たる11月23日に高松で、初めての四国4県の合同支部懇談会を開催し、懸案の総会参加者の増加方法について協議します。

支部長　岡野　敦(31)


楽しい集いに皆さん奮ってご参加を!

雨二毛負ケズ13回目の支部総会

愛媛支部

支部総会もついに13回を迎えることができました。今年は竹原氏(32)の骨折りで、県都松山の本町会館で盛大に開催することができました。

TOPICS トピックス

2001年に向けて、「経営情報学部」を開設。(設置認可申請中・11月30日現在)



コンピュータが急速に浸透する現代、「大企業」社会からネットワーク社会へと、ビジネス社会の転換期はもう始まっています。そんな時代の変化に即応して、2001年社会に巣立つ学生たちに、生き抜く力を培うのが、来年度より開設する「経営情報学部」です。学年ネットワークシステム(LAN)を用いた最新のクライアント－サーバシステムを活用して、経営に必要なさまざまな能力を養います。その実践的な経営学の内容とは、情報収集力・情報分析力・情報発信力の養成。時代の要請を先取りした「21世紀の経営学」を、母校から未来に向けて発信していきます。

大学からは岡本先生、陰下先輩が駆けつけてくださり、母校の現状、将来像などを楽しく、また懐かしく拝聴しました。支部からはそろそろ質的充実に取り組み、60余年で培った伝統を武器に、後発大学に先を越されないような方策を急ぎ実施するよう要望しました。

支部発足10周年を記念した名簿作成、役員改選なども順調に承認され、新たな年度がスタートしました。

永井・吉岡氏（48）の音頭で参加者全員が遊遥歌を大合唱し、しばし学生時代に戻り閉幕となりました。

真鍋一美（32）



順風満帆！　新年度に向けてスタート

時局講演会開催

徳島支部

徳島支部では5月10日（金）午後6時から徳島市内の厚生年金会館で第1回時局講演会を開催。県議会議員の樫本孝氏（35）が「県議会報告」と題して新年度の県政の課題などについて講演。支部長の田中（26）が「最近のベトナム事情」について講演。銀行支店長、企業経営者、県庁職員、商工会職員など約30人の支部会員は熱心にメモを取るなどし、活発な質疑を展開した。

このあと全員で会食し、歓談した。「初めての催しであったが、好評だった。年に2回ほど勉強会をしたい」と思っている。

支部長　田中良昌（26）


たいへん好評を得た「時局講演会」

酒を飲み、肩を組み、青春を語ろう！

熊本支部

平成8年度支部総会は10月26日、阿蘇五岳を臨む景勝の地、阿蘇高原ホテルに、15名の支部会員参加をもって盛大に開催されました。同窓会本部より車野組織部長、大学より泉弘志経済学部長のご列席をいただき、誠に有り難うございました。

恒例により、夕刻から支部総会に先立ち、有志によるゴルフコンペが催され、楽しい1日を過ごすことができました。来年度は菊地方面か、あるいは海外でもと考えております。今年度、所用にて参加できなかった方々、また、現在まで不参加の会員諸氏も、来年度は是非、酒を飲み、肩を組み、過ぎ去りし青春を語り合えればと思っております。次回を楽しみにペンを置きます。

支部長　濱　忍（35）



来年は菊地で、あるいは海外で、また会いましょう

話題の同窓生

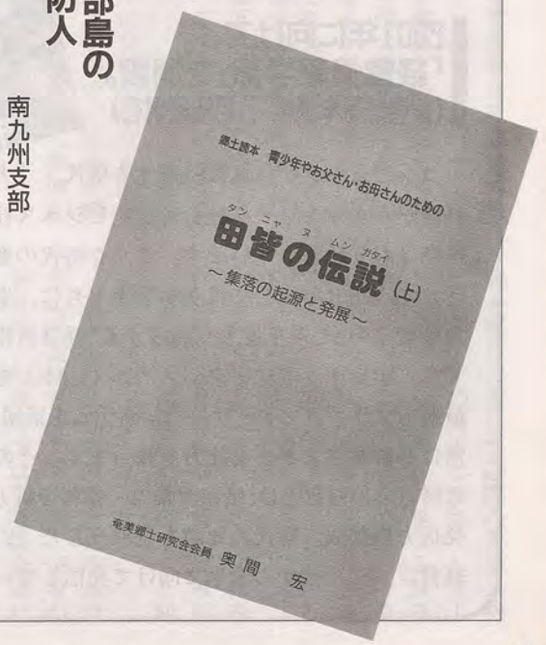
沖永良部島の文化の防人

南九州支部


奥間　宏氏（24）

経大のOBとして隠れた逸材、奥間宏氏を紹介したい。氏は本学24回卒（大槻ゼミ）、奄美群島の沖永良部島出身。経大卒業後、鹿児島県の公立学校の教職に従事し、定年後帰郷され地域の文化興しに地味な努力を重ねておられる。今回、小冊子「田皆の伝説　集落の起源と発展―」（上）を上梓された。数百年来語りつがれた集落、田皆の民話・伝説を古老より発掘聴取し、体系的に整理された。離島の固有文化の保存と伝承に、民俗学的にも貴重な資料として関係者から評価されている。氏はさしずめ、離島「沖永良部島の文化の防人」として活躍している。目下、続版（下）の編集中とのこと。地味ではあるが当支部の誇り得る同窓の一人である。

支部長　伊伏　彰（23）



平成8年中に開催された支部総会一覧

開催月日	支部名	開催場所	開催月日	支部名	開催場所
4月26日(金)	尼崎支部	ホテルニューアルカイック	10月19日(土)	福井支部	ユアーズホテルフクイ
6月8日(土)	泉南支部	この木	10月25日(金)	北海道支部	札幌第一ホテル
6月8日(土)	岡山支部	まきび会館	10月25日(金)	徳島支部	徳島プリンスホテル
7月7日(日)	愛媛支部	南海放送本町会館	10月25日(金)	姫路支部	北京閣
7月13日(土)	広島支部	リーガロイヤルホテル広島	10月26日(土)	熊本支部	阿蘇高原ホテル
7月21日(日)	香川支部	ホテル川六	10月27日(日)	奈良支部	ナコーラインハウス
7月21日(日)	富山支部	富山エクセルホテル東急	10月29日(火)	東京支部	野村クラブ
8月23日(金)	岡山支部津山会	津山国際ホテル鶴泉苑	11月10日(日)	三重支部	和田金
9月7日(土)	和歌山支部	華月殿	11月15日(金)	神戸支部	神戸東急イン
9月21日(土)	高知支部	三翠園ホテル	11月22日(金)	大阪市役所支部	桜ノ宮会館
9月29日(日)	丹有支部	柏原ターミナルホテル	11月29日(金)	東海支部	名古屋国際ホテル
9月29日(日)	池田支部	池田市民文化会館	11月30日(土)	淡路島支部	四州園
10月13日(日)	豊中支部	千里阪急ホテル			

（H.8.11.11現在）

同窓会支部長一覧

支部名	氏名	卒回	現住所	電話
北海道	田中喜三郎	10	[illegible]	[illegible]
東京	井阪　健一	19	[illegible]	[illegible]
東海	阿部　淑子	13	[illegible]	[illegible]
岐阜	長崎　和夫	29	[illegible]	[illegible]
滋賀	正村　公一	27	[illegible]	[illegible]
京都	深田　稔	29	[illegible]	[illegible]
富山	重松　尚	23	[illegible]	[illegible]
石川	柚木　繁	21	[illegible]	[illegible]
福井	内田　甫	6	[illegible]	[illegible]
三重	中尾　大輔	5	[illegible]	[illegible]
和歌山	宇藤　博文	28	[illegible]	[illegible]
奈良	白井　武夫	20	[illegible]	[illegible]
大阪市	太田　一澄	17	[illegible]	[illegible]
大阪市役所	角谷　泰秀	29	[illegible]	[illegible]
北摂	石川　裕	28	[illegible]	[illegible]
豊中	黒田　稔	15	[illegible]	[illegible]
池田	渡辺　泰敏	21	[illegible]	[illegible]
泉南	○小松　安夫	23	[illegible]	[illegible]
尼崎	小谷　芳男	24	[illegible]	[illegible]
西宮	◎中山　隆	15	[illegible]	[illegible]
神戸	○桐月　正邦	22	[illegible]	[illegible]
丹有	梶村　文弥	8	[illegible]	[illegible]
東播磨	永井　宏	19	[illegible]	[illegible]
姫路	永川　仁一	6	[illegible]	[illegible]
淡路島	宝川　雅嗣	23	[illegible]	[illegible]
岡山	村上　一夫	12	[illegible]	[illegible]
備後	小池　勝章	32	[illegible]	[illegible]
広島	佐々木一義	9	[illegible]	[illegible]
山口	江村　育己	29	[illegible]	[illegible]
鳥取	西山　林一	35	[illegible]	[illegible]
島根	渡部弘一郎	9	[illegible]	[illegible]
香川	岡野　敦	31	[illegible]	[illegible]
愛媛	小野　茂樹	26	[illegible]	[illegible]
徳島	田中　良昌	26	[illegible]	[illegible]
高知	横田　憲介	7	[illegible]	[illegible]
北九州	植田　達三	52	[illegible]	[illegible]
熊本	浜　忍	35	[illegible]	[illegible]
南九州	伊伏　彰	23	[illegible]	[illegible]

◎印は代表幹事　○印は幹事

OB ネットワーク

OB NETWORK

白浜周遊

昭寿会（第4期生会）

平成8年5月18日、白浜簡保ホームにて、昭和59年の有馬の会合から続いている12回目の昭寿会を開催。例年、岡山より参加していただいていた武田長太郎先生は、白浜までは一寸遠いので今回は見送りたい、とのことでお会いできず残念でした。



うまい魚に美しい海、楽しい白浜旅行でした

岡山の内田君も足が痛いため不参加。参加者は7名でした。晩餐にはタイ、ハマチの活け作りを賞味し、後は平野君の先導にてカラオケルームで美声を聞かされました。翌朝はジャンボタクシーを呼んで2時間半かけて千畳敷、三段壁洞窟、白浜海底観光船（海女の実演と海底めぐり）、白浜美術館を観光しました。午後3時過ぎ、白浜駅にて来年の再会を約しつつ散会。

写真右より三木、桜井、平野、佐々木、周藤、山本、宮平

三木　薫（4）

年に一度の〝一期一会〟

澱友会（第5期生）

今年の澱友会も盛大に開催できました。年一度の会のこと、集まりもよく、16名他に同伴者2名が集まりました。我々も卒業以来半世紀余りとなり、老境に達し、世にいう老人会さながらです。久しぶりの会のせいか学生時代のこと、戦中戦後のこと等々の話に花が咲き、時のたつのも忘れ、予定を大幅に延長しました。

現在案内状の届く人は65人程度です。年に一度の澱友会一期一会をモットーにしています。今年よ



今年からは同伴者も参加！　一期一会を大切に

り、同伴者も参加いただくことにしました。年に一度、あと何年続けられるか分かりませんが、せめて一期一会の出会いを楽しみたいと思います。

参加者写真　後列右より　芝田、堀、西村、倉垣、中尾、阪本（堀江）、福島、長岡、菊池、奥田、西村夫人、倉垣夫人、柳内、筧、重本、和田、村上（中浦）須藤（北九州市より）

長岡辰生（5）

談論風発、6回生の集い

昭六会（第6期生会）

第6回卒業生の集い「昭六会」は恒例の年次総会を10月16日、神戸・山の手の「パレス神戸」で開催。参加会員21名、萩原同窓会会長、陰下事務局長を迎え、母校の近況報告を熱心に聞いたあと、宴会に移る。久しぶりに会ったあの顔この顔、盃は巡りカラオケも加わり、談論風発つきることがない。だが、定刻になり学園歌斉唱をもってお開き。翌日は観光バスに乗って、秋色漂う快晴の六甲山をドライブ。「回る十国展望台」から眼下に広がる大阪湾など雄大な景観を堪能。ホテルで昼食のあとロープウエーで渓谷を越え、再び車上の人となって下山。定刻に三ノ宮駅前で解散。つきぬ名残を惜しみつつ互いの健康を祈り、来年の再会を約して三々五々家路についた。

戸田秀親（6）



懐かしい友のあの顔この顔、話は尽きない

久しぶりの7期生会集い

第7期生会

7期生会総会はさる4月11日に岡山県和気郡日生町（美晴旅館）で開催いたしました。なお、出席者は18名と同窓会会長事務局長をお招きして盛会裏に終わりました。

出席者は次の通りです。世話人は高垣、前田、吉田、村岡。参加者は赤松、宇野、北川、古賀、斉藤、田中（豊）、高木（肇）、高嶋、武内、武田（一信）、西脇、早川、林（彪）、真鍋。

次回は3年後（平成11年）に開催しようといって別れたばかりだったのに7月13日、真鍋弘君が永眠しました。誠に残念です。人の命は一寸先は闇だとはよく言ったものだとつくづく感じた次第です。ご冥福を心よりお祈りします。では、また7期生会の皆さまにお会いする日を楽しみにしております。

前田壽弘（7）

再び京都に集う

第8期生会

この度は関東地区のお世話ということだったが、世話人の方々の都合で、急遽関西がお引き受けすることになった。昨年（第21回）



久しぶりの再会で、和気あいあいと



今年も京都で、夜が更けるまで歓談

の京都での会合が、宿舎が京都駅に近いこと、料理・サービス・従業員のマナーが良かったこと、3時間程の短い観光ツアーを入れたこと、などで意外に好評だったので、再度（少し代わり映えがしないとは思ったのだが）京都を選んだ。素敵な秋晴れの10月16日。午後1時30分にJR京都駅に集合。直ちに宿舎緑風荘へ。ここで一服、次いでタクシーに分乗、二条城見物（ご承知のように江戸初期に徳川家康の朝廷監視と上洛の際の宿舎として建てられた城郭邸宅）。火事や改修などで当時の天守閣や本丸はないが、現在、書院造り建築中最も代表的な建物。国宝の二の丸御殿、重文の東大手門、狩野探幽らの障壁画、うぐいす張りの廊下や、石組みの美しい豪壮な二の丸庭園などが残っている。そこで記念写真を、そしてタクシーで映画づくりで知られる「観る、学ぶ、遊ぶ、創る」の東映太秦映画村へ。大いに楽しんで午後4時30分に帰荘。午後6時より総会開始。健康上の理由、その他で参加出来なかった方々の健康を、亡くなられた方々のご冥福を祈り、懇親会を。さらに宴終了後も一室に集まり、遅くまで楽しいおしゃべりが続いた。

翌17日も快晴。朝食後健康での再会を約しながら、それぞれのスケジュールに従って宿舎を後にした。

日時　平成7年10月16日
　　10月17日

参加者

同窓会から萩原会長、陰下事務局長　関東からは川村、近藤。三重の関田、橋本（漠）、山口の串田。岡山の横川。関西から赤松、太田に、河田、琴野、柴田（秀）、長尾。

計12名

長尾　晃（8）

皆さんまだまだ頑張りましょう

九友会（第9期生会）

平成8年5月21日～22日大阪経済大学九友会（昭和高商9期生同窓会）は長浜ロイヤルホテルにて会員24名、夫人11名、計35名にて盛会裏に開催しました。

翌日朝食後に竹生島へ参詣する予定であったが、あいにく、大雨



全員で35名、楽しい2日間でした

にあい、中止して長浜城を見学。昼食を共にして、再会を約して楽しかった2日間を終了した。

今回残念に思ったことは佐野君から住所を教えてもらって当時英語の教授をされ、我等の受け持ちでもあった山村先生を訪問して、九友会へご招待すべくお伺いしたが、先生は本年88歳、行きたいが遠い所へは迷惑を掛けるから遠慮するとのことで残念でした。お互いに歳を取り、気をつけねばならぬ体になりました。しかし、まだまだ頑張ってやりましょう。

次回は幹事須々木敏郎氏にお願いして、紀州南部ロイヤルホテルにて開催することに決定しました。

西村義男（9）

萩原同窓会長を激励　半世紀ぶりの集い

第10期生会

戦時下の昭和18年、繰り上げ卒業させられた第10回生の集いが、10月12日大阪梅田のレストランで開かれた。卒業生223人のうち案内状を発送できたのは126人だったが、このうちなんと40人が北海道から九州の全国より参加した。昭和47年神戸で開かれて以来、約30年ぶりの再会だった。



恩師藤原先生を囲んで、つもる話に花が咲き

武内発起人代表から会合にこぎつけた由来の挨拶があった後、来資祝辞として北崎学長は「あなた方は黒正先生の貴重な教え子だった」と語り、1年後輩の桑津理事長から、18歳人口の減少など、これからも続く大学冬の時代に母校生き残りのため、どんな努力も惜しまないと力強い抱負が述べられた。恩師の藤原先生は米寿近いご高齢と思えぬ元気さでかねてから卒業生の理事長を待っていたと賛辞をおくられた。

後は最後まで半世紀のつもる話に花が咲いたが、本業を忘れて健闘する同期生の萩原同窓会長を全員拍手で温かく激励した。

加藤正秋（10）

後日送付する近況報告に乞ご期待！

第11期生会

平成7年度の第11期生会は1月19日大学・同窓会からご来賓を迎え「ラ・クールパレス」において開催しました。昨年のように大地震がなかったので、遠隔地から初参加の7名を含め22名が出席しました。

会合は恒例となった同期生各人の自己紹介と近況報告から始まり、伊達さんが、大正生まれの四方山ばなしや歌の小冊子を全員に配布。また河津さんが出征時の日の丸に寄書した旗を持参、戦時下の高商時代を懐かしみました。同期生全員の近況報告は後日送付しますのでご期待ください。

出席者は赤坂、井上、伊東、岩谷、宇田（福山）、河津、岸、小池（福岡）、佐藤（防府）、坂井、坂上、重里、田中（流山）、伊達、土屋、鶴岡（尾道）、能宗、北条、村田、割木（太地）、桑津、筒井

筒井英夫（11）



恒例の自己紹介に皆わきあがりました



初参加の顔もあり、楽しい昼食会をともに

年1回はお会いしましょう

ひとみ会（第13期生会）

6月6日名古屋国際ホテルで開催しました。去年は京都で阪神大震災被災者の皆さまのお見舞等を兼ねた会であったため出席者も多かったので今年の参加者は期待薄

でしたが、20数名、その内7名宿泊希望があり、お蔭さまで大盛会でした。

当日は卒業後初めてお目にかかる顔もあり、和気藹々の昼食を終え、秀吉ブームで知られる徳川美術館を廻りました。夕食はムードたっぷりのフランス料理でワイングラスを傾けての楽しいおしゃべりで有意義な学年会を終えました。ひとみ会の皆さま！1年に1回の会にはぜひ出席し、共に歩んで来た経専時代を思い出し、大いに語らい、これからは頑張って生きて来てよかったと思う人生を送ろうではありませんか！

鈴木（有見）美登里（13）
阿部淑子（13）

ミコ(美智子さん)を想いつつ

東京ひとみ会（第13期生会）

7月10日、池波正太郎がひいきにして通ったという末広町「花ぶさ」に雨の中集まったのは大阪、神戸、名古屋勢を含めて15人。

まず、6月に亡くなられた中村美智子さんを偲んで黙禱する。世紀末的乱世への絶望からか、情熱のひたむきさからか、余りに急な旅立ち方が彼女に似合わずに哀しい。こんなことならもっと会い、もっと語り合うのだったと悔やまれる。

粋な盛り付けの日本料理で、いずれは去る現世での旧交を温め、土井和賀子さんの計らいで車に分乗、議長公邸に土井たか子議長を訪ねる。「議会で居眠りする議員は許せない」と誰かが言う。社民党、新社会党についても意見を伺いたかったけれど時間となり、議長のおけがの全快を祈って辞す。

小駒（佐々木）葉子（13）



議長公邸で土井たか子議員を囲んで



思い出の写真も持ち寄り、あっと言う間に時は経ち

入学50周年を集いて

第14期生会

昭和20年より昭和23年生まれで、戦後の激動期を共に学び、共に語り、共に遊び、共に助け合った当時の学生生活は私たちの人生の中で最も貴重な大切な時代でした。この当時を偲んで、平成7年10月30日新阪急ビル「ラ・クール」にて40名、阪神大震災の被害を受けた方々も明るく参加。（何よりも嬉しいことでした）思い出の写真等も持参、学生時代に戻っての個々、そのもの、姿、会話、笑いは尽きることなく50周年目を迎えての5時間の集いも一刻のよう、名残惜しい散会となりました。

卒業50周年目の集いは、もっともっと、多くのお友達と楽しく過ごしたいと切に願っております。皆さまもお体をお大切になさいますように。

上野満里子（14）

入学後50年

第15期生会

今年2月24日、大阪市内で15期同窓会を例年通りに開催しました。今年は我々旧制大阪経済専門学校に、昭和21年に入学してから50年になった年です。当時は敗戦の翌年で、一家族の1カ月の生活費が500円に封鎖、制限され、食糧


入学から50年、懐かしい一夜を過ごしました

も配給制で弁当も持参できない人が多くいた時代でした。学生も学徒出陣や志願兵の復員兵が多く、元陸軍中尉、妻、子供2人もあり、28歳の人もおり、これらの人が男子学生の約半数を占めていました。

私たち旧制中学卒業の17~18歳の弱輩ともうまくつき合ってくれたものです。上級生は3年、2年生は全員女子学生であり、同期にも1クラス約50名の女子学生がいて、音楽学校、美術学校等を除いては我が国で初めての男女共学の学校となっていました。そして昭和24年G・H・Qの指令によって学制の大変革が実施され、我々が旧制大阪経専卒業後、新制の大阪経済大学となったのです。昭和23年秋頃までは、私学の専門学校は短期大学になると文部省の内示があったと聞いており、そのため、私学の理工科系専門学校では廃校を選択した学校も多く、私学の女子専門学校は短期大学になってしまいました。

大変な変動のあった時代を生き伸びた15期の同窓会は、一時中断しかけたこともありましたが、約20年毎年開催しており、今年は久しぶりに女性5名を含めて28名の参加者が集まりました。卒業以来初めて出席した人も数名あり、楽しい、懐かしい夜を過ごすことができました。2次会も10数名（女性3名）でカラオケ等で賑やかに盛り上がり、消えかけていた青春の日々の思い出が点滅する懐かしさを味わい、良い一夜をもつことができました。まだ元気で生きておれば、毎年続けて行きたいと思っています。

松川圭一（15）

お互いの元気と友好の集い

第16・18期生同期会

例年のように、今年も5月12日~13日奈良吉野の「竹林院」で22名の同期が集まりました。昨年は、鳥羽で20名ですからここ数年ほぼ20~30名位で、毎年数人の新しい顔もありますが、おおむね同じ人が集まるようになっています。

もう卒業してから約45年もたつのですが、会話をするうちに、いつしか学生時代に戻ります。そして経専と経大の戦後の学園と生活、また、今の大きくなった経大へと話は進み、さらにもっと全ての面で経大が発展していくことを願いあいます。出世競争とは関係なくお互いの健康を喜びあう、こんな同期会です。毎年この同期会が続くのは同窓会事務局長の陰下さんの支えと幹事（世話役）が交替して民主的に進めるからだと思います。

中谷恒男（16）


学生に戻り、経専・経大時代の話はつきぬ

23期生の集い

第23期生同期会

今年も11回目の集いが萩原同窓会会長をお迎えして、恒例の冨久屋ホテルで開かれました。出席者は31名、うち2名は初参加の方です。阪神大震災で復興中の神戸・尼崎より8名と遠くは福岡より植木氏が参加されました。まず、萩原会長のご挨拶で学校と同窓会の近況についてお話があり、続いて全員の自己近況紹介をやり、玉岡氏企画の余興や大樟会ゴルフコンペの紹介もありました。全員で記念写真をとり、正午から4時間程が知らぬ間に過ぎておりました。

最後に全員で肩を組み、校歌を歌い万歳三唱して、解散しました。


自己紹介あり余興あり、次の集まりも楽しみ

卒業後35年の総会

第27期生会

滋江27期生会総会を東急ホテルにおいて、磯野斉同窓会相談役、陰下事務局長を迎え、和やかな楽しい総会を開催いたしました。出席者は19名でした。卒業後35年の歳月が過ぎ、還暦を迎える歳になりました。会社においては重役、部長の役職であり、また、退職して悠々自適に過ごしている人あり、人生の節目が訪れているような感じがします。また、久しく音信のなかった中谷一也君にお会いすることができました。約2時間30分の歓談の末、来年も10月第3金曜日に東急ホテルにおいて再会を約し、幹事の角本喜八郎君の指揮で校歌を合唱し散会しました。同窓生との話はとくに楽しくよいひと時でした。

車野修三（27）

23期生の皆さん、来年の2月11日もぜひ元気でお会いしましょう。初参加の方もお待ちしております。

酒井弘光（23）

湯村温泉にて寄多郎会

寄多郎会（柔道部OB会）

6月14、15日の両日に恒例の柔道部寄多郎会を夢千代の里として知られる湯村温泉「井づつや」にて参加人員14名で行いました。梅雨の最中でありながら、よほどメンバーの日頃の心掛けがよかったのか、当日は晴れ上がり、快適な旅行でした。海にも山にも近く、山海の珍味に舌鼓みを打ち、無色透明の炭酸泉にゆったりつかり、吉永小百合こと、夢千代の銅像と肩を組み、また1年ぶりの再会に夜更けまで話ははずみました。

翌日は列車転落の惨事のあった余部の鉄橋の下を通り、雨上がりの日にしみる新緑の山間を経て、陽光きらめく日本海へ。激しい波が作り上げた荒々しい寄岩洞門断崖で知られる山陰海岸国立公園のすばらしい景観を見ながら、一路そばの産地出石へと向かいました。そば屋で昼食をとり、小京都の風情を残す城下町出石を散策後、JR出石にて散会しました。

伊藤 宏（27）

ハンドボール部創部50周年記念式典

ハンドボールOB会

太平洋戦争の敗戦直後、昭和21年に創部したハンドボール部は本年50周年を迎え、その記念式典を平成8年3月10日同窓会ホールで挙行した。大学からは桑津理事長、北崎学長、萩原同窓会会長、山本体育会本部長、父母会代表。外部からは大阪ハンドボール協会神田会長、関西学生連盟久保会長、大阪市ハンドボール連盟山中理事長、関西各大学OB会代表、本田技研初め、実業団各社代表等33名の来賓が臨席、それぞれ祝辞を頂戴した。

また、OB会（卒業者総数20





6名）からは奥村（山路）初代部長（13）、創部時のメンバー土田、奥田両先輩（15）を初め58名が出席した。さらに現役21名も参加し、総勢112名で同窓会ホールが一杯になる盛会であった。式典後の祝賀会は老若男女が歓談し、誠になごやかな雰囲気であった。

ハンドボール部は、関西1部リーグにあって常に優勝を争う位置にあり、平成6年には全日本学生選手権3位入賞し、全国的にも著名な存在である。

今後もOB会の中軸としてより一層パワーを拡大し、クラブが70年、100年と祝賀の場を持てることを祈っている。

鮫島　圭（18）

本年でOB30代目

自動車部OB会

去る6月30日（日）に同窓会ホールにおいて恒例の自動車部OB総会を開催いたしました。各OBの自己紹介に始まり、現役部員の戦績発表の時には全関西ダートトライアル大会にて総合優勝という報告に、一同よりやんやの喝采がわき上がりました。

閉会後はすっかり変わった校内や部室まわりを見学し、また来年の再会を約束しつつ二次会へと別れて行きました。

また本年で当クラブ卒業生は30代を数え、これを記念しささやかなパーティーをとり行うことが総会の席上満場一致で決定いたしました。日時は12月1日（日）で昼12時ごろより始まります。

後日、ご案内状をお届けしますのでよろしくお願いします。

大平雅彦（46）



蘇った白馬ヒュッテに集う「建立35周年記念式典」

経稜会（山岳部OB会）

長野県の大阪経済大学白馬ヒュッテは昭和36年（1961）、現役山岳部員が、一万貫の資材を夏休み（40余日）返上でボッカ（荷揚げ）をして建設したものです。のちヒュッテは大学に寄贈され、昭和60年には屋根の全面葺き替え、台所の整備を、平成3年には現役部員と若手OBにより、テラスの新設と発電機が設置され、平成5年には、栂池自然園にいたるロープウエーの新設に合わせて電気設備の整備と床のリニューアルが行われました。昔の薪ストーブやランプの灯を懐かしむ声もありますが、一般の方にも使いやすい環境となりました。今後とも、多くの学友、OB諸兄に愛されていくことを願い、ここに35周年記念式典のご報告をいたします。

式典は平成8年（1996）9月21日に、経稜会主催により、白馬ヒュッテにて行われましたが、顧問の大槻先生をはじめ、全国より集い来たOB19名、現役1名、また来賓として、降簱義道氏（現地管理人）をはじめ、OB友人、家族の方々も迎えて総勢30名余りとなり、ヒュッテ1階に入りきれなくなるほどでした。式典は午後5時に開会しましたが、冒頭でこの式典を心待ちにされておりながら、去る9月16日に不慮の事故で



リニューアルした山小屋で祝う35周年

亡くなられた倉谷OB会長の冥福をお祈りし、続いてOB物故者への黙禱、献杯へと移った。式典は、この後、会長代理の挨拶があり、大槻先生、降簱氏より、お礼と励ましの言葉をいただき、また、あわせて各方面よりのご寄付の報告を行いました。

後半は懇親会に移り、全国から持ち寄った名産や地酒により、会場は一気に盛り上がり、何年来かの再会や、初参加の顔も交えて話が弾みました。歓談が続く中、各自の自己紹介を兼ねたスピーチで、時はすぐに過ぎて閉会の時刻となり、エール・学歌・部歌を斉唱し、第1部は閉会しました。しかしながら、あるものはそのまま、あるものはテラスにて遅くまで第2部の宴会を楽しみ、共に同じ思いで過ごした学生時代に思いを馳せ、あの頃よく歌った山の歌を皆で歌っていると、次第に声に力が入り、過ぎし日々の尊さを感じた白馬山麓の秋の夜でした。

あけて22日はあいにくの雨でしたが、下山するもの、さらに1泊するもの、あるいはヒュッテの上に広がる天狗原への散策に向かうもの、それぞれつきぬ名残を惜しみつつ再会を約束して、西と東に別れました。

藤原広太郎（51）

やっと動きだしたOB会

アメリカンフットボールOB会

我々アメリカンフットボール部OB会は昭和46年に第1期生が卒業しているので本年25周年を迎えます。この間昭和52年に関西リーグ昇格記念、平成5年に創部25年記念パーティーを開催した程度で、それ以外は毎年現役とOBの交流をOB戦として細々としているだけです。しかし、本年になり、現役への応援を主として、まず会費集めから始めようと各幹事が3カ月毎に顔を揃え、公式戦にも20～30名が応援に来るようになりました。OB会が「やっと動きだした」というところです。スポーツ推薦により入部してくる者もなく、有名なコーチがいる訳でもなく、出来ることからコツコツ始めようと地道な努力をしたいと思います。どうか一般のOBの方々も応援してください。

稲野武生（39）

WV部からの報告とお誘い

WV部OB会

「WV部OB総会」

6月23日、母校において平成8年度OB総会が行われました。OB13名、現役2名の計15名の出席でしたが久しぶりの会合で大いに楽しみました。会計報告の後、来年の40周年記念を期して企画委員のメンバーを選定しました。

永田氏を委員長として、西山氏、高橋氏の3氏にお願いすることに決定。OB諸氏は大いにご期待ください。多数の参加者で大いに盛り上げましょう。

「経大WVOB会合宿」

8月3日、4日にわたり、経大白馬ヒュッテにおいて東京在住のOB諸氏と合同でOB合宿を行いました。参加者は大阪16名、東京4名、現地1家族、ゲストとして東京支部の西山氏、山岳部OGの大隅嬢の計27名。8月3日夕刻、経大白馬ヒュッテに元ワンダラー達が三々五々に集結し、久しぶりの邂逅に大いに盛り上がりました。豪華なディナー（?）と余るほどのお酒を前にして、飲み、唄い、ダベリングで更けるのも忘れてしまう一夜となりました。

8月4日は眠い目をこすりながらも起床当番の声に起こされ、白馬大地ワンデリング、自然園散策、43回卒同期会等のパーティーに別れて行動を開始。昼食時に全員無事に集結し、エールを組んで解散式を行いました。3日、4日両日とも快晴に恵まれ、下界の喧噪と暑さを忘れ、全員学生時代の良き思い出にひたれた幸せに大いに満足し、OB合宿を終了しました。



快晴に恵まれ大満足のOB合宿

「WVOB東京支部からのお誘い」

東京支部では定期的に近郊の山への日帰りハイキングを行っております。参加希望者は左記へご連絡ください。経大同窓生なら年齢、性別は不問。大いに歓迎いたします。

〒272　市川市大洲
4－21－20－203
国西良昌（29）
TEL0473－77－2239
神田　博（29）

水曜会を通じて輪を拡げよう!

水曜会

最初に水曜会の紹介をいたします。同窓会東京支部のもと、平成4年に先輩方、井阪東京証券取引所副理事長、松谷国際証券社長、西山同窓会東京支部代表幹事のご支援ご指導を受けて発足し、関東地区在住で証券業界に従事している同窓生を対象に活動を展開しています。

去る10月8日に、東陽クラブにて特別講演会を催し、講師として、日本にM&Aをビジネスとして定着された、後藤光男氏(野村企業情報社長)をお迎えし、有意義で楽しい時間を過ごしました。

出席者は40名という盛況な集いとなり、懇親会では名刺交換、記念撮影、最後に円陣を組み、学歌、逍遥歌を激唱し、閉会となりました。今後とも会を通じて人の輪、情報の輪を拡げましょう。

松本賢二(40)



これからも情報の輪を広げましょう!

第5回定期総会開催

税理士大樽会

税理士大樽会の第5回定期総会が去る8月2日ホテル日航大阪において行われた。

ご来賓として桑津理事長、北崎学長、萩原同窓会会長、渡辺泉教授、陰下事務局長のご出席をいただき、全議案異議なく承認され、役員任期満了に伴い新役員が改選された。

新役員を代表して大城戸武子(13)新会長のユーモアあふれる挨拶と各役員の自己紹介があった。引き続いての懇親会では大城戸新会長より佐藤前会長へ花束贈呈があり、初参加の会員の自己紹介、ビンゴゲームと時を忘れて楽しい語らいが続いた。

会員117名中39名の出席であったが、来年の総会は50名の出席を目指し、魅力ある楽しい会にしたいと心を一つにしてお開きとなった。

平田(田原)久美子(35)



次回は50名の参加を目指し頑張ります

震災を越えて

川西市役所大樽会

本会は兵庫県川西市役所関連職員の同窓グループとして発足し、その後関係者の参加を得て、19年を経過した現在は30余名の会員を有するにいたっています。

本年は、未曾有の被害が生じた阪神・淡路大震災の発生以来1年余りが経過し、関連業務もようやく落ち着きをとり戻したこともあって、2月9日の総会には多くの参加者を得、盛況のうちに開催することができました。

さて、川西市では現在、その玄関口の川西能勢口駅周辺の再開発事業が進み、周辺地域の商業核としての形が整いつつあります。

本会も融和と親睦の精神をさらに深めつつ、発展著しい地域を支える一翼を担えればと願っています。

竹中文博(39)



震災から1年以上過ぎようやく落ちつきました

来年で10周年

幸福大樽会

本会は相互の親睦を図り、母校の発展を念願すると共に、当行の発展に寄与することを目的に発足しました。会員は母校卒業生で、当行、またはそのグループに勤務する者とし、今年も新入2名を加え、総数124名となりました。

毎年定例総会を開催、今までに母校同窓会、就職部、クラブ関係の方々にも出席をお願いする等、今年で9回目を数えます。

総会では新入生の紹介、会員の近況報告、各会員との情報交換等、当行の幹部行員から若手行員まで分け隔てのない交流の図れる貴重な場となっています。毎回最後に行歌、学歌、逍遥歌を全員で歌い、学生時代を思い起こしています。

来年で当会も10周年を迎えます。一層の発展を祈っています。

倉崎健一(48)

春秋会で大いに語る

春秋会

平成8年9月30日、田中富三氏のお声がかりで日立金属高輪、和彊会館で春秋会を開催した。冒頭幹事の西山氏より積水化学工業(株)会長廣田馨氏(18)から今回は残念ながら欠席の旨のメッセージが披露された。久しぶりの顔合わせでお互いの健康を慶び、秋の料理に舌鼓を打ちながら歓談した。

日本以外で生活するならどこが良いかとの話では、カナダはちょっと寂しい、オーストラリアは5000万円持って行けば利息で暮らせるのは良いが、もっと良いのはケープタウンが一番住みやすいのではないかとか、130億円売れたファンドの話が出たりしたが、最後はやはり卒業生の就職問題が話題となり、個性ある自分を売り込める人物の育成こそ急務であることで一致し散会した。

出席者

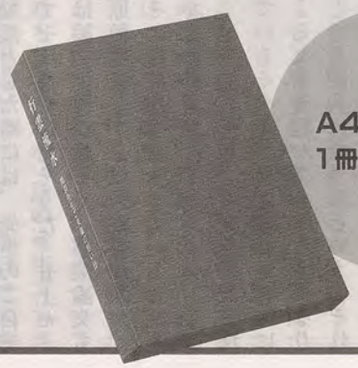
日立金属(株) 副社長 田中富三(18)
東京証券取引所副理事長 井阪健一(19)
大成建設(株) 専務取締役 竹村健一(19)
国際証券(株) 社長 松谷嘉隆(22)
同窓会東京支部代表幹事 西山昭吾(16)
井阪健一(19)

■トピックス TOPICS

『行雲流水―黒羽先生ご夫婦の想い出』刊行のご案内

本学元教授、日本経済史研究所長黒羽兵治郎先生(平成5年10月29日逝去)の追悼記念文集が刊行されました。各界から70名の方が寄稿され、写真も多数収録されています。

ご入り用の方は現金書留で日本経済史研究所まで。



A4判 352頁
1冊 3,000円

〈申し込み先〉

〒533
大阪市東淀川区大隅2-2-8
大阪経済大学内
日本経済史研究所

教育と研究を2本の柱に

香川大学経済学部教授　植木英治氏（35）



夏真っ盛りの8月、大学院同窓会の集まりに大阪へ来られたのを機に、前田悦子常任理事とともに梅田で植木教授にお会いした。インタビュアーの私とは同期・同好の士であるが、お会いするのは久しぶりである。

ひげを蓄えた姿は貫禄が出てきたが、学生当時の若々しさは変わっていない。14年にわたる徳山大学での奉職ののち、現在は香川大学の教授である。

高校卒業後いったんは社会人として勤めたが、「もっと社会で役立つ勉強」をすべく経大へ。課外授業である英会話を選んだのもその一環だったといえるが、この時のミス・グデマン先生が実に立派なクリスチャンでもあった。

ミス・グデマン先生と出会うことによって、今まで全く未知の「別の世界観」を得たのである。現在も脈々と流れる植木氏の教育に対する理念はここに原点を見いだすことができる。

学部ゼミの池内信行教授に大学院でも引き続き指導を受けた。しかし、ドクター2年の折り、恩師の急死で藤田敬三教授に変わる。留学はまずスイス神学校で語学研修、それからウイーン大学に2年間、研究者の道を確立する。かくして植木氏は学部・大学院とも経大で純粋培養された学究者となる。

『大学人となって、しみじみ思うことは、研究と教育はクルマの両輪の如きものと思うが、研究者としては種々の評価があるものの、教育者としての評価のシステムが欠如しているのが疑問である。大学では研究のみではなく、いい学生を育てれば、それが大学の評価につながり、立派な教育の場にできる』と植木教授はきっぱり言い切っておられた。

ちなみに研究テーマは「企業と社会」―企業の社会的責任と社会的貢献について―である。

（吉村和利・前田悦子記）

「銀行局長賞受賞」に輝く

びわこ銀行企画部文書課長　渕上清二氏（37）



9月14日、琵琶湖線にゆられ、渕上清二氏をたずねた。渕上氏は日本金融通信社（ニッキン）の40周年記念懸賞論文「10年後の金融機関は、どうあるべきか」において、大賞ともいえる共通テーマ特別賞（銀行局長賞）を2月に受賞された。

渕上氏は、昭和24年1月31日熊本県で生まれ、父の転勤で現在の守山の地に移り住まれた。大学時代は、井上清ゼミで、70年安保で騒然とした時には、先生のご自宅でゼミを受けたそうだ。井上ゼミは論文指導が厳しく、卒業論文も原稿用紙200枚程度書かれた。その経験が今に生きていることを非常に感謝されていた。

卒業後も毎年、論文を発表されているそうで、最近はパソコンによる文書管理ができるようになりとても便利になったという。それまでは奥様が清書を手伝われていたそうだ。中学生のお嬢さんお二人の作文コンクールの表彰状が何枚も飾られていた（渕上氏の表彰状は、びわこ銀行の研修所に保管されている）。氏は、昭和46年4月に旧滋賀相互銀行に入行、守山支店副長兼融資課長、行史編纂室副委員長を経て92年7月に企画部文書課長となり現在にいたっている。懸賞論文の受賞は、初受賞ではなく、これまで多数受賞されている。

そして日夜大学の公開講座を受講されたり、法務や近江商人の勉強をされているそうだ。物静かな紳士は、論文同様に将来を見据えていた。

（大門由秀記）

人に恵まれてこそ

市民生活協同組合ならコープ理事長
阪南大学教授　逸見　啓氏（32）



「今の私が存在しているのは、学生時代の故藤田敬三先生をはじめ出会った先生、先輩、同僚、後輩に生かされたからだ。学生時代は生意気でよく怒られもした。人に迷惑もかけた。失敗もした。だが、それを許してもらえる人が私の周りにはいた。」逸見氏は、藤田ゼミに所属した当時は、言いたいことを言い過ぎ、思ったことをはっきり口にする、人間関係が下手な学生であったとか。高校卒業後学費をアルバイトで稼ぎ、経大を卒業した苦学生でもあった。神戸商科大学大学院卒業後、静岡大学へ赴任し、現在阪南大学教授（経営情報学部経営学）である。『学生第一』の考えと『教育と研究だけでなく学者の社会的責任の追求』という藤田先生の教えの基、地域での生協運動や阪南大学では、部長としてサッカー部の強化に尽力され、部はめでたく1部入りを果たした。試合は全て観戦し、『学生に迷惑をかけられる先生たれ』との信条と共に『組織の主体たる学生』への数々のバックアップ体制を実現しての快挙であった。今や部は優勝を争う強豪である。「自分一人でやれたのではない」とここでも、素晴らしい監督や支援者学生（選手）の存在を強調される。母校の非常勤講師を10年以上している先生から大阪経済大学へ次の言葉をいただいた。「偏差値ではなく、何を学ぶか何をしたいのかはっきりつかんでさえいれば、学生の能力は向上する。学生は、厳しく指導する先生にこそもっと近づくべきだ。厳しさは愛情の裏返しであり、より厳しい道を選ぶことは、そのあとにより広い世界が開けるのだから。一方の教員は、学生の可能性を引き出し、彼らに手をさしのべてやって欲しい。さらに、発展のためには、経大大学院生を計画的にも欠員が生じたときには必ず採用することを勧める」

（藤原広太郎記）

「新規事業に胸をふくらます」

大陽東洋酸素株式会社
常務取締役環境機器営業本部長　岩崎正弘氏（27）



10月の初旬、大阪の本町にある大陽東洋酸素株式会社本社ビルに岩崎先輩を訪問した。出張されることが多く、欧米にも年に20日程行かれるという多忙な方で、ようやくいただいた1時間であったが、お話を伺っているとあっと言う間であった。

広島の高校を卒業後、母校に入学した。学生時代には、友達との付き合いが1番の思い出であり、現在でも年1回、同期会を開き親交を深めているそうだ。ゼミは藤田敬三ゼミに所属し、先生と中小企業の調査をおこなったことや、課外活動では自治会の副委員長として活躍されたそうである。

卒業後、すぐ大陽酸素（株）に入社され、2年ほどで広島に移り、広島に根拠地を開設したとき、工場用地の買収などを経験され、その腕を買われ29歳の若さで宮崎営業所の所長に抜擢された。その後子会社の太陽ケミカルを経て、現在の環境機器営業本部に配属された。

環境機器営業本部では最初8年は赤字を出す部だったのを年商50億円の部に育て、「今世紀中に100億円に」と意気込まれる。

モットーは「繊細に、果敢に」であり、若手の育成には「思ったことは全部言う」「人間を育てるのは得点主義」と話される。趣味はゴルフに囲碁。

いかにも仕事に油の乗り切った方らしく、熱っぽく仕事について語られていたが、話の途中で、「わたしも遊びますよ」と笑顔で大らかに笑われたのが印象的だった。

（菊川和義記）

「川柳万画――まんが」

岡村康裕（31）画・文
平成8年4月15日発行
大阪　かんと出版
179ページ



まず、愛する川柳ありきで、独創的な「きり絵まんが」があとからついてきた。ふだん着の日常生活に眼を向けた川柳。人生のエキスを引き出し、読者の共感を誘えばよし。ほほえましさ、苦笑い、ピリッとした風刺。読むだけでもけっこう楽しい言葉遊びの川柳に、さらに創作の4コマ、1コマまんがを添える。そのうえ、達者な「きり絵」で笑いを増幅し、きさくな著者のユーモアがにじみ出て、オモロイ本となった。

著者・岡村康裕氏は尼崎市立小園公民館の館長さん。公民館で日ごろ活躍されている生涯学習発信のイベントのなかで、上方芸能編集長・木津川計氏たちと出会い、そこから川柳と創作まんがが結び付いたとは、まことにいい話である。ことに黒川紫香氏の川柳に惚れて、「きり絵川柳はがき」から「川柳万画」に発展。温かい人柄の知的行政に拍手を送りたい。

何はともあれ、まず本を開いて見ること。「笑ってスッキリ、楽しく読んで作句のヒントに…」推薦文句のとおり、一服の清涼剤になること間違いなし。

（前田悦子記）

書き下ろしホラー・サスペンス「亡霊たちのフォークロア」

石飛卓美（40）著
平成8年3月1日発行
実業之日本社
221ページ



人知れぬ温泉地に旅した2人組の女、その温泉近くの村で行われる奇祭を取材しに来た男3人がひょんなことから一緒に旅を続けることに。その若者達の身の回りには次々と奇妙なことが、そしてついには恐ろしい事件が…。

最近、書店には心霊モノや、残酷な殺人モノ、怪物モノなどいろいろなホラー小説が数多く並んでいる。当書には、そのような現実離れしたホラーの怖さはない。しかし、日本のどこかの村で、実際に行われていそうな風習の中、先祖からの古いしきたりを守ろうとする村民の執念（亡霊）が、まかり間違えば自分の身にも降りかかりそうなところに、肌寒さを感じる。〝怖い話はちょっと〟と言う人にも結構なじめるのではないだろうか。

筆者の石飛氏にとっては、書いている途中でワープロに登録している文章が消えてしまうというハプニングを乗り越え難産の末、誕生したという小説。

長い夜にはとっておきの一冊である。

（菊川和義記）

「迷走する日本経済」

加藤正秋（10）著
平成8年発行
92ページ
定価1、200円



戦後の日米関係から経済大国と呼ばれるまでにいたった日本と米国の関係を明快に解説し、バブルが崩壊した現在の日本経済のさまざまな問題に鋭くメスをいれ、今後の日本経済の行方を説き明かした書である。

戦後勃発した朝鮮戦争では、軍事力をもたない日本の代わりに連合軍、とくに米国軍が出兵した。日本には思わぬ特需景気がもたらされ、敗戦国日本にとっては貴重な復興資金となった。

日本経済が発展し、米国に肩を並べるようになると、やがて、その両国の関係は貿易摩擦へと姿を変えていった。現在でも、日本の市場開放を求める米国と管理貿易に反対する日本との間で折り合いがつかないままである。現在の日本経済についても、「規制緩和」「住専の不良債権問題」「税制問題」など鋭い指摘がなされている。

本書は、『身近な日本経済』『日本経済の課題と展望』に続く三作目である。わかりやすい解説なので経済学の初学者にも一読の書と感じた。

（川崎　章記）

「2005年の金融機関――10年後のあるべき姿」「渕上清二氏（37）銀行局長賞論文収録」

木下純男編
平成8年2月14日発行
日本金融通信社
285ページ
定価1、500円



ホットインタビューでも紹介しました、びわこ銀行文書課長渕上清二氏の銀行局長賞受賞論文「10年後の金融機関はどうあるべきか」は、銀行のあるべき姿を、（1）金融機関を取り巻く環境の変化から（2）金融新時代における社会的役割（3）個別金融機関の基本的あり方に基づき論旨をまとめており、平易かつ金融業務全般にわたるまとまった内容です。

（大門由秀記）

「卒業生の書いた本」募集中!

お馴染み「ブックギャラリー」のコーナーでは、「卒業生の書いた本」を募集いたします。自薦他薦は問いません。どしどしご応募ください。

※応募多数の場合は、紙面の都合上すべてを掲載することができないかもしれません。掲載につきましては編集部にご一任くださいますようお願いいたします。

中村美智子さん卒然と逝く



平成8年6月25日夜、澱江編集会議の留守中に、能口さんから中村美智子さん逝去の電話が入っていた。先ほどまで同窓会ホールで局長と彼女の安否を気遣って話していた直後だけに、虫の知らせというか、孤独死とは、呆然となりました。

翌26日の午後、しとしと降る涙雨のさなか「長柄老人憩いのセンター」に局長と同期の山崎和、能口左和子、奥村美智子、西田法子さんと私が葬儀に参列して、永遠のお別れをしました。享年71歳でした。

中村さんは昭和22年卒業以来、同窓会常任理事として澱江編集に、また監事として長年、ご尽力なさいました。

往年の彼女は、ミーコの愛称でみんなから親しまれ、同時にするどい舌鋒を恐れられてもいました。在学中は戦後復興のエネルギー的存在で初めて学友会を組織し、初代自治会会長として華やかなリーダーでした。

松虫中学の教師生活、バー「啓＝ケイ」のママ時代と、とかく話題の人でした。いっぽう、いつも恋をする女性で、結婚すれど生涯「中村美智子」を貫き通し、夫婦別姓を先取りしたフェミニストでもありました。関目団地時代は自治会会長として活躍、原っぱで子供たちに伝統的な遊びを指導したり、晩年には夜間中学で半島出身の中高年に読み書きを教え、ひいては人生相談も。ために足場の便利な天六に転居するなど、ユニークで心やさしい人でもありました。

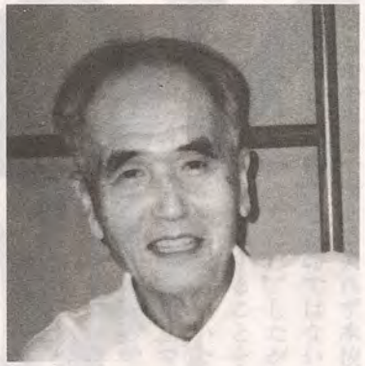
陰下事務局長からの問い合わせがあり、昨年6月2日私は連絡の取れないミーコの安否をたずねて出向きました。地上げ屋の策動があり、長柄中2丁目の新居に引っ越されたばかりの所を探し当てました。ミーコは往年の元気さは影をひそめてはいたものの、胃病も小康を保ち、同居の彼氏の話も聞かされて、一応平穏状態だと安堵したことでした。しかし、今年6月22日の理事会では姿を見ることはできませんでした。出席の返信は届いていたというのに。地域の人の話によると、私が若いと思っていた彼氏のほうが、この3月に急死されて、そのあと少しずつ老人性痴呆症が出てきたとか。地域ぐるみのケアを続けていた矢先、発見が3日遅れたとのこと。ひたすら彼氏の帰宅を信じて待ちわびていたとは、独り暮らしの孤独と不安は如何ばかりだったか。余りにも悲しく、辛い。

波乱万丈の人生の最後に、彼氏との短いながらも花のある人生となったのが、せめてもの救いでしたと、遺族代表挨拶で甥御氏は言っておられました。ただただ心安かれとご冥福をお祈りするばかりです。合掌。

前田悦子（13）

柴田金造君を偲ぶ

柴田金造君、いや金さん。長い間の温かい友情本当にありがとう。君と親しくなったのは昭和45年2月、戦後復活第1回8期生会で手伝ってもらってからだ。その会も今年で23回。君のお陰でこんなに長く続けられた。昭和56年1月に私が小さな事務所を持つと、毎日のように来て、8期生会の雑務処理や私の仕事を助けてくれた。また「月曜日に微笑みを！」というフレーズで、君の作詞、私の作曲で、8期生会の歌ができた。



私の本の出版記念パーティーの世話や、私が倉敷の奥の備中高梁へ行ったとき、黒正先生が愛飲しておられたと聞く、その地の名酒「大典白菊」を提げて帰り、先生を偲んで君と痛飲したこと、君は仏典や京都・奈良の古寺に詳しくいろいろと教えてくれたことなどなど……。君との17年間の思い出は尽きない。

昨年10月の終わり頃入院していた君のことをお嬢さんから「父はまだ肺ガンだと知りませんが、年内は保たないんです」との辛く悲しいお知らせをいただいたが・・。その君はとうとう12月6日に逝ってしまった。「朋あり遠方より来るあり。また楽しからずや」というがあまりにも遠くへ行ってしまった君、再び訪ねてくれることのない君、なんと悲しいことだ。

お別れに酒好きだった君に、井伏鱒二の名訳で知られる「酒を勧む……唐の宇武陵」の一文を捧げる

「コノ杯ヲ受ケテクレ、ドウゾナミナミトツガシテオクレ、花ニ嵐ノタトエモアルゾ、サヨナラダケガ人生ダ」在天の金さんの霊よ、受けてくれ。長い間、いろいろありがとう。

安らかに眠られんことを……。8期生一同の祈りをこめて……。

長尾　晃（8）

柴田南雄先生のご逝去を悼みて

学歌の作曲者である柴田南雄先生は本年2月2日死去された。享年79歳であった。

先生は戦前、戦後の作曲、評論活動を通じて、日本の音楽界に偉大な貢献と足跡を残された。特に12音技法を日本に紹介され戦後の若い世代の作曲家に大きな影響を与えられた。また、東京芸術大学、東京大学を初め、数々の大学で教鞭をとられ、幾多の英才を世に送り出された方である。その功績は多くの音楽賞や文化功労賞を受賞されている通りである。



先生が、本学の学歌の作曲をされた経緯は、故大北先生の知人で「隻腕のバリトン歌手」として有名だった伊藤武雄さんのご紹介である。当時、学生自治会委員長であった私が、学歌制定を発案し、故秋本先生に作詞はしていただいたが、作曲者について困っていた時であった。早速、お手紙で率直に事情を述べ、作曲をお願いしたところ快く承諾され、歌詞をお送りしてから旬日を経ずして完成のご通知をいただいた。直ぐ上京し、目白にあったご自宅に伺うと「私にとって校歌の作曲は初めての経験ですが新しく発足された大阪経済大学の若々しい、そして明るい、しかも師弟が手を取り合って共に学ぼうという創学の精神を第一に尊重して作りました」という好意あふれるお話をされた後、自らピアノで演奏をしてくださった。その時の感動は今なお鮮やかに覚えている。

後年、奇しきご縁で私が東京都交響楽団の役員に就いた時、先生に評議員としてお世話になり、お会いするとよく「あの学歌はよく歌われていますか」とお尋ねがあった。先生にとっても一番愛着があったようである。当時として、満足なお礼もできず、ただただ秋本、柴田両先生の温かいご厚情によって作られた学歌が、これからも在校生、卒業生によって愛唱され、本学の発展とともに永遠に歌い継がれていくことを、先生のご冥福を心からお祈りしながらも念願し擱筆する。

牧田安夫（19）

NORTH TO SOUTH



北から南から

短歌五首「追憶」

佐々木聰(4)

白き学舎の横に小川も流れゐて
鮒も目高も泳ぎゐたりき
六十年過ぎたる今も同窓の
友と浪速の街は恋しき
黒正校長の授業を一度エスケープした事もあり若かりしかな
飯代を貸してくれし学食の
光ちゃん世にありやなきや
七十代の半ばも過ぎておぼろなり
ノモンハンの地に戦ひしことも

自宅　広島県比婆郡東城町大字川東1451－3
勤先　酒類卸売業

社会に出て思うこと

戸田秀親(6)

世は軍国主義の嵐吹く真只中、だが母校はときの権力に迎合することなく自由で明るい研学の場だった。こんなこともあった。軍事教官、佐藤陸軍大佐が、迫りくる日米開戦の危機を前に、強く開戦反対を訴えられた。高級将校の反戦講義など当時はとても考えられるはずもなかったことだった。

開戦、敗戦、そして激しい社会変化の半世紀を経て、あらためて母校を想うとき、そこにはホンモノの「教育」があった。そのことを誇りに思う。

自宅　神戸市兵庫区矢部町27－2
勤先　明和企業（株）

偉大な先生との想い出

石濱欣弐(7)

母校で得た私の財産は黒正巌先生から受けた強烈な想い出である。

人間味豊かな個性の強い先生から週1回講義を楽しんで受けたものだった。とりわけ全学生が、寒中、学校から全員徒歩で比叡山を巡って大津へ入り、近江神宮の社頭で霏霏として降る雪の中で、非常時局下、軽挙妄動せずに学生の本分を守るようにと裂々たる口調で教示された印象はいまだに忘れることができない。

偉大な先生であった。

自宅　名古屋市昭和区川名山町1－60

あの言葉が今も宝

串田一(8)

過去の思い出を多く話すようになったら老人の仲間入りだそうだ。母校で得た私の財産として昭和高商の思い出を一つ二つ。「君等は

何らかの事情で国立に入れず本校に入学した。頭が悪いのではない。努力が足りなかっただけ。したがって人より多く努力をすることを忘れないで勉学に励んでもらいたい。外国の有名校の多くは私立である。私立は特色が出せるからである」黒正校長の言。「学校の授業は入り口の扉を開くだけ。あとは君等の努力次第だ」某教授の言。努力するつもりで努力していなかった。買い込んだ書物も飾りのまま。人生の出口に差しかかり、いまだに入り口をうろうろし、過去の思い出話が多くなった今日このごろである。

自宅　光市光井6丁目8－15

私を育んだ自由な学風

平岡博(15)

敗戦翌年の入学です。大阪は廃墟と化し、学舎は迷彩色、教室の一部は戦時の生産機器が放置されたまま。今の恵まれた大学環境からは想像もつかない状況でした。それでも学生の表情は明るく、授業もきちんと行われていました。

私の場合は、学費かせぎのアルバイトや、海外引揚者援護学生同盟でのボランティアに追われ、授業はよくさぼりました。皆出席は久野収教授の哲学、渡部徹教授の経済学説史くらい。その一方で、著名文化人の学外での講演やシンポジウムに進んで参加しました。大阪商工会議所での湯川秀樹博士の人間復興講座を聴講したときは控え室で「あなたの論旨には矛盾がある」と詰め寄りました。後に新聞記者（毎日新聞）となり、湯川博士に電話でコメントをお願いしたとき「あの時の君か」と快く応じてくださったことは忘れ得ぬ青春の思い出です。また、学友と民法の授業をさぼり、大山郁夫帰国講演会に向かったことがありました。途中、当の風間鶴寿教授と出くわしましたが、訳を話すと「そうか」と一言。その時の優しく温かい眼差しが今も脳裏に深く焼き付いています。

強調したいのは施設の不備とは関係なく、学内には自由と寛容の空気がみなぎっていたことでした。戦前派のカタクナな頭は根底から揺さぶられ、新鮮な自由に驚きと感動を覚えました。私は新聞記者31年、大学講師（マスコミ論）10年。公権力に屈しない自由な発想と取材、講義につとめたつもりですが、そのような ジャーナリストとして私を育んでくださったものは母校の自由な学風であり、私にはかけがえのない財産であると信じています。

自宅　名古屋市東区大幸南2－21－306

健康第一に有意義な日々を

数井(広畑)安子(15)

余生の限界を厳しくも知らなければならない年齢となりました。振り返れば過ぎし日は、長いようで短い。これからの日々も一段と早く感じることでしょう。去年の出来事は主人の病気、母の死、十日の差で友人（15回生新田恭子さん）が他界したことなど。次々と大津波が来て、驚きと悲しみの日々でした。今年は何といっても健康第一。それと年齢を忘れないこと。気は若くても体は確実に年老いて来ています。老人介護が問題視されている昨今、特に自分自身の管理が大切と思います。また、立ち止まって辺りを見回す余裕を持ちたいもの。忙しい、忙しいと言いながら、人生を終えないように。去年の打撃を胸に、今年こそは、否、これからはもっともっと、有意義な日々が送れることを願っております。皆さまもお体を大切に。

自宅　奈良市四条大路南町17－5

健康について

生賀豊(16)

同期で同じ日産火災勤務（大経専卒の小生が2年先に就職）だった、納所保幸君の訃報に接し、定年後の健康について考えさせられている。

6月下旬定期受診の人間ドックの結果、今までどおりの日常生活でよい旨の通知を受け、ひと安心。卒業以来、46年半経過。体形もほとんど変わらず、現在も日産グループ若者の結婚相談所（日産懇話会ファミリークラブ）に週休1日で元気に勤めている。

「人生は定年からが面白い」と言われているので、そのため体・心両面の健康こそ大切と自戒につとめている。

自宅　東京都板橋区小茂根3－6－18パークハイム小竹向原203
勤先　日産火災総合サービス（株）

自分を見つめ直す回想録を

鷲谷喬(16)

昨年12月、胃がんの手術を受け、胃と胆のうを摘出しました。現在、

NORTH TO SOUTH
北から南から

半年を経過し、順調に快復しているようで、家族ともども毎日を大切に過ごすようにしています。
仕事の方も、ある程度自由に勤務しています。前職を含め、45年余りを経た今、自分を見つめ直す時を与えられたと思い、これまでの日記（メモのようなもの）を基に回想録のようなものをまとめようとしています。ゆっくりと…。

自宅　守口市藤田町4－2－10
勤先　（株）関西通信社

同年代の人より若く

吉田卓司(18)

卒業して早45年近くになりました。現役時代に大学でいろいろと教えていただいたことを社会に役立ててまいりました。私は運動部に属し、若い時期に体をつくって参りましたので、病気らしい病気もせず元気にやってこれました。今でも同年代の人より若く感じます。
母校で教えていただいたことはもちろんですが、体力をつくっていただいたことが私の財産であると思います。

自宅　川崎市高津区
梶ヶ谷4－2－27

初孫に思うこと

花宮両一(20)

長男は祖父母に育てられた「あまえの世界」の産物です。だから、一昨年誕生した初孫は成長期には決していろいろと教えることはせず、本人によく物を見させ、考えさせて……と家内ともどもそのつもりでいました。今年4月末で満2歳になりましたが、近年は子供が少なくめずらしい社会状況の中、ご近所の方々や知人の方たちの教えよろしく成長しつつあります。
私たち夫婦は最初の考えを変更させられるのではないか、やはり人間は同じことをくり返し、子育てもそうなのか…と思い知らされている今日このごろです。しかし、初志は貫きたいと思ってはいます。果たして…。

自宅　大分県津久見市
　　中央町18－2
勤先　（有）マルハナ

若者たちへ

岡田泰雄(卓三)(22)

小生は戦前、戦中、戦後の世代です。
終戦後自由主義の言葉で社会に職場に従事したと記憶しておりますが、規律の中に自由を求めたと思います。現在の若者は悪い意味の自己中心主義ではないかと思います。社会に対する視野・世界の中の日本の今後が危ぶまれるように思います。

自宅　高松市高松町1727－5
勤先　喜岡寺

現代人は知恵不足!?

大亦章生(23)

世の中へ出て役立つことは、知識より知恵であると思う。我々昭和のシングル生まれは幸か不幸か軍事一色の時代で耐乏生活をしいられ、小・中学校とほとんど勉強はしなかった。その上物不足で食べるもの、着るものはなく、だから工夫を凝らすしかなかった。野球のボールは自分で作り、クラブ、バットもまたしかり。パンは自家製等々。
今の世の中は何でも有り余って面白くない。生まれた時から一流大学、一流企業のエリートを目指して知識をつめこむための知識は有り余って知恵の不足ではないでしょうか。

母校よ、発展の道をひた走れ！

大盛豊一(23)

1996年現在、日本の大学は国立・私立合わせて確か、585校になるかと思う。ご承知のように18歳人口の減少と大学の乱立は、今日の大学を「氷河期」という言葉で表象している。まさに、戦国乱戦、サバイバル戦さながらである。このような危機的状況を乗り越えて生き残るためには、母校経大の存在を広く世の人々に知ってもらう以外にはない。
それには広報活動はもちろんのこと、単科大学、都市型大学という個性、特性を活かし、地域経済界の期待に沿う研究を進めること、優れた研究者がいること、ポイントターゲッターの学者がいる等々の条件が満たされなければならないだろう。
Jリーグ選手やアメリカンフットボール選手の出身大学に名を連ねることはよいとして、教員一人当たりの学生数の多い大学として10位以内にランク付けされること

自宅　和歌山市直川1290
勤先　陽和興産（株）

はどうもいただけない。母校が他校の後塵を拝することなく、ひたすら発展の道をひた走りするよう祈りたい。

自宅　宮崎市大字島之内
　　9213－50
勤先　宮崎県立宮崎養護学校常勤講師

中学教師として定年を迎えて

南出弘毅(25)

今年で60歳の定年を迎えることになりますが、中学校の教師として、社会科の指導とテニスクラブの指導に情熱を燃やし、5年間は県教育委員会の指導主事として生徒指導を担当。その後、校長としての8年間は21世紀を展望した教育改革の中で、特に子供たちが調和のとれた心の豊かな人間として成長してくれることを願い「心の教育」に取り組みました。昨年と今年は郡の中学校体育連盟会長を務め、振り返ってみると目まぐるしい生活の連続でありました。しかし、それなりに充実した生活でもありました。後輩の諸君のご健闘を祈ります。

自宅　橋本市市脇5－2－13
勤先　九度山町立九度山中学校

充実した4年間

松下好孝(26)

当時、演劇研究部（劇研）に所属していましたが、4年間の大学生活はクラブ活動を中心に動いていました。よく学び?よく遊べを実践しておりました。友人知己を得て大阪を第二の故郷と思うほどに、充実した学生生活でした。
地方都市で、自営の零細事業を継ぐ形となりましたが、就業した当時とは事業内容も大きく異なって、メーカーがらみの工事仕事でどうにか糊口を凌いでいます。そうした仕事に忙殺されながらも、時間を割いてはいろいろな趣味に没頭しています。今もってクラブ活動の延長線にあるようです。
卒業以来、母校に寄っていませんが、『澱江』でその発展ぶりを拝見しています。前号のグラビアで「経大周辺マップ」を見て、随分様子が変わっているのを知りました。大学のそばの3畳間続きのアパート生活を懐かしく思い出しました。

自宅　別府市鶴見町9組－1
勤先　（株）松下金物店

定年後は西へ東へ海外見聞！

中谷一也(27)

来年は定年退職する年齢になりました。今年5月ゴールデンウイークを使って、家族4人で米国東海岸まで出向き、米国滞在中の友人・知人に会い、楽しいときを過ごすことができました。次回からは、時間がタップリあるので特にスケジュールを組まず、田舎を中心に今回会うことができなかった皆さまを訪問したいと思っています。また、ヨーロッパについては、長年付き合っているロンドンのペンフレンド宅をベースキャンプにさせていただき、ワイフを主だった都市に案内し、未見学のポルトガル、アイルランドなどにも出かけられればと思っています。

自宅　横浜市青葉区
　　鴨志田町816－88
勤先　東光（株）

日本の見通しはいかに!?

牧野員也(27)

我国をとりまく内外の環境を見るとき、大きな変化が起こっていることに気がつきます。経済のグローバル化による産業の空洞化が進み、ローコスト経営として世界一高いと言われる日本の賃金をきらい、低賃金で優秀な人材が豊富な海外へ生産拠点を移動。安い価格の製品を輸入し、価格破壊が起こり、大型店の乱立と既存商店の落ち込みはまさに流通革命となって現れております。景気はゆるやかに回復基調にあるとのこと。さて、このまま楽観してよいのか。公共投資の前倒し、消費税の税率アップ、労働時間の短縮、為替相場の動向、高齢化社会の対応等々、景気はどうなるのか。また、政治情勢も気になるところです。同窓生御一同さまの御健勝を心からお祈り申し上げます。

自宅　岡山県真庭郡
　　久世町久世2635
勤先　会計事務所経営

黒正イズムと経大の発展を

阿瀬川敏夫(28)

卒後30有余年、母校益々のご発展慶賀に存じます。県人会諸氏何かとご高配感謝しています。
経大で習得した数々の知恵を心の支えとして、残り少ない人生に

NORTH TO SOUTH
北から南から

新たな1ページを作るべく、第二の人生（勤め）を決意し現在にいたっています。人生はスポーツ。お互い切磋琢磨し、自分の能力を最大限に引き出し、発揮することがやがて社会に貢献すると常々考えています。黒正イズム「道理貫天地」この一句は私の大きな財産です。世はまさに情報化時代。経大を評価するにはスポーツに強くなり、マスコミを通した宣伝効果が多大と考えます。宣伝効果が若者への関心を呼び、存続への大きな近道となり、若者が集まること、すなわち延命策の一要因と考えます。

自宅　小松島市日開野町
　　行地21－6
勤先　南海産業（株）出荷職長

多機能保育園を目指して

阿部好宣(30)

現在私は徳島市のひまわり保育園（0歳～3歳未満の保育）で仕事をしております。高齢化、少子化が急速に進み、子供の出生数は全国平均1・50となっています。大人と子供のバランスのとれる2・2の出生数まで上げていくためにいろんな努力がされていますが、子供を安心して生み、育てることのできる環境づくりを整備することが求められています。国のエンゼルプランも実施に移されていることでもあり、当保育園ではこの機会に全面改築を行い、地域のニーズを受け入れられる多機能保育園を目指して努力しているところでございます。

自宅　徳島県名東郡佐那河内村
　　下字中辺45－2
勤先　ひまわり保育園

今懐かしく思う上新庄

片山昭男(32)

30年前の上新庄を懐かしく思い出しています。会社の仕入れ先メーカーには経大卒の後輩営業マンが数名おり、来社しますが、親しみを持って接しています。

今年から経大同窓会愛媛支部のお手伝いをすることになりました。小野支部長のもと、300名を超す同窓生がいます。先輩、同期、後輩の皆さまのため少しでもお役立てできるよう、お手伝いをさせていただきます。最後に大阪経済大学の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

自宅　愛媛県松山市味酒町
　　2丁目8－4
勤先　北四国商事（株）

第二の人生を楽しく、明るく

寺澤　智(32)

52歳、卒後30年、会社でも役員として後継者へと考えるこのごろです。時の経過も矢のごとし、仕事も大事だが人生100年と考えれば、第二の人生を歩まんとする今、無趣味な私には仕事以外見つからない。毎日毎日を楽しく明るく歩みたい。

自宅　宮城県古川市
　　城西1－9－12
勤先　東北三協紙管（株）仙台工場

グローバルな思考の若者

前島（大川）武子(33)

我、学生時代は、マルクス経済学を学びその理論の具現化をいかになすべきかと黎明までディスカッションした。そして学生運動に熱き情熱を傾けた。

現在、大学生である息子は、ケインズ経済学を学び、国際的視野を身につけたいと、兄はハワイ大学サマーセミナーへ、弟はオレゴンにホームステイと夏休みをエンジョイした。

彼らはグローバリゼーションの中で変動しつつある世界経済を勉強し、アメリカ等各国の企業を多面的に研究したいと言う。提出するレポートをパソコンで打つ姿に、移りゆく時を感じる今日このごろです。

自宅　静岡県浜松市
　　布橋2－20－1

父からもらった私の財産、母校

小島修二(35)

卒業して29年間が過ぎ、時代も昭和から平成と変わりました。私が入学した時代は学生運動の激しい時代でした。また、大学まで行くものは当時で約半分くらいでした。運動部（サッカー部）に入り、練習の激しさは本当によい勉強になりました。

今になって思えば、父から「お前は次男だから財産も何もない。せめて大学ぐらいは」と行かせてくれた父に心から感謝しています。大学4年間で素晴らしい友人に出会い、29年毎年、4人（今は3人）で酒を飲み、学生時代のことやいろいろな話をする楽しさ。さらに東京の支部総会で井阪先輩、西山先輩のような多くの素晴らしい卒業生と出会え、大学に行って良かったと思うと同時に母校を誇りに思うことこそ、僕の財産です。

自宅　埼玉県川越市
　　石原町2－62－28
勤先　（株）東和

人間関係の大切さを教えられた母校

小西春樹(35)

先輩、同輩、諸氏の皆さま、そしてお世話になりました大槻先生お元気でしょうか。小西です。山岳部から体育会に移り、母校のスポーツ発展に少なからずもその一翼を担ったと思っておりますが、現在、教職につき、子供たちに常日ごろ話していることは人間関係を大切にし、人の身になって考えることです。と、申しますのは大学時代、先輩、後輩の区別が厳しく、そんな時、同輩からかけられた優しい言葉、また、早朝の掃除などサボりたい時があっても、同輩の友人に迷惑をかけたくない一念で朝早く下宿を出たものでした。今、私が大切にしていることは、人のぬくもりと人がやりたがらぬことを進んでするということです。

自宅　広島県深安郡神辺町
　　道上2640－22
勤先　盈進学園　盈進高等学校

"関西の雄"となれ

片野（青木）勉(36)

少子化時代に入り、大学への入学者も減少していくことが予想されます。このサバイバル時代の生き残り戦略を考えると、やはり特色のある大学づくり、充実した学生生活が送れるかどうかではないでしょうか。現在の単科大学を継続していくのであれば、その学部（学科）の質や特色などにおいて総合大学の学部（学科）の同等レベルへ、欲を言えば、それ以上に引き上げ、関西の雄として君臨できるように切に希望しております。

自宅　新潟県三島郡三島町
　　上岩井3399
勤先　社会福祉法人
　　長岡福祉協会　桐樹園

経大の名をもっと広めて

阿部正利(37)

経大

私の住む九州大分ではこの名はあまり知られていない。新聞スポーツ面で経大野球部等の活躍が載っていると我がことのように見入っている。他の大学名は大学説明会や新聞紙上でよくお目にかかる。経大はそういうことをしなくても学生が集まるということで大変喜ばしいことだと思う。しかし、地方の同窓生にとっては、いろんな機会に母校の名を見聞きすることで誇りと喜びを感じる。今は畑違いの役所に勤めている私だが、母校への思い入れはいつまでも変わらない。母校経大の名をもっと地方に広めて欲しいと思うのは私だけだろうか。

自宅　大分市東八幡5丁目1組
勤先　大分地方検察庁

人生の大恩師

楠啓次郎(38)

経大では幸いにして鈴木亨先生より「人生の極意」を、池内信行先生には「企業経営の真髄」を教えていただきました。このお二人のおかげで、企業人となった今でもドイツ経営経済学の池内理論（企業あっての経済でなく経済あっての企業）が小生の経営思想の根底に流れております。企業内での大きな問題に遭遇したとき、企業の傲慢を戒め、常に経済の論理に忠実にことに当たっております。

一方カトリック信者である小生がマルキシズムという鋭い社会分析に驚き苦悩した経大時代でありましたが、神と唯物論との二律背反を見事に解決された鈴木亨先生こそ、小生の人生の大恩師であります。今般の「鈴木亨著作集」全5巻（三一書房）の発刊を心よりお喜び申し上げ、先生に感謝いたす次第です。

自宅　東京都目黒区
　　中目黒5－7－28
勤先　（株）きんでん

今、大学時代を思うに

国井孝幸(38)

大学を卒業し、県庁に入庁してから24年が経過したが、今振り返ってみるとあっという間の24年間であったような気がする。最近は体力の衰えもさることながら、気力の方も何となく減退してきたところである。しかし、この『澱江』の原稿依頼を受け取り、昔日のクラブ活動など楽しかった大学時代を思い出すにつれ、これからも「日々新たに、また日に新たなり」と気持ちを引き締めなくては

NORTH TO SOUTH
北から南から

と思っているこのごろである。
ところで昭和46年当時のグリークラブの諸氏、お元気ですか。
自宅　高松市一宮町1604－3
勤先　香川県庁議会事務局

母校は社会人となるための助走

斉藤敏明(40)

母校から投稿の依頼を受け、今日書こう、今日書こう、と思いながらペンをとったのは締切り間際。大文字送り火当日の深夜となってしまいました。
さて、私が経大に入学しましたのは、あの万博が大阪の千里で開催された昭和45年。もう20年以上も前になってしまいました。当時の大学ではどこでも当然のことでしたが、いゆるマスプロ教育の中で、ややもすれば当初の希望、目標を見失いがちになっていた私ですが、3年次から倉辻ゼミに入れていただいたことをきっかけにようやく本来の自分を取り戻すことができたのです。
倉辻ゼミは先生のお人柄もあり、非常にアットホームな雰囲気の中でそこに縁あって集まった仲間と本当にいろんなことを語り合える機会を得、大学生活が日々活き活きしたものになっていくのが実感できました。大げさに言えば、こうした学生生活での私の大切な居場所を見つけられたことが、社会人として飛び立つ非常に良い助走となり、また20数年を経た今でも私の人生にとっての大きな財産となっているのです。最後になりましたが、母校並びに同窓生諸氏の益々のご発展をお祈りいたしましてペンを置きたいと思います。
自宅　京都市山科区
　　厨子奥若林町74－1
勤先　京阪電気鉄道（株）

新しい職場で、尽力を注ぐ

山之内岳(41)

平成8年4月から現在の長島高校に事務長として勤務しております。かねてからの勉強不足と7年ぶりの学校現場での勤務に、わからないことも多く、周りの人に多大な迷惑をかけていることです。
まず、研修を重ね、事務処理を確実にこなせるように、また本務である施設の管理、整備等に力を注ぎたい。そして明るい職場づくりにも努めたいと思っています。
自宅　鹿児島市紫原2－28－2
勤先　鹿児島県立長島高等学校

素晴らしい友を得た青春時代

鍵谷壽宏(42)

私が経大で学んでいた時は学生運動の最期のころ。所属していたESSクラブも皆が一所懸命で女子大との交流や合宿が楽しかった。3畳一間の下宿屋では寝食を共にし、人生を語り、故郷を自慢しあった友。アルバイトを共にした仲間…。こんな田舎育ちの私が、どれだけ多くの友に刺激を受け、支えられてきたか、今さらながら感謝の気持ちでいっぱいである。素晴らしい友を得、青春のエネルギーを注ぎ込めた学生時代が、今の自分の礎となっている。今、人を指導する立場となっているが、自分のできることに一所懸命生きることを共に学んでいきたいと思っている。
自宅　奈良県吉野郡下市町
　　谷10－5
勤先　奈良県教育委員会
　　保険体育科（吉野町教育委員会）

一人ひとりに生きる権利を

赤松秀治(44)

人生最大の仕事、それは人間が人間であることを認める権利を確立することである。つまり自分らしく生きることであると思う。私が福祉の仕事に足を踏み入れたのは実は今の現実の社会が、人間を人間らしく扱っていないのではという、単純な疑問からである。
人間は若いときは人の世話にはならないと思うのであるが、実はすでに我々は赤ちゃんの時から今現在にいたるまで人のお世話になっているという現実を直視すべきである。これからの社会は急速に高齢化していくだろう。今から一人ひとりが自分の自己確立のため、前向きに進んでもらいたい。そして一人ひとりの生きる権利を大切にしてもらいたい。
自宅　兵庫県美方郡浜坂町
　　浜坂1056－1
勤先　社会福祉法人
　　みかたこぶしの里

経大の発展を

曽原博幸(47)

日本経済の景気も回復の兆しが見られますが、私の勤務する化学メーカー会社はまだまだ予断を許さない厳しい状況が続いています。経大を卒業して社会人となり、15年を経過し、毎日満員電車に揺られ、仕事に追われ忙しい日々を送っています。
卒業以来、なかなか母校に立ち寄ることはできませんが、たまの大阪出張の際、新幹線のアナウンスが新大阪を告げるとき、車窓の外を思わず身を乗り出して、母校の姿を見て、心の中で「経大の発展を!!」とエールを送っております。
自宅　東京都小金井市
　　梶野町4－5－16－206
勤先　石原産業（株）在籍、
　　石原バイオサイエンス（株）
　　出向

『澱江』が届くと蘇る大学時代

河本陽介(51)

卒業して11年の月日がたち、社会人としても中堅クラスの仲間入りになり、仕事もそれなりの地位、責任も重くなってきたと感じる一方、年々大学時代の懐かしさがだんだん薄れつつあるのが実感です。その中で母校の活躍を伝える新聞等を目にするときや、この『澱江』が届く都度、一瞬自分の大学時代とだぶり、束の間の懐かしさが蘇ります。これからも母校の発展と活躍を願っております。
自宅　静岡市竜南
　　1－16－22－205
勤先　（株）大森屋静岡駐在所
　　（所長）

母校を誇りに思うとき

安本竜三(52)

なぜ中国が好きなのですか、と問われる毎に、まず母校経大を思い出す。3回生春休みのゼミの北京短期留学の時に受けたカルチャーショックが無ければ、今の自分は無かったからだ。その当時の「ちょっくら行ってみるか」という軽い気持ち、今思えばこれこそが大切なことだったのだなとしみじみ感じてしまう。
今はそれこそ何にでもチャレンジできる時代だ。とりあえず動いてみればいいのではないか。それが将来どれだけ素晴らしい財産となるかわからないのだから。
自宅　山口県徳山市久米
　　旭ケ丘931－39
勤先　大晃機械工業（株）
　　北京事務所

5年5カ月ぶりの再会

加瀬(岩上)裕子(57)

卒業後、1年で結婚、同時に関東への引っ越しなど、生活環境の変化で大学時代のことなど思い出すこともありませんでした。この春、主人の仕事の都合で岡山に越し、専業主婦に納まりました。時間に余裕があるので、のんびり引っ越しの片付けをしながら昔のアルバムを見ていると大学時代の写真を発見。とても懐かしく、皆に会いたくなり、連絡を取り合って8月、初のゼミ同窓会を開きました。半数の参加で先生も来てくださいました。ゼミの懐かしい話が尽きませんでしたが、仕事の話も豊富で、学生のころと比べ、皆とても頼もしかったです。
「いいゼミだった」「経大を出てよかった」という言葉があちこちから出て、私も改めて経大で学べてよかったと思いました。そして経大で得た、大切な仲間との交流をこれからも続けようと思います。
自宅　岡山県邑久郡長船町土師
　　2693　B－102

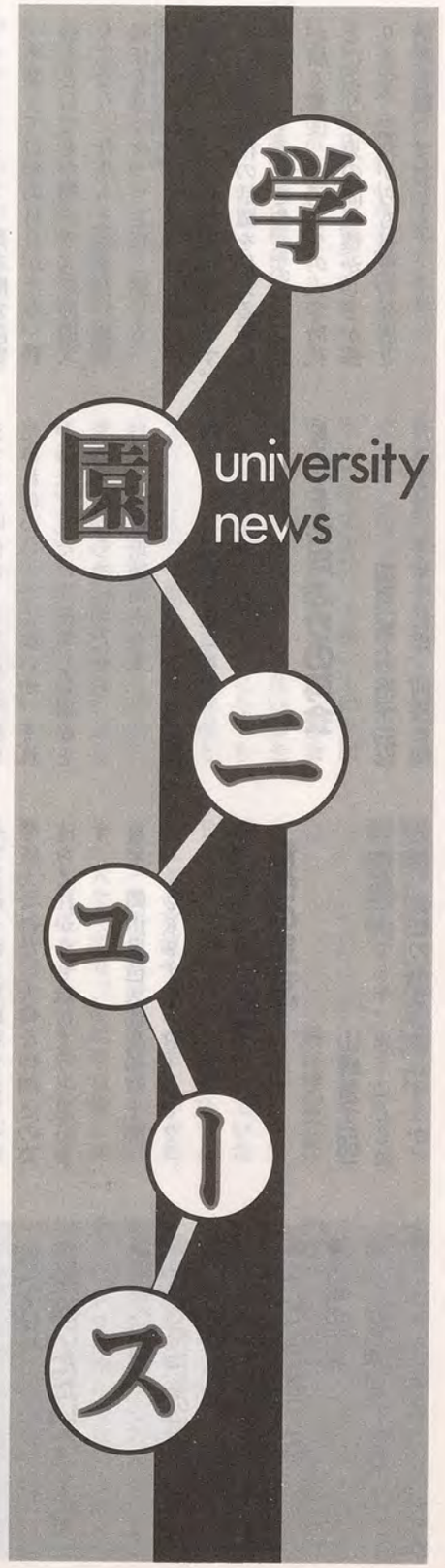
社会人となった「責任の重さ」

山崎智子(59)

社会に出て3年、思うことと言えば「責任の重さ」でしょうか。新人であろうがベテランであろうが、各々がプロ意識を持って個々の仕事をこなしていかねばならない。一所懸命だけでは認められず、各自の仕事の結果、成果が求められる。外から見れば新人ということは通用しません。社会人である限り各々がその会社の看板をさげている一人の人間です。会社内では上司、部下、先輩、後輩という上下関係はあっても外の人から見れば、私たちは老若男女問わず、みな同じ会社の看板（責任）を背負った人間である、ということを今感じています。
自宅　明石市魚住町
　　錦が丘2－13－21
勤先　（株）近畿銀行

皆さんにご投稿いただいたテーマ

- 母校への提案
- 母校で得た私の財産
- 今年一番嬉しかったこと
- 今年一番思うこと
- 社会に出て思うこと
- 近頃の若者
- これからやりたいこと



入試

1996年度入試結果

◎1996年度推薦入学選考結果

1995年11月10日㈮に特技（スポーツ）推薦を、12月3日㈰に普通科・商業科推薦を実施しました。結果は次頁の表の通りです。

◎1996年度一般入試結果

全般的な入試環境は18歳人口の減少に加えて、依然引き続く景気低迷の影響を受け、

◇「国公立志向」
◇「地元志向」
◇「実学志向」
◇「文低理高傾向」

という本学にとって厳しい状況の中で1996年度入試を実施しました。

〈増えた志願者〉

一般入試・推薦入試の志願者数は前年度よりも51名増え、過去2番目の19、198名を数えました。中でも現役志願者および女子志願者の大幅な増加が特徴的でした。その要因としては、A方式・B方式・C方式・センター試験利用等と、入試の多様化により受験しやすくなったことが考えられます。1～3教科の複線型入試実施の2年目でしたが、結果を見れば入学試験制度が受験生に定着してきたと言えるでしょう。

A方式の志願者は、1、569名で167名（＋11・9％）の増加となりました。合格者は、231名で65名（△22・0％）の減少で、倍率は4・7→6・7倍と高くなりました。

B方式の志願者は、1部合計10、804名で921名（＋9・3％）の増加となりました。一方2部は、1、557名で、1、055名（△40・4％）の減少でした。1・2部合計は12、361名で134名（△1・1％）の微減でした。第1部の合格者は2、277名で233名（△9・3％）の減少で、倍率は3・8→4・6倍と少し高くなりました。

C方式の志願者は3、112名で919名（△22・8％）の減少でした。合格者は230名で46名（△16・7％）の減少で、倍率は13・8→12・8倍と昨年同様高い倍率になりました。

センター試験利用の志願者は、1、525名で976名（＋177・8％）と大幅な増加になりました。合格者は810名で、前年度より391名（＋93・3％）増加しました。志願者の大幅増により倍率は、1・3→1・9倍と少し高くなりました。また、地域別でみ

ますと31％が近畿以外の受験生で、全国から志願者が集まりました。

〈現役受験生の健闘〉

第1部の合格者の現役占有率（現浪比）は、全体で40・0％（＋11・2ポイント）を占め、試験方式別では、A方式の志願者段階の現役占有率は、62・1％（＋5・4ポイント）と増え、合格者段階でも55・4％（＋9・5ポイント）と大幅に増えました。B方式でも、志願者は50・3％（＋11・7ポイント）と50％を超え、合格者は38・3％（＋12・9ポイント）と前年度を大きく上回りました。C方式の志願者は48・2％（＋5・5ポイント）で、合格者は38・3％（＋5ポイント）と増えました。センター試験の志願者は49・8％（＋12・1ポイント）で、合格者は、41・0％（＋7・3ポイント）となりここでも現役が相当頑張りました。

〈女子受験生の大幅増〉

女子志願者は毎年増加しており、'96年度はその傾向が特に顕著でした。志願者は996→1、379名と383名（＋38・5％）の増加に、また合格者は293→417名で124名（＋42・3％）に増加しました。どの試験方式の志願者段階、合格者段階でも女子占有率が増加しています。女子の四年生大学志向の高まりと強い実学志向の中で、不況による〝氷河期〟と称される厳しい就職状況を意識して学習に励んだ現れでしょう。

A方式（英語1教科）入試　志願者・合格者状況（第1部）　（　）は女子内数

学科	志願者 現役	志願者 浪人	志願者 その他	志願者 合計	合格者 現役	合格者 浪人	合格者 その他	合格者 合計	倍率	合格最低点（満点200）
経済	492 (25)	277 (3)	4 (1)	773 (29)	72 (10)	48 (1)	2 (1)	122 (12)	6.3	106
経営	258 (41)	146 (11)	2 (0)	406 (52)	37 (14)	28 (3)	1 (0)	66 (17)	6.1	105
経営情報	224 (39)	164 (4)	2 (0)	390 (43)	19 (6)	23 (0)	1 (0)	43 (6)	9.0	104
合計	974 (105)	587 (18)	8 (1)	1,569 (124)	128 (30)	99 (4)	4 (1)	231 (35)	—	—

B方式（3教科）入試　志願者・合格者状況（第1部）　（　）は女子内数

学科	志願者 現役	志願者 浪人	志願者 その他	志願者 合計	合格者 現役	合格者 浪人	合格者 その他	合格者 合計	倍率	合格最低点（満点400）
経済	2,647 (196)	2,188 (62)	25 (4)	4,860 (262)	426 (49)	596 (25)	3 (0)	1,025 (74)	4.6	264
経営	1,692 (212)	1,675 (67)	16 (5)	3,383 (284)	287 (53)	448 (24)	0 (0)	735 (77)	4.5	257
経営情報	1,100 (183)	1,455 (44)	6 (0)	2,561 (227)	159 (37)	355 (15)	3 (0)	517 (52)	4.7	239
合計	5,439 (591)	5,318 (173)	47 (9)	10,804 (773)	872 (139)	1,399 (64)	6 (0)	2,277 (203)	—	—

B方式（3教科）入試　志願者・合格者状況（第2部）　（　）は女子内数

学科	志願者 現役	志願者 浪人	志願者 その他	志願者 合計	合格者 現役	合格者 浪人	合格者 その他	合格者 合計	倍率	合格最低点（満点400）
経済	255 (3)	545 (12)	12 (0)	812 (15)	75 (1)	245 (5)	5 (0)	325 (6)	2.4	198
経営	187 (6)	547 (13)	11 (0)	745 (19)	56 (4)	274 (6)	5 (0)	335 (10)	2.1	189
合計	442 (9)	1,092 (25)	23 (0)	1,557 (34)	131 (5)	519 (11)	10 (0)	660 (16)	—	—

C方式（2教科）入試　志願者・合格者状況（第1部）　（　）は女子内数

学科	志願者 現役	志願者 浪人	志願者 その他	志願者 合計	合格者 現役	合格者 浪人	合格者 その他	合格者 合計	倍率	合格最低点（満点200）
経済	797 (43)	913 (26)	29 (3)	1,739 (72)	46 (4)	91 (2)	2 (0)	139 (6)	11.8	143
経営	365 (43)	405 (19)	7 (1)	777 (63)	15 (7)	20 (2)	0 (0)	35 (9)	20.9	146
経営情報	337 (39)	257 (10)	2 (0)	596 (49)	27 (2)	29 (0)	0 (0)	56 (2)	10.1	141
合計	1,499 (125)	1,575 (55)	38 (4)	3,112 (184)	88 (13)	140 (4)	2 (0)	230 (17)	12.8	—

センター試験利用入試　志願者・合格者状況（第1部）　（　）は女子内数

学科	志願者 現役	志願者 浪人	志願者 その他	志願者 合計	合格者 現役	合格者 浪人	合格者 その他	合格者 合計	倍率
経済	242 (49)	233 (17)	5 (0)	480 (66)	119 (32)	157 (12)	0 (0)	276 (44)	1.7
経営	299 (77)	310 (28)	4 (0)	613 (105)	123 (42)	181 (13)	1 (0)	305 (55)	2.0
経営情報	219 (71)	212 (22)	1 (0)	432 (93)	90 (31)	138 (16)	1 (0)	229 (47)	1.9
合計	760 (197)	755 (67)	10 (0)	1,525 (264)	332 (105)	476 (41)	2 (0)	810 (146)	—

1996年度推薦入学選考結果　（　）内は女子内数

推薦種別	学科	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続者数
特技	1部経済	87(0)	86(0)	41(0)	41(0)
	1部経営	52(0)	51(0)	26(0)	26(0)
	1部情報	4(0)	4(0)	3(0)	3(0)
	合計	143(0)	141(0)	70(0)	70(0)
普通科対象	1部経済	186(49)	186(49)	186(49)	186(49)
	1部経営	122(28)	121(27)	121(27)	121(27)
	1部情報	46(23)	46(23)	46(23)	46(23)
	合計	354(100)	353(99)	353(99)	353(99)
商業科対象	1部経済	28(15)	28(15)	24(14)	24(14)
	1部経営	65(36)	63(35)	48(29)	47(29)
	1部情報	41(21)	40(20)	31(16)	30(16)
	合計	134(72)	131(70)	103(59)	101(59)
総合計	1部経済	301(64)	300(64)	251(63)	251(63)
	1部経営	239(64)	235(62)	195(56)	194(56)
	1部情報	91(44)	90(43)	80(39)	79(39)
	合計	631(172)	625(169)	526(158)	524(158)

1997年度 入学試験概要

◎1997年度入試制度の変更点

◇推薦入学の募集人員を変更します。（第1部のみ）

◇一般入試の募集人員を変更します。（第1部のみ）

◇「大阪経済大学大樟奨学金」制度の新設【B方式（3教科）入試】（給付：返還の必要はありません）

◎一般入学試験概要・推薦入学募集概要

次頁の表をご参照ください。

◎推薦入学（指定校）説明会の開催

入試部では普通科対象推薦入学説明会と同女子高等学校指定校説明会に、推薦依頼校282校の進路指導担当者を招き、次のとおり実施しました。

（普通科対象推薦入学説明会）

6月19日(水) 岡山市
ホテルニューオカヤマ
岡山・広島・島根各県の高等学校
対象　27校

6月20日(木) 高松市
京王プラザホテル高松
徳島・香川・愛媛各県の高等学校
対象　14校

6月25日(金) 神戸市
神戸東急イン
兵庫県の高等学校対象　72校

7月1日(月) 京都市
新都ホテル
京都・滋賀・福井・石川・富山各県の高等学校対象　40校

7月10日(水) 大阪市
東洋ホテル
大阪・奈良・和歌山各県の高等学校対象　81校

（女子高等学校指定校説明会）

7月8日(月) 大阪市
東洋ホテル
富山・石川・岐阜・愛知・三重・京都・大阪・兵庫・岡山・広島・愛媛各県の女子高等学校対象　43校

◎高校教員対象説明会の開催

入試部では、指定校以外で志願者のある高等学校の進路指導担当者に対して、本学の認知度を高めるとともに、本学の入試制度や教学内容を理解していただくため、次のとおり実施しました。

7月16日(火) 大阪市
東洋ホテル
大阪・兵庫・京都・奈良・和歌山・滋賀・三重各県の高等学校対象（153校に案内）

1997年度推薦入学募集概要

	特技（スポーツ）推薦入学	商業科対象推薦入学	普通科対象推薦入学（指定校制）
募集学科人員	第1部　経済学科　35名 経営学科　20名 経営情報学科　15名	第1部　経済学科　20名 経営学科　40名 経営情報学科　20名	第1部　経済学科　155名 経営学科　75名 経営情報学科　55名 ※経済学科155名のうち20名は女子高等学校に依頼
選考方法	①書類選考　②小論文　③面接	①書類選考　②小論文	①書類選考　②小論文
出願期間	'96年11月1日(金)～7日(木)消印有効	'96年11月19日(火)～25日(月)消印有効	'96年11月19日(火)～25日(月)消印有効
選考日	'96年11月15日(金)	'96年12月1日(日)	'96年12月1日(日)
合格発表	'96年11月22日(金)	'96年12月7日(土)	'96年12月7日(土)

KEIDAI CAMPUS '96

今年のキャンパス見学会（受験生のための大学見学会）は、7月22日(月)にActIを実施し、9月28日(土)にActIIを行いました。

見学会当日は、遠くは埼玉・島根・福岡・宮崎など各地から昨年を大幅に上回る受験生や保護者が来学し、ミニ講義に始まる一連の楽しいスケジュールに熱心に参加する姿が見られました。（参加者868名）

1997年度一般入学試験概要

	A方式(英語1教科)入試	B方式(3教科)入試	C方式(2教科)入試	大学入試センター試験利用
募集学部・学科 募集人員	経済学部　第1部　経済学科　50名 経営学部　第1部　経営学科　30名 経営学部　第1部　経営情報学科　20名	経済学部　第1部　経済学科　355名 経営学部　第1部　経営学科　230名 経営学部　第1部　経営情報学科　155名 経済学部　第2部　経済学科　100名 経営学部　第2部　経営学科　100名	経済学部　第1部　経済学科　50名 経営学部　第1部　経営学科　30名 経営学部　第1部　経営情報学科　20名	経済学部　第1部　経済学科　35名 経営学部　第1部　経営学科　25名 経営学部　第1部　経営情報学科　15名
試験日	1997年2月1日(土)	2月9日(日)　経済学科（第1部・第2部） 2月10日(月)　経営学科（第1部・第2部） 2月11日(祝)　経営情報学科（第1部）	1997年3月6日(木)	1997年1月18日(土)・19日(日)
試験地	大阪(本学)・岡山・名古屋	大阪・東京・名古屋・金沢・姫路・高松・広島・福岡	大阪(本学)・岡山・名古屋	
試験科目	教科：英語　科目：英語Ⅰ・Ⅱ　リーディング・ライティング　配点：200点　時間：80分（1時限のみ） ※解答は全科目オール・マーク方式	教科：外国語　科目：英語Ⅰ・Ⅱ　リーディング・ライティング　150点　60分 教科：国語　科目：国語Ⅰ・Ⅱ（漢文を除く）　150点　60分 教科：選択（1科目）　科目：政治・経済／日本史B／世界史B／地理B／数学Ⅰ・A（数と式・数列）から1科目選択　100点　60分 ※解答は全科目オール・マーク方式	教科：外国語　国語（1科目）　科目：英語Ⅰ・Ⅱ　リーディング・ライティング（古文・漢文を除く）から1科目を選択　100点　60分 教科：地歴数学（1科目）　科目：日本史B、世界史B・数学Ⅰ・A（数と式・数列）　100点　60分 ※解答は全科目オール・マーク方式	教科：国語　配点：200点 教科：外国語・英語・独語・仏語・中国語から1科目　配点：200点 教科：地歴、公民、数学から1科目　配点：100点 ※大学入試センター試験を利用して行う ※地歴、公民、数学について2教科・科目以上受験した場合は、高得点の教科・科目を合否判定に使用する ※個別学力検査等は課さない。
出願期間	1997年1月6日(月)～22日(水)消印有効	1997年1月6日(月)～24日(金)消印有効	1997年2月13日(木)～24日(月)消印有効	1997年1月6日(月)～29日(水)消印有効
合格発表	1997年2月6日(木)	1997年2月18日(火)	1997年3月12日(水)	1997年2月18日(火)

就職

◎1996年度卒業生就職状況

今春の卒業生は、阪神大震災の影響が色濃く残るなかでの就職活動のスタートとなり、また、年初から金融機関の破綻など厳しい経済環境とあわせて、難しい就職状況下にありました。

就職登録者1、195名（男子1、070名・女子125名）に対し求人数は3、171社ありました。これは前年の求人数3、401社にくらべ230社減少しました。その内容は小売・不動産・サービス業以外はすべて減となりました。求人会社の規模別でみても規模不明が7社増えたほかは、大企業62社、中堅企業が146社、中小企業29社は減少となっています。

また、就職決定状況は1、149名で就職登録者の96・2%（男子1、034名96・6%・女子115名92・0%）となりました。前年の就職率97・3%とくらべると1・1ポイントの減少です。就職未決定のまま卒業する学生が増える傾向は全国の大学に共通するもので、文部省の調査にも就職浪人というかたちで表れています。

【おもな就職先】

（1996年4月1日現在）

建設	製造	製造	製造	卸売	小売	金融保険	金融保険	金融保険	不動産	運輸通信	サービス	公務
森組	伊藤園	大同信号	ヤマザキナビスコン	旭食品	関西スーパーマーケット	池田銀行	日興證券	ファミリーマート	関西積和不動産	近鉄エクスプレス	労働福祉事業団	大阪国税局（国税専門官）
森本組	ヤマザキナビスコン	マスプロ電工	イトキン	ゼンチク	西友	岐阜銀行	同和火災海上保険	ライフコーポレーション	殖産住宅相互	鴻池運輸	NTTデータ通信	郵政省近畿郵政局
福田道路	イトキン	川崎電気	川辺	内外衣料	チェーンストアオークワ	幸福銀行	明治生命保険	ゼビオ	阪急不動産	日本交通公社	ソフトウェア興業	大阪府警察本部
大和ハウス工業	川辺	日本デジタル研究所	永大産業	はるやま商事	長崎屋	西京銀行	安田火災海上保険	ロック・フィールド		パスコ	ダイワボウ情報システム	京都府警察本部
日本基礎技術	永大産業	いすゞ自動車	サンウェーブ工業	アストラジャパン		三和銀行	京都信用保証協会	サガミチェーン		福山通運	公益社	静岡県警察本部
	サンウェーブ工業	スズキ	タカラスタンダード	クラヤ薬品		泉州銀行	商工ファンド	サンデーズジャパン		フットワークエクスプレス	コマ・スタジアム	兵庫県警察本部
	タカラスタンダード	住友精密工業	大建工業	三光純薬		大正銀行	日栄	日本マクドナルド		名鉄運輸	東海リース	和歌山県警察本部
	大建工業	日産自動車	大昭和製紙	セネガ薬品		但馬銀行	兵庫県信用保証協会	大塚家具		アステル関西	日本情報通信	和歌山県庁
	大昭和製紙	アマノ	東罐興業	ズケ		大和銀行		ミドリ電化		関西セルラー電話		
	東罐興業	河合楽器製作所	宝印	川辺		中国銀行						
	宝印	ビジョン	エスエス製薬	燃料		トマト銀行						
	エスエス製薬		千寿製薬	恵		阪和銀行						
	千寿製薬		ツムラ	アース製薬		百五銀行						
	ツムラ		東和薬品	東洋エステリア		百十四銀行						
	東和薬品		北陸製薬	阪和興業		びわこ銀行						
	北陸製薬		吉富製薬	杉本商事		福徳銀行						
	吉富製薬		アサヒペン	トラスコ中山		宮崎銀行						
	アサヒペン		岩谷瓦斯	立花商会		和歌山銀行						
	岩谷瓦斯		大陽東洋酸素	フォーバルス		尼崎信用金庫						
	大陽東洋酸素		バンドー化学	ユニダックス		淡路信用金庫						
	バンドー化学		三ツ星ベルト	オートバックスセブン		愛媛信用金庫						
	三ツ星ベルト		浅野スレート	サンリオ本イ		大阪厚生信用金庫						
	浅野スレート		日亜鋼業	岡シャデ		大阪市信用金庫						
	日亜鋼業		三和シャッター工業	田崎真珠		大阪信用金庫						
	三和シャッター工業		トステム	大永紙通商		金沢信用金庫						
	トステム		日本精工			きのくに信用金庫						
	日本精工		フルサト工業			八光信用金庫						
	フルサト工業		オーエスジー			阪奈信用金庫						
	オーエスジー		グローリー工業			播州信用金庫						
	グローリー工業		セガ・エンタープライゼス			姫路信用金庫						
	セガ・エンタープライゼス		大和冷機工業									
	大和冷機工業		日本AT&T情報システム									
	日本AT&T情報システム		カシオ計算機									

【地域・規模別就職状況】（1996年4月1日現在）

		大企業	中堅企業	中企業	小企業	規模不明	計
北海道・東北		2	1	3	0	0	6
関東	東京	81	56	27	0	5	169
	その他	2	10	2	0	0	14
中部		21	19	10	1	1	52
北陸		3	8	11	0	1	23
近畿	三重	1	2	2	0	0	5
	滋賀	2	0	13	0	5	20
	京都	4	12	22	3	3	44
	大阪	88	144	232	11	37	512
	兵庫	38	43	56	3	17	157
	奈良	1	1	7	0	6	15
	和歌山	9	3	9	0	7	28
中国		12	13	25	1	5	56
四国		5	13	13	0	5	36
九州		4	3	4	0	1	12
合計		273	328	436	19	93	1,149

【業種・規模別就職状況】（1996年4月1日現在）

業種	人数	規模				
		大企業	中堅企業	中企業	小企業	規模不明
建設業	47	8	17	19	1	2
製造業	231	54	69	101	5	2
卸売業	301	40	98	157	4	2
小売業	175	43	60	67	1	4
金融・保険業	118	87	29	1	0	1
不動産業	30	6	5	16	2	1
運輸・通信業	38	12	11	13	2	0
サービス業	164	23	39	62	4	36
公務	45	（国家13　地方32）				
その他	0	0	0	0	0	0
合計	1,149	273	328	436	19	93
構成比(%)	100.0	23.8	28.5	37.9	1.7	8.1

施設

■G館建築について

G館は図書館東側に建築し、平成10年にはA・B館を取り壊す予定です。このG館はE館（記念館）とツインにし、大隈校地全体に調和をもたらすよう建物の色も現在のタイルとほぼ同系色とし、正門から一直線でF館（MIC館）に向けてアプローチできるよう計画しました。

内容は、地下1F、地上7F建て、高さ35m、建物延べ面積は約9・012㎡（2、731坪）でE館の1・75倍です。

地下には書庫、1Fには日本経済史研究所、中小企業・経営研究所および談話室等を設けます。

2Fは図書館閲覧室で現在の図書館閲覧室と通路で繋ぎます。

3F～6Fまでは教室（中教室5室、小教室8室及び演習室10室）、7Fには個人研究室28室を設けます。

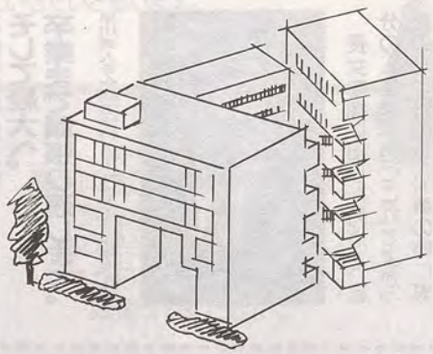
なお、工期は'96年8月に着工し、'97年9月末竣工予定です。

工法は地震・台風・耐火に強い鉄骨・鉄筋コンクート構造です。

■大樟ホール建築について

大樟ホールには、一般学生が使用できる施設として談話室、会議室および学生クラブ室を設けます。内容は5F建てで建物延べ面積は約1、626・16㎡（493坪）、高さ16mです。各室には冷暖房を付け、エレベータを設置します。

1Fには会議室、談話室他を2Fには会議室とクラブ室そして3Fから5Fまではクラブ室を設置します。工期'96年6月中旬に着工し、'97年3月竣工予定です。



社会人
キャンパスを行く

CAMPUS キャンパスライフ LIFE



近年、生涯教育が叫ばれ、多くの大学が真剣に取り組みつつあります。KEIDAIでも1995年度より、第２部経済学科、経営学科にて社会人入試制度を設け、現在10名の方が一般学生と一緒に勉強されています。今回は、そんな方々にアンケートを実施し、キャンパスライフの実態を探ってみました。

START



今、仕事をしていますか。それはどんな仕事ですか。

社会人入学をしたほとんどの方は仕事をされています。服飾関係の企画、警備会社の事業所責任者、公務員、経理事務、歯科技工士専門学校で働く方など職種はさまざま。世代も幅広く、25歳以上40歳未満の方が５人、40歳以上の方が５人。社会人学生らしい顔ぶれです。

社会人入試とは

過去に大学に行かなかった人や、大学を卒業し一度社会に出たが、急激な社会変化に対応するため再び学び直したいという人など、改めて大学を目指す社会人のための入試制度。

社会人入試を受験しようと思った動機は？

「自ら学びたい」「自己の知識と教養を高めたい」「経済に強くなりたい」など勉強への強い意欲を表す回答を多く得ました。こうした意見には責任をもち働く社会人としての姿勢が強くうかがわれます。また、学士の資格取得という明確な目標を掲げる方も半数近く。中には、震災で被災したことをきっかけに、「これからの人生、納得した生き方をするため」という方もいました。

大阪経済大学を選んだ理由は？

全員があげた最大の理由は職場からの通学圏内であること。働きながら無理なく通えることが絶対条件のようです。次に多かったのが、経済・経営について専門的に勉強できるという理由。「新聞等の経済についての報道を正確に把握」する必要性を実感されている方の声が多く見られました。



●社会人学生の声

54歳で一念発起。夜間高校に入学、そして経大へ。卒業まで頑張り通します。



早川秀人さん 経済学科2年（社会人入試'95年度入学）

長女を嫁に出した時点で、自分の人生は本当にこれでよかったのかと自問し、54歳の時に思い切って福岡から大阪へ出てきました。

中卒資格しかなかった私は、夜間、大阪市立中央高校で15歳の生徒にまじって学び、3年間で卒業。ちょうど勤めていた会社に経大のOBがおられたのに触発されて、一度キャンパスを訪ねたところ非常に雰囲気のいい大学だったので受験し、平成7年に無事入学しました。

大学に入ると子供の世界から大人への世界へ一気に移行したなという気持ちです。今は授業についていくのに必死ですが、教養ゼミは楽しいし、これまで欠席ゼロでやってきました。健康にだけは気をつけて、4年間頑張り通したいと思っています。

生涯教育についてどう思いますか？

生涯教育についてはほぼ全員が今後とも行っていきたいという考えをもっているようです。とくに高年層の方は、その大切さを切実に感じていらっしゃることがうかがわれます。「人間一生勉強、学ぶ自信が生きる喜びに」「急速に変化する現代、知識の修得が必須。生きる限り常に勉強が必要」「勉強することが心身を柔軟にし豊かにする」など。豊かな人生経験からくる言葉に、高齢化社会に向かう現代社会において、生涯教育の必要性を強く感じさせられました。

一般学生についての感想は？

学生に対する意見は、学年やクラスが異なるからか、もっとも意見が分かれました。「のびのび、おおらか」「現代若人の平均像だと思う」という感想もあれば、「元気がない」「出席率が悪い」「何のために大学へ来ているのか考えてみては」という辛口の意見もあり。社会人の目から見る一般学生はいろいろのようです。



大学がない日は何をしていますか？

「学校がない日は仕事をしている」という社会人らしい回答を多く得ました。また、オフの日にはスポーツや趣味にいそしむという声が多く見られました。もちろん、宿題や勉強に励む時間もあり、休日も社会人と学生、２つの顔をもっているようです。

授業はどうですか？

教授陣に高い満足度を示す声がもっとも多く、生涯教育を考える大学としてうれしい結果が得られました。とくに「先生方が親切である」「個性的な先生方の講義に興味津々」「責任感ある先生の態度に感謝」という意見が目立ちます。しかし、残念なことに「一般学生の私語が多く、講義のじゃまになる」という厳しい意見も多く、一般学生には、反省を促し授業態度を改めるべき指導が必要のようです。



大阪経済大学へひと言！

「入ってよかった！　入ってよかった！　この気持ちを卒業までもちつづけたい」「もっとたくさんの学生や先生とふれあいたい」「社会人入試のPRをもっとして社会人学生を増やして！」「図書館、生協などの時間延長を」「他大学卒業者の単位認定制度を設けてほしい」などなど。喜びや要望などいろいろな声をいただきました。生涯教育に積極的に取り組む大学として、こうした意見を真摯に受けとめ、さらによい教育環境を整えていきたいと思います。

入学した感想は？

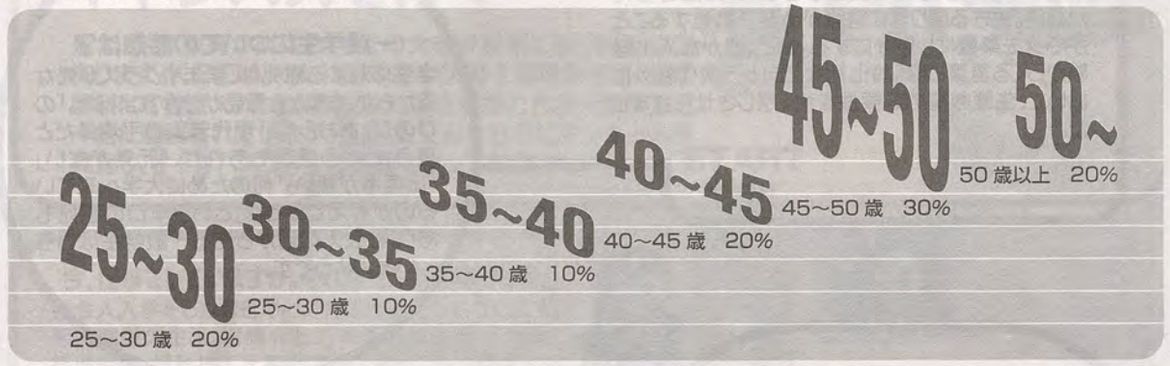
「夢であった大学で学ぶことに充実感を覚えている」「生活にメリハリができ、仕事もより効率的にするようになった」といういきいきした声が大半を占めています。中には「期待が大き過ぎて少々がっかりした」という感想もありましたが、前向きに学ぼうとする姿勢が社会人学生生活をより楽しく価値あるものにしている印象を受けました。

最後に、社会人学生の皆さま、個性豊かなご意見をありがとうございました。これからも、仕事に学校に、頑張ってください。

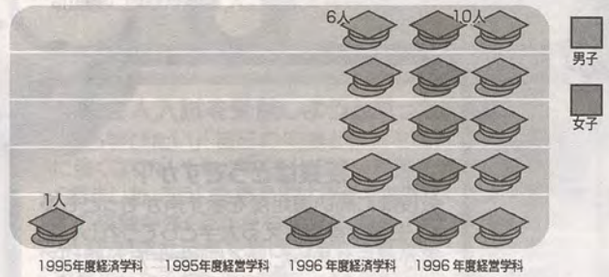
TO BE CONTINUED TILL GRADUATION

DATA PAGE

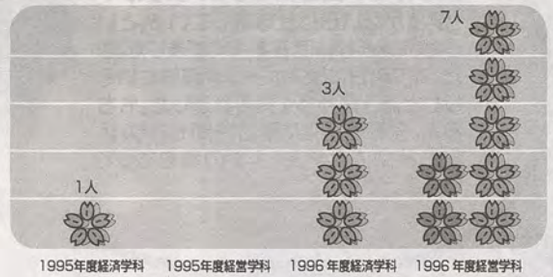
■社会人入試による学生の年齢構成



■社会人入試の志願



■社会人入試の合格



1997年度　社会人入学試験要項(抜粋)

趣　旨

第2部社会人入試は、従来の勤労者教育に加えて成人教育・生涯教育の一環としての大学教育を、広く勉学意欲旺盛な社会人に開放するために、一般入試とは別の試験を提供することを目的とする。

1．募集学部・学科・人員

学部	学科	人員
経済学部　第2部　(夜間部)	経済学部	若干名
経営学部　第2部　(夜間部)	経営学部	若干名

2．出願資格

1996年4月1日現在において満25歳以上の者で、次のいずれかの条件を満たす者

(1)高等学校を卒業した者および1996年(平成8年)3月卒業見込みの者
(2)通常の課程による12年の学校教育を修了した者
(3)その他文部省令により、上記と同等の学力があると認められた者

3．試験科目

小論文	面接

1996年度クラブ戦績

クラブ・サークル名	戦績
空手道部	全関西学生選手権大会　ベスト8、全日本学生個人選手権大会出場
日本拳法部	全日本学生個人選手権大会　個人2回戦、龍峰杯・公級の部　第3位
柔道部	関西学生柔道選手権大会　ベスト16(宮沢)・32(板井)、関西学生優勝大会　ベスト8 全日本学生選手権大会　ベスト32(板井)、全日本学生優勝大会　団体2回戦
剣道部	関西学生剣道大会　団体2回戦
合気道部	関西学生演武大会、全日本学生演武大会
少林寺拳法部	関西学生新人大会　4位(近藤・田中組)
硬式野球部	関西六大学野球リーグ戦春季リーグ　5位、同　秋季リーグ　6位
準硬式野球部	近畿六大学春季リーグ戦　2位、同　秋季リーグ　4位
硬式テニス部	関西学生リーグ　4部6位
ソフトテニス部	関西学生春季リーグ戦　6位、西日本学生選手権大会　ダブルス3位(玉井・寺嶋組)、 全日本学生選手権大会　ベスト16(玉井・寺嶋組)、中華国際大会(台北)　3位(玉井)
サッカー部	関西学生春季2部リーグ戦　7位、同　秋季リーグ戦　4位
ラグビー部	関西学生Aリーグ　7位
ハンドボール部	関西学生リーグ戦　春季2位、同　秋季5位、西日本学生選手権大会　4位、 全日本学生選手権大会出場
卓球部	関西学生秋季2部リーグ　2位、関西学生選手権大会　13位(藤原)、全日本学生選手権大会出場　関西学生会長杯大会　団体優勝
バスケットボール部	関西学生リーグ　1部8位
バレーボール部	関西学生リーグ　3部7位
アメリカンフットボール部	関西学生2部リーグ　Aブロック5位
ボクシング部	関西学生2部リーグ　5位
陸上競技部	関西学生対抗選手権大会2部　優勝(1部昇格)、関西学生駅伝大会　7位
バドミントン部	西日本学生選手権大会　団体ベスト8　個人ベスト8
自転車部	全日本学生サイクルサッカー大会　2位
アイススケート部	95年度関西学生選手権大会　団体5位、日本学生氷上競技選手権大会　2部団体優勝 96年度関西学生氷上選手権大会　A級男子3位(三浦)、関西学生氷上フリー競技会　B級男子団体3位
ゴルフ部	関西学生3部リーグ　7位、関西学生3・4部対抗戦　9位
競技スキー部	95年度関西学生選手権大会　2部総合3位、全日本学生選手権大会　3部個人10K優勝(富岡)
カヌー部	全日本学生選手権大会　カヤック4位、男子カヤック1000m2位(前田・北・岡・本田)、 全日本カヌーレガッタ選手権大会　200mペア優勝(前田)　同　500m3位(本田)
自動車部	全関西学生ダートトライアル選手権大会　男子団体優勝
ヨット部	関西学生秋季新人大会　470級6位(大向・奥谷)、関西学生ヨットヤンカップ'96　国際470級優勝(木村・奥谷組)　同　国際スナップ級2位(西・山本組)
洋弓部	関西学生選手権大会 女子団体3位、全日本学生フィールドアーチェリー個人選手権大会出場
重量挙部	西日本学生選手権大会　3部団体優勝(2部昇格)、同　2部団体6位
水泳部	関西大学・徳島大学・大阪経済大学3校対抗戦　優勝、関西学生水球選手権大会　ベスト8
チアリーダー部	関西選手権大会出場
冥都(軟式野球)	ユニプベースボールトーナメント関西大会　準優勝
浪速ユベントス	大阪社会人リーグ　1部14位
ホワイトミュー基礎スキー同好会	95年度関西学生基礎スキー大会　男子団体6位　同女子7位、同　新人戦　総合優勝(岩本)
軟式野球愛好会	近畿学生軟式野球リーグ　2位、西日本選手権大会　4位

ゼミ短信

SEMINAR REPORT

近況とお願い

家近良樹先生

去年の1月から、山口県史の近代部会の専門委員をしている関係上、毎月のように、山口に通っております。この夏もすでに2度あちらの方に出かけております。また、今夏はかねてから執筆を約束している本や論文の原稿書きに追われ、大変忙しく過ごしております。

なお、私、現在4回生のゼミ生を抱えており、彼らの進路に頭を痛めております。就職に関して何かいい話がございましたら、何卒よろしくお願い申し上げます。

（日本史）

経大で21年です

池野重男先生

今年で21年目になります。やはり50歳目前となるとトシを感じてしまいますが、若い学生たちのエネルギーに支えられて続けています。ミンナは元気でしょうか？

昨年の震災は？　仕事の方は？　ぜひやりとりをしていきたいです。連絡を待っています。　吹田市桃山台2－8　A1の1109。

近くの緑地公園で卒業生たちとバドミントンをしたり、「週休2日制」とは名ばかりの職場の実態の話を聞いたり、あるいはゼミ合宿で後輩たちに差し入れをしてもらって話をしたり……。なんとも嬉しいツキアイです。

『誰彼通信』も中断しながら続けています。切手を貼った封筒を送ってくだされば、こちらから発行の都度送ります。

ではまた。

（保険論）

模索・生きた教育

稲場紀久雄先生

私は、今年度、本学生協の監事になり、同時に環境問題を担当することになりました。実社会の生きた経済と結び付いた環境教育を行いたい、という願いがこういう形になったわけです。今年は、新しい立場をベースに空缶リサイクルと大学周辺のグリーン・コンシューマー・ガイドの作成をゼミ学生や生協関係者と一緒に進める予定です。大樟祭ではこれらの活動の一環として何か面白いイベントを行いたいと、目下思案中です。

先日リサイクル計画策定のため大阪市環境事業局東北事務所を訪ねました。幸いにも本学卒業生が頑張っており、心強い限りでした。

学外に働き掛けて初めてネットワークも広がり、生きた環境や経済の教育も可能になるわけです。

（生命の科学）

向上心を失わずに

上田　慧先生

お元気ですか。私もますます元気ですが、最近は学会の仕事や溜まった研究に追われ、超多忙です。後輩諸君もハードな実習や卒論（今ではワープロで製本）準備に頑張っています。ある君は良い卒論を書くために中国へ調査に行くなど、まるで競争です。

この夏、'92年度卒業生の同窓会が開かれ、多数参加して楽しいひとときを過ごしました。皆さん立派な社会人となってまして、夜遅くまで学生時代の思い出、社会での活躍の話に花が咲きました。

上田ゼミ生は、学業・成績ともにプライドを持っているはずです。社会の荒波に負けずに頑張ってほしいと思います。

昨夏、準硬式野球部とサイクルサッカーが日本一になりました。長い精進の賜であり、めったにないことなので喜んでください。何ごとも向上心が大切ですね。

皆さんの各分野での健闘を祈っています。

（公益企業論）

毎日が勉強

梅原英治先生

今年度、鹿児島経済大学から移ってまいりました。自然豊かでのんびりした鹿児島から大都会のまっただ中へ―狭い生活空間と速い時間の流れ、そして飛びかう情報量の膨大さに戸惑うことが多いです。

学部では「財政学各論」と「教養演習」、大学院で「財政学」の講義と演習を担当しています。学生も院生も明確な目標をもった者が多く、教える側としても責任の重大さを痛感します。300人近い教職員・ゼミ生・院生の顔と名前、学内のさまざまな施設と制度、意思決定の仕組みなど覚えなければならないことが多く、しょっちゅう何が何だか分からなくなっていますが、「毎日が勉強」の精神で頑張っています。

同窓会の皆さまには、今後ともよろしくお願い申し上げます。

（財政学）

夏休み閑話

大槻裕子先生

昨年は6月末に本学で「阪神ドイツ文学会」のシンポジウムがあり、4月以降その準備で忙しく過ごしましたが、今年はまた同じ時期よりゲーテ関係の文献紹介の原稿依頼があり、暑い最中ワープロに向かうこととなりました。そして8月も下旬の今、ようやくそれも仕上がってホッとひと息というところです。

さて、今年の「教養演習」（20名）ではシラーの『素朴文学と情感文学』を講読していますがコンパの時には蜂の巣をつついた程のにぎやかさだったのに比し、授業中は何とグーの音もでない静かさで、教材の選び方もさることながら、今後いかにゼミを進めていくかにこの夏あらためて苦慮しております。

（ドイツ語）

ある日のタクシーの運ちゃん

片山麻美子先生

初夏のある日、例によってバタバタと大学への道を急いでいた。その時乗ったごく普通のタクシーで、変な運転手に出会った。

TOPICS トピックス

図書館棟1階に、池田銀行ATMを設置。

母校では4月22日より、池田銀行のATMを設置いたしました。設置場所は、各学部の学生が一番集まりやすい図書館棟の1階階段横 です。

これまで、母校にはATMがなく、必要な時は大学から出なければなりませんでした。学生約6,000人、教職員約500人を抱える母校としては、こうした煩わしさをなくし、少しでも改善できるようにと、今回、ATMを導入することにいたしました。学生や先生方はもちろん、来客の皆さま、また、母校周辺の地域の方にも利用していただけるよう配慮しています。卒業生の皆さまも、母校にお立ち寄りの際、便利にご活用ください。

先生の近況

傘壽に向かって



井上　清先生

ゼミ出身の皆さん、元気に各自の目標に向かって頑張っておられることと推察しています。小生もやっと大震災から立ち直った今日このごろです。昨年喜寿を迎え、人生の大きな節目に立ち、今年1月28日、ゼミOB会（清壽会）により盛大な祝賀会を太閤園で開催していただき感謝・感激に堪えません。そして2年後には元気に傘壽を迎えられるよう頑張っています。歌唱やサイクリング等によって心身機能低下を防いでいます。健康維持のためには、合理的なバランスのとれた食事と適度な運動が必要で、特に運動は、我々にとっては鍛練でなく無理をしない運動を意味しています。皆さんも年齢に応じてそれぞれ適した健康法をあみだして実行されるよう期待します。

■

私の近況



伊豫田隆俊先生

伊豫田ゼミの卒業生の皆さん、お変わりありませんか。

おかげさまで、私は元気にしておりますが、昨年40の大台を超えてしまってから次第に髪にも白いものが混じってきました。万年青年を自負している身にはいささか辛いものがあります。

ところで、昨年生まれて初めて仲人をしました。ゼミOBのU君ですが、仲人でありながら飲み過ぎてしまい、〝ベレケ〟になってしまうという醜態を演じてしまいました。おかげで面目丸つぶれです。私はいつまでこんな失敗を重ねるのでしょうか。本当に不安です。

学園だより　ゼミ短信

〝Howareyou?〟などと中年のおじさんが聞くものだから、何としたものかとまどっていた。しかし、発音がなかなかのものなのである。かくして大学までの5分間、楽しい英会話を二人でしたが、その英語力たるやかなりであった。

「あれだけの実力があれば、タクシーでなくても……。」などと他人ごとを思うのであるが、これだから人生おもしろいのである。彼のような運転手に出会うと、心楽しくなってくる。規格にとらわれない自由がある。

（英語）

公務員志望

久保田諄先生

とにかく公務員になりたいという学生が増えました。「公務員になっても出世しなければ思うこと何一つできないんだぞ」と説教するのですが、それでも公務員は安定して、仕事が楽だと言い張ります。警察官や刑務官の採用試験の倍率も驚くほど高くなりました。新入生で公務員を目指し、勉強の相談に来る学生もいます。中学校の全教科書の復習から始めること、朝日や読売などの大新聞を毎日詳しく読むこと、そして何よりも4年間の学生生活が知的であることが大切と強調して説明するのですが、結局は4年生になってから大騒ぎする破目になることが多いようです。

でも、ちゃんと努力した学生は所期の目的を達しています。ごく少数なのが残念ですけど。

（宇宙科学）

スコットランドへの誘い

黒田　勇先生

昨年度はスコットランドで在外研究、ちょうど本年度アカデミー賞を総なめした映画「ブレイブハート」のご当地のスターリング大学に1年間滞在した。

大学のキャンパスは森と湖に囲まれ、リス、鹿、野ウサギ、そして鴨や白鳥が、人間を恐れることなく生活している。家族揃って素晴らしい自然の中で生活できたのは、阪神大震災の被災後の精神的リハビリとしては絶好であった。しかし、それ以上にスコットランドの社会・文化に改めて興味を深めた1年であったと言える。スコットランドという英国内の「国家なき国」から世界を見ると、いろいろと面白いものが見えてくる。スコッチとネッシーばかりではなく、なかなか興味の尽きない「国」である。

（コミュニケーション論）

お仕事は順調ですか

桜井三枝子先生

おーい、みんな元気にしているの！？　先日、偶然JR福知山線車内で学生を引率している辻下正世さんにお会いしました。元気に精根こめた良いお仕事ぶりを見せてもらい、嬉しく思いました。少ない乗車時間でしたが、2人でゼミの皆さんの話に花を咲かせました。あの鮑少玲さんも今年4月に神戸大学を卒業し、念願かなってワールドに勤務されているようです。今にして思えば、第1回生は「反乱もどき」をやるほどのバイタリティーがあり、ぶつくさ言いながらも課題をこなしてくれました。第2回生は経営情報に限定されたせいか、全員男子学生のゼミとなり師弟・学生相互に少々「暗いムード」です。現在、ゼミ生は就職活動に疲労困憊で、卒論テーマを気にするのは私ばかりという段階です。しかし、昨年秋から島本町教育委員会の依頼を受け、京都外国語大学の女子学生と合同民具調査をし始めてから「明るいムード」が出てきました。先輩の皆さん、可愛い卒業生をどうぞ、よろしく。

（文化人類学）

ペーシエンス・トレランス

杉山　寰先生

28回目のゼミ生を迎え、2部生らしく、就労を通じて人生を学び、金が身につく男になれ、と指示しています。自由化・国際化の進展と共に、競争も激しくなり、企業も個人も優劣の格差が益々拡大して行く。ペーシエンス・ペーシエンス（忍耐）トレランス・トレランス（人に寛大たれ）!!と英語で2回、独りで口ごもり、世間の荒波を乗り越えて行くのがコツだと教示しています。

（生産管理論）

高翔会（高城ゼミ）

高城　寛先生

お元気ですか？　本年の卒業生でゼミも25回、4半世紀になります。今回、ゼミOB・OGの会を合同で開催したいとの熱心なお勧めがあり、現在、現役の援助も得て、名簿の整理にかかっています。何しろ1000名を越すことになり、消息不明の方もかなりおられます。何れ詳細をご連絡いたしますが、ご近況などをお知らせくだされば幸甚です。再会を楽しみに。

〒533　大阪市東淀川区大隅2
大阪経済大学　高城研究室内
「高城ゼミ合同同窓会準備会」宛

代表世話人・中川和久　今村武司

（中小企業論）

感性は学ばないと成長しない

高津芳則先生

先日の教養ゼミで、たまには外で体を使って遊ぼう、ということになりました。学生の要望に応える、私はもの分かりのいい教員。まだゼミレポートの書き方も分からないくせに何が遊ぼうだ、などと責めたりはしません。

ただ、梅雨どきでもあり、もし雨の場合、私の選んだ映画を見ようと提案。それが受け入れられました。幸か不幸か、雨。そこで、私の用意していたフランス映画「禁じられた遊び」を上映。1時間半の映画ですが、最後まで見ていた学生はほとんどおらず、居眠りか、窓の外を眺めていました。

（女子5人はみな居眠り）。

感性や文化を解する力量も、勝手に身につくものではなく、学習する必要があるのです。

（教育行政学）

21世紀の会計学

高寺貞男先生

これまでの研究成果から、21世紀における会計学は、データ・ベース会計論と（情報管理の一環としての）利益管理論に収束すると予想しています。

よって、定年まで残された歳月を「会計に基礎をおく報告利益管理」の理論的・経験的研究に集中したいと思っています。

（会計情報システム論）

ただいま国内留学中

滝内大二先生

今年度、私は大学より国内留学の機会を与えていただき、京都大学に籍を置きながら研究活動に専念しております。そのためせっかく研究室に来ていただいても不在のため、いろいろとご迷惑をおかけし、申し訳なく思っております。

20世紀も残り少なくなり、学校教育も世界的な規模で大きな転換期を迎えていることはご承知のと

おりです。そこで私も新しい試みをしている学校を訪ね、実際に授業を担当させてもらいながら、理論だけなく実践的研校を行っております。あまりハリキリ過ぎて少し体調をくずしたのが残念ですが、来年度の教職課程の講義に役立つ成果を上げたいものと努力しております。

（教育学）

世界に旅立つ若者

田渕　進先生

円高の世の中となって学生が海外に旅行することは決して珍しいことではなくなった。田渕ゼミでもアメリカに留学したものが今まで2～3人はいる。昨年1年間韓国へ行っていたS君は帰国してこの春無事有名企業に就職したと連絡をくれた。この夏には3回生の3人組が世界一周旅行に出た。アメリカからフランスを経てイギリスに来たという葉書をもらった。アメリカではやはり人種の多様さと国の広さに驚いている。地下鉄やバスでただ乗りが多いことに驚いたとも書いている。旅先では歴史や文化の深い考察は難しいが、じかにふれる外国の空気はきっと若者の視野を広げることであろう。

初めての中国旅行

土居充夫先生

土居ゼミの卒業生の皆さん、その後お変わりありませんか。ルーティンに埋没せず、新鮮な毎日を送っていますか。ところで、私はこの夏、語学研修の付き添いとして初めて中国に行ってきました。大都市の北京・上海、観光名所の杭州で合計15日間を過ごしました。感想を一つだけ述べると、都市問題の深刻さです。一目瞭然の大気汚染・交通混雑に加えて、人口集中に伴う諸問題。経済発展の過程でおそらく不可避的に生じるこの種の問題を、中国はうまく解決できるのだろうか？　日本の経験は何か役に立つのだろうか？　そんなことを考えている今日このごろです。

（政治学）

今年もアメリカから〝ゼミ短信〟

中川　操先生

今年も「ゼミ短信」をアメリカから送ります。地震の時は本当にお世話になりました。地震の復興もまだまだ完全ではなく、私宅も全壊→半壊→1／3壊の修理状態です。早い段階で建て替えを決意した人たちは賢明だったと思います。不自由なままの日本の家を逃げ出して英語研修の学生と一緒に7月21日にスポーケン市にやってきて、そのまま滞在しています。当地ではゼミ卒業生が3名大学院で学んでいます。その一人、西口登造君は昨年ゴンザガ大学で「MBA」を取得、現在ダブルメージャーと「CPA」（公認会計士）を目指してがんばっています。この短信を読んで消息を知らせてくださる卒業生が相次ぎ、とても嬉しいです。

〒662　西宮市甲陽園東山町4－12
TEL0798－74－1378
FAX0798－74－1557

（英語）

快適だった8月の中国旅行

長田寛康先生

今年は、中国語の短期語学研修の付き添いで、8月に半月ほど北京に滞在していました。日本はかあとインドと香港に寄るそうだが無事を祈ってやまない。

（経営学総論）



んかん照りの毎日でしたが、北京はよく雨が降り、わりと快適に過ごせました。着いた翌日の天安門見学の日も雨だったので、素足に草履を履き、ジーンズの裾を膝までまくりあげて歩いていると、学生に「ほんまに中国の人みたいや」とひやかされました。私の教養ゼミ生でした石川理賀さんが参加してくれていたのが、大変心強く、いろいろ有りましたが、学生たちや他の付き添いの先生方にも助けられて、何とか任務を果たすことができました。良きにつけ悪しきにつけ、有意義な中国旅行でした。感謝。感謝。

（美術史）

林ゼミ第1期生の諸君へ

林　遵先生

皆さまお元気ですか。現在専門ゼミは4年生が昼夜で20名、3年生が13名、2年生が12名の計45名です。今年は卒論報告が多いので大変です。

夏期合宿は、初めての試みですが、2・3年次合同で琵琶湖リゾートクラブで行います。

卒論に挟み込んであるハガキで近況をお知らせください。卒業式のときの写真をお送りします。

西岡浩文君から返事が届きました。学生時代など、遠い昔の話だと書いてありました。元気にやっているそうです。

（経済原論Ⅰ）

はじめまして

平等文博先生

5月より専任講師として勤めさせていただいており、現在「倫理学」と「教養演習」を担当しています。ヨーロッパの哲学、倫理思想史が専門で、これまでスピノザの『エチカ（倫理学）』などを中心に学んできました。

新千年紀も目前ですが、直線的な発展的展望よりも、渾沌とした「世紀末」イメージが支配的で、衝撃的な事件が発生したりしています。そのような中で未来を語りうるためには、私たちの日常的な営為を、功利性や効率性の尺度だけではなく倫理性の尺度で根本的に評価し直すことが不可欠です。

私は、次代を担う学生諸君が、事柄を倫理的に反省するという問題意識と能力を大学で身につける一助になりたいと願っています。

（倫理学）

心髄万境転

松原和男先生

皆さんお変わりありませんか。

私もぼつぼつ老人と言われる歳になり、研究生活の仕上げに取り組まねばと考えておりましたが、思いがけず今度の仕事をお引き受けすることになりました。経大の現状を考えれば、個人の我がままを言っている訳にもいきません。「私に残された時間を経大の発展のために捧げる」と言えば、「言い過ぎだ」とお叱りを受けそうですが、とにかく、もう一踏ん張り、頑張ってみるつもりです。

どうぞよろしくお願いします。

（経済変動論・法人理事）

ゼミは早2年目!!

間野嘉津子先生

2回生のゼミを始めて早々に、フランスが核実験を行ったため、夏休み中に新聞の切り抜きをし、後期には世界中の批判を浴びながらも、なお、核実験を強行するフプで来て、私の山荘に泊まってください。ただし、予約をとってからに願います。

■

「集い」の愉しさ



倉辻平治先生

本年7月13日（土曜日）、小生のゼミ卒業生の集い（倉春会）を、大阪駅前のレストランパレスでもちました。今回は22回目でしたが、30名程顔を合わせ、愉しい一夕を過ごしました。こうした催しを20年も続けて開く上で何かとご苦労をかけた幹事諸君に、あらためてお礼を申し上げます。

私ごとですが、小生ら昭和10年に旧制大阪商科大学を卒業し、現在、京阪神付近に住む同期生は、毎月1回、梅田駅近くのホテルで昼食をともにする集い「昭十会」をもっています。6、7人の常連が近況を語り合う愉しい機会です。

こんな私で良ければ、また声をかけてください。一緒に醜態をさらしましょう。（ちなみにカラオケのレパートリー思いきり増えました）。

■

野尻へ来ませんか



木村敏男先生

経大を退職してから早くも2年数カ月になります。今は時間割の生活から解放されて、いくつかのボランタリーの仕事をするほかは、余暇を楽しんでいます。ゼミの諸君はいかがですか。せちがらい世の中になってきたので思わぬ苦労をしている人が多いのではないかと推測しています。

そのなかでなんとかして余暇をつくって、諸君には懐かしい思い出の信州は野尻へ来ませんか。私は大学村や信濃町の用務もあって、このところしばしばそこへ行って滞在していますから、春夏秋冬おおむね何時でも諸君を迎えることができるかと思います。小グルー

ランスとはいかなる国なのかを知るべく、ドゴールと現代フランスの関係について勉強しました。難しい1年でしたが、コンパ等を通じて互いの気心が知れるようになると共に楽しい雰囲気となってきました。ただ残念なのは、合宿でキャンプに出かける直前に大型台風が来て（しかも急に進路を変えたので当日は快晴）口惜しい思いをしました。

今年は近代フランスの文化や歴史について研究し、個性あふれる発表をそれぞれ行っているのが現状です。合宿はまた秋に行う予定です。

（フランス語）

『スポーツ・エコノミクスの発見』にゼミ生の論文発表

松岡憲司先生

松岡ゼミ卒業生の皆さま、お元気で活躍されていることと存じます。私も相変わらずで、元気にしております。最近、いろいろな大学でゼミ生の研究を書物にすることが流行っております。松岡ゼミでも、以前からこのような試みに挑戦いたしたいと思ってまいりましたが、この度、その成果の一端をようやく形にすることができました。この6月に法律文化社より松岡編で出版しました『スポーツ・エコノミクスの発見』という本の中に、現4回生を中心とした「スポーツと地域」という論文を発表しました。この本ではセルジオ越後氏にも書いていただいております。

後輩の成果を一度ぜひご覧になってください。ちなみに値段は1、545円です。

（産業組織論）

今年は、情報化時代にも応えて

松村幸一先生

松村（幸）ゼミ卒業生の皆さんお元気ですか。

昨年地震で被害を受けた人からも復興宣言のお便りをいただいています。

しばらく2部のゼミを休んでいましたが、昨年度から復活しましたので、来年3月には久しぶりに卒業生を送り出します。このごろのゼミでは、情報化時代の流れに棹さして、卒業までにパソコンの基礎を習得してもらいたいと考え、一定の時間、情報処理実習室を利用しています。ただ時間の足りないのが悩みの種です。大学の機械に対応するため、十年来使っていた自宅のパソコンも買い替えました。夏休みにはウインドウズのさまざまな機能を楽しみました。

（西洋経済史）

念願の夏

松村文武先生

卒業生の皆さんお元気ですか。今夏は20年来の念願がかなって信州で過ごしています。初期のゼミ生とは合宿でよく当地に来て、その清々しさに感動しました。何とか大阪の酷暑から解放されたいと一念発起したのがコトの始まりでした。「生きるために働く」という哲学と目標のための倹約の結果です。皆さんも長いタイム・スパンの課題を設定してはいかがでしょうか。さて問題の2年ゼミではAPECを勉強しています。2人の女子学生が特に元気です。小生は来年4月で研究者生活が30年目に入ります。この1年も上海国際シンポを初め8つの仕事に取り組みやや疲れ気味ですが、節目を迎えて新たな岐路に立っているように思う今日この頃です。

（国際経済論）

インターネットで会いましょう

松本良治先生

経大に来て6年目になりました。担当の情報通信分野の技術革新の激変でいつも何かに追われているような毎日です。今年のゼミでは、インターネットでの経大ホームページの作成、同じくインターネット上のEC（電子商取引）の在り方を探るための実態調査等に取り組んでいます。ホームページは今秋開設を予定していますが、経大のPRだけでなく、皆さんとの情報交換の場になればと考えています。ECは世間でも注目されていますが、実際に産業界で活躍されている方々と共同研究ができればと、先日ある卒業生に来ていただき、ゼミでの研究状況について話をしました。これも今後、実践的な研究になるよう、育てていきたいと期待しています。

（情報通信概論）

欧州お墓参り

六浦英文先生

今夏、スイスのダヴォース市で開かれた、第2回「トーマス・マン」シンポジウム（ゼミナールを含む）に出席することを許され、この機会にかねてからの念願であった、芸術家・思想家のお墓にお参りすることもできた。

前回は修復中で閉鎖されていたゲーテ、シラーの霊廟を、今回は訪れることができた。その建物のそばには、ゲーテの助手エッカーマンのお墓もあった。

トーマス・マン、ゴーロ・マンのお墓に献水。C・F・マイアーのお墓にも敬礼。

ヘッセはB・ワルター、H・バルと同じ墓地に眠っていた。

リルケのお墓には「薔薇よ、おお、純粋な矛盾……」で始まる有名な詩が刻まれていた。

（ドイツ語）

いよいよ3学部に

渡辺　泉先生

OBの皆さん、お元気ですか。18歳人口の減少に伴い、大学もいよいよ冬の時代に入ったと言われています。我が大阪経済大学も生き残りとさらなる躍進を目指して、来春、経営情報学科を学部に改組します。経済・経営系専門の総合大学を目指して。

これからは、情報の質が問われる時代になってきます。我が母校は、経営情報学部の充実を通して、それぞれの分野の最新の研究状況と国際的な最新の現状を、インターネットによって、いつでも、どこでも、誰にでも提供していくことのできる知的情報の発信基地へとより大きく変身していきます。井の中の蛙からのイメージ・チェンジです。卒業生諸兄の一層の応援を切望します。

（財務会計論）

ゼミOB会

井上清先生喜寿祝賀会

井上清ゼミOB会

1月28日都島・太閤園で、井上先生の「喜寿祝賀会」を開催、ゼミ卒業生たちが集い、盛大な祝賀会になった。

先生の喜寿の誕生日は昨年であったが、未曾有の阪神・淡路大震災のため、今年の催しになった。

晴天に恵まれ、庭園で記念写真を撮影後、先生から「ありふれた

先生の近況

私の全体主義医学生活の体験



田中健一先生

昨年末来、左肺炎を憂えてくれた主治医が、老妻の在介結果の疲労衰弱を案じてきた。市派遣のヘルパー協会と合議、私を例の連休の間に芦屋市民病院で休養入院させてくれた。4日目の38・6度の肺炎熱はふっとんだが、私自身の日増しの衰弱に気付いて動揺せざるをえなくなり、ついに私は院内主治医に反論して、3週目からの退院を依頼した。「私は全体主義医学説を支持している。外的には投薬治療に期待し、内的には年齢相応の心身鍛練衛生に努めるべく、内外両面から治療する全体主義に立つから」と。病院長にも納得をえた。しかし2週間の休養入院は肺炎発見面では＋だったが、87年鍛え使用の全筋骨の大衰弱面であり、現在も快癒できずに困っている始末。医学者でない私の体験、いかなものかな。（所謂totalitarianismの謂念・意味ではありません）。

浜田ゼミOBの皆さんへ



浜田幸策先生

皆さんお元気ですか。私は本年3月退職しました。2年間それぞれに浜田ゼミを支えていただいてありがとうございました。古稀を過ぎ、無職となり、全くの自由となりましたが、自由も程々がよいようで形式的な自由を得ても気分は一層不自由になるものです。またこれまで当たりまえと思っていたことが不思議に思えたりします。遺伝子の問題を超えてスイカとトマトは同じ大地の子でありながら、何故味が違うのかといった類です。

いま『正義の法典』という中世フイレンツェ共和国の基本法の翻訳を手掛けています。家族は「ボケ防止にはいいかもね」などといやなことを言っています。皆さんのご活躍を祈ります。



日々を送れることの幸せを、瞼に閉じて一人今更ながら思う」とご挨拶があり、久しぶりに会う、教え子たちの懇談も盛り上がり、先生を囲む楽しいお祝いの会になった。

なお、今回の催しには藤田観光の森川典雄チーフマネージャー（34）の協力があった。

酒井亮介（15）

中村九一郎先生傘壽祝賀会

中村九一郎ゼミOB会

中村九一郎ゼミ卒業生におかれましては各界で、ご活躍のことと存じます。この度、中村先生の傘壽を、お祝いして95年11月23日に京都の「平新」にて「傘壽祝賀会」を開催いたしました。当日は先生の歯に衣を着せぬ講話を頂戴し、奥さまと同伴され、お元気な姿を拝見いたしました。今回は各年度卒業の「九一会」合同のゼミOB会として開催したので40名の参加があり、年齢を超えてそれぞれの思い出やエピソードを夜おそくまで語り合い、また会う日を約束して無事終了いたしました。ご出席の皆さまどうもありがとうございました。なお当日の先生の講話を中心として「九一傘壽記念誌」を作成したので、入手を希望される方は中村恵信宛（〒660尼崎市西難波町3-4-14　TEL06-418-8760）に申し込んでください。実費にて送付いたします。



倉春会　20回目の集い

倉辻ゼミOB会

倉辻平治先生のゼミ生が年代を超えて交流を深め、同窓の友として共に情報交換を図り、経大OBとして社会に貢献しようとの趣旨で発足したのが「倉春会」です。

倉辻先生を中心に、青春の想いをいつまでも大切にしようとの願いをこめて名付けられ、現在も盛会を催しうるのは、誠にありがたいことです。

『澱江』をご覧の倉辻ゼミOBの皆さま、来夏の倉春会にぜひご参加ください。先生は毎回ご出席され、時には特別講義?を開いてくださいます。拍手あり、笑いあありの楽しいひとときです。

毎年7月第2土曜日夕方6時、大阪梅田の新阪急ビル12階レストランパレスでお会いしましょう。

吉村元伸（40）

秋のキャンパスにて

松村幸一ゼミOB会

昨秋11月3日、同窓会総会に便乗して、ゼミ同窓会を大学構内で開催しました。20数年ぶりに阪急上新庄に降り立つと通いなれたはずの通学路が分かりません。迷いながらやっとキャンパスにたどりつくと、やはりそこは変わることなき我が母校。新しい建物がいくつかあるものの、どこを眺めても若き日の思い出が懐かしく蘇るのでした。

50周年記念館のゼミ教室を会場に、ケーキとお茶で楽しいひとときを。今回は1期下の同窓生2名も参加してくれました。

久しぶりのキャンパスをみんなで散歩すると、時あたかも大学祭の真最中。「僕らのころはこんなたくさん女子学生はいなかったね」と少々悔し顔の一同。松村先生の研究室での楽しい談笑で気分はすっかり大学生！定例6月の同窓会での再会を約して、暮れゆく秋のキャンパスを後にしました。

大森俊次（40）

■トピックス

TOPICS

スウェーデン留学生とともに



マルクス・ワルマルク
1970年生まれ
英語、仏語、中国語堪能。
趣味はゴルフ、ギター、盆栽。
（7月16日ポルトガル経由で帰国）

ひろこ・かどわき
1973年生まれ
英語堪能。
趣味はテニス、音楽。
（8月下旬帰国）

東アジアの留学生は文化的にも日本に近いから我々も身構える必要はないが、スウェーデンの学生を受け入れるとの話を聞いてあれこれと気をもんだ。スウェーデンからは初めてだったので、特に学生部としてはついつい十分な滞在費をもってきているであろうか、ホームステイ先でつつがなく過ごしてもらえるだろうかと心配した。学事課の水谷君、教務部の水野さんの入国関係諸手続きのおかげで、ようやく来日。

日系のひろこさんは親戚に身を寄せることになり、マルクス君がホームステイとなった。

以前にホームステイ生活がうまくいかず、こじれた話を聞いていて心配したが、幸いにもホームステイ先から一つの苦情や相談もなかった。実際、問題がなかったといっても生活スタイルが違う外国人を引き受けたのだから生活上の小さなできごとはあり、ホームステイ先に感謝している。

２人との意思疎通には日本語が時々役立たず、私のいいかげんな発音の英語を織りまぜ、なんとか切り抜けた。日本での生活を通して徐々に２人の日本語の力は上がってきたが、やはり４カ月では無理だったようだ。

彼らは最初、生活スタイルが分からず、少しおどおどしていたが、しだいに生活にも慣れ、いろいろな事物や場面に出会い「日本を学び楽しんだ」ようである。

また、自分の大学と比べて本学をどう思ったかは知らないが、教室で、図書館で、情報センターで学び、スポーツクラブで、多くの友人に出会ったようである。

４カ月という短い日本生活ではあったが、２人は、帰国後これを機会に、大きく飛躍すると信じている。

ただ、彼らの期待に私が十分応えた自信はない。第２のマルクス君、ひろこさんの期待に応えられるであろうか。

学　歌

作詞　秋本吉郎
　　（元本学教授）
作曲　故 柴田南雄

1．大淀の　水は春ゆく
　ゆたかな春だ
　芽立つ葦原　緑が沁みる
　この若さ
　希望は明るい　蒼穹かけて
　永遠の青春　みなぎる学園
　大阪　大阪経済大学

2．大樟の　蔭は裕々
　夏風そよぐ
　学徒師弟が　幹負いもちて
　諸汗に
　確かと植えた　融和の象徴
　繁れ自由の　花さく学園
　大阪　大阪経済大学

学園歌

作詞　黒正 巌
　　（昭和高商初代校長）
作曲　水野康孝
　　（元本学教授）

1．商都の東北澱江に
　臨みて高く聳り立つ
　我等が昭和学園は
　産業日本を双肩に
　担うて進む若人の
　力の糧の広野原

2．一千余年の其の昔
　大隅の宮の在りませし
　聖き跡の学園は
　忠孝日本を心肝に
　銘して学ぶ若人の
　教えの道の元標

3．黒煙天をひた蔽い
　船車どよもす八衢を
　静かに臨む学園は
　科学日本の究明に
　生命を注ぐ若人の
　心の花の咲く園生

逍遥歌

作詞　中村行男
　　（16回卒）
作曲　松川圭一
　　（15回卒）

1．此処　城北に迎えたる
　紺碧淀の春の夢
　惜春の賦のただよえば
　薫風静かに流れ来て
　逝きし苦節の十余年
　歴史は吾等に教うなり

2．水や濁れる人の世に
　真理求めて遊ぶ子の
　友愛久遠に変るまじ
　汝が悲しみに我は泣き
　吾が喜びに君や舞う
　惜しみて励め我が青春を

3．踏めば小草も柔き
　弥生の庭に集い来し
　我が学舎の乙女子は
　生命新たな此の曲に
　花咲く野山花の下
　声美しく歌うかな

でんこう
澱江
1996

■発行日　1996年12月20日
■編　集　同窓会広報部
■発行所　大阪経済大学同窓会
　〒533　大阪市東淀川区大隅2-2-8
　電話(06)328-2431
■印　刷　凸版印刷株式会社
　〒553　大阪市福島区海老江3-22-61
　電話(06)454-3256

お知らせ　事務局

本部役員一覧表

1996・11・20現在

役職	氏名	卒回
会長	萩原　市郎	10
常任相談役	磯野　一斉	3
常任理事	玉岡　浩	12
〃	前田　悦子	13
〃	上野満里子	14
事務局長	陰下　嘉典	16
常任理事	太田　一澄	17
副会長（総務・財務担当）	水納　敏也	25
組織部長	白井　正幸	26
常任理事	車野　修三	27
〃	平尾　哲男	28
副会長	津秋　靖博	29
（組織・広報担当）	神田　博	30
組織部副部長	中村　敏啓	31
財務部副部長	波根　伸俊	32
広報部長	森　政彦	33
常任理事	大西　健介	35
財務部長	福元　輝雄	37
総務部長	梶村　貞男	37
総務部副部長	大門　由秀	46
広報部副部長	渡辺　達好	3
名誉会長	山上　善彦	2
顧問	長岡　辰生	5
〃	南部　俊一	9
〃	桑津　昇	11
監事	長尾　晃	8
〃	植村　祐三	32

異動のあったときはただちにご連絡ください。

●住所変更　●呼称変更
●勤務先変更　●所属部課異動
●役職異動　●電話番号変更

などの場合は、同封してあります「名簿作成調査表」をご利用のうえ、本部へお届けください。

とくに、官公庁、金融機関、損保関係、国公立学校にご勤務の会員のご協力をお願い申しあげます。

コンピュータシステムの名簿をご利用ください。

同窓会会員名簿は、現在、同窓会独自でシステム化したコンピュータによる管理体制を採用しておりますので、

1、郵便番号による都道府県
　市町村別会員名簿作成
2、ゼミ別会員名簿作成
3、卒業回数別会員名簿作成
4、クラブ別会員名簿作成
5、業種別会員名簿作成
6、封筒用漢字ラベル作成

などのアウトプットが可能です。

澱江　購読料のお願い

「自らの購読料で、　澱江　を育てよう！　1、000円にご協力を！」を合言葉に、昭和59年度からスタートしました澱江購読料は、お陰さまで深いご理解とご協力をいただき、感謝いたしております。

われわれ編集子一同は、この力強いご声援に応え、親しまれる　澱江　を目指し、一ふんばり、二ふんばり頑張っておりますので、引き続き購読料へのご協力のほど、よろしくお願いいたします。（ご送金は、同封の振込用紙をご利用ください。郵便局をご利用になれば振込手数料は不要です）

■ご注意■

最近皆さまのお手元に、複数の出版社等から、大阪経済大学同窓会名簿の制作に当たってという名目で、調査カード並びに購入の勧誘が届いていることと思います。この件についてさまざまなお問い合わせが寄せられていますが、同窓会本部とは一切関係がありません。

ご承知おきくださいますようよろしくお願い申しあげます。

編集後記

▼広報委員会の仕事は今年で7年になる。独身時代、会議で食事が出るので悪くない役目だった。結婚して、仕事以外のお手伝い業務が好きねと妻にチクリ。そして、来年は家族が一人増えることに…。

▼もうすっかりおなじみになった〝ホットインタビュー〟。経大ＯＢの活躍分野の広さにはいつも感心しています。ふだんはなかなかお目にかかれない方々の話をきくことができるのも役得というものでしょうか。

▼最近特集やホットインタビュー等で、諸先輩に会う機会を頂き、感謝しております。今後とも御指導のほどよろしくお願い致します。

▼末筆ながら、多数のご投稿ならびに取材にご協力いただいた方々に心より感謝いたします。


KEIDAI
OSAKA